

宮崎県総合博物館

年報

平成30年度

No. 48

はじめに

本館は、昭和 26 年に宮崎県立博物館として開館して以来、昭和 46 年の総合博物館としての組織拡充や、翌昭和 47 年からの民家園の整備、平成 10 年の常設展示室の増設をはじめとした本館のリニューアル、平成 17 年度からの常設展の無料化などを行いながら、時代の変化や県民の多様化する知的好奇心に対応した展示や多彩な教育普及活動を展開してきました。

このような中、平成 30 年度の特別展としては「むしムシ虫展」をはじめ「第 38 回 S S P 展（日本自然科学写真協会写真展）」、「日向国の明治維新展～戊辰戦争から西南戦争まで～」を開催しました。特に、夏休み期間中に開催した「むしムシ虫展」は、宮崎昆虫同好会をはじめとする様々な機関や個人から協力を得て、ヘラクレスオオカブトに実際に触れることができる「カブトムシの森」や、おしゃれ虫として話題の「きらめく昆虫」の標本など多くの資料を展示し、「見る」・「聞く」・「触れる」といった五感を通じて昆虫の形態や生態などの体感学習の場を提供しました。開催期間中は、関連の講座や講演会、イベントも開催し、約 5 万人の方々に観覧いただきました。開催に御協力、御支援いただきました関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

その他、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとにした博物館講座や、展示解説員による展示解説、クイズラリー、紙芝居、むかしのあそびなど各種催しに対し県内外の幅広い年齢層の方々に参加・活用いただきました。

さらに、地域に出向き本館の活動を紹介する「どこでも博物館」事業は 4 年目を迎え、輸送手段に大型トラックを用いることで、大型の資料や重量のある資料も展示紹介するなど、本館を訪れる機会の少ない遠方の方々により充実した収蔵資料の解説や触察体験を実施することができました。

また、本館の東側に位置する民家園において、文化財の「保護と活用の両立」の観点から、広く県民の民家園に対する理解を促進するために、民家園を活用した伝統文化や民俗の伝承などの事業の募集を行うことにしました。

今後も引き続き広く県民の声を伺いながら、学校や各種団体と十分な連携を図り、県民の皆さまの楽しく開かれた生涯学習の場としての役割を果たしていけるよう、魅力ある事業と効果的な広報活動を展開して参りたいと考えておりますので、なお一層の御指導と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成 31 年 4 月 1 日

宮崎県総合博物館

館長 黒木 義博

《 目 次 》

はじめに

I	基本理念と活動方針	1
1	基本理念	1
2	活動の基本方針	1
II	本館の概要	2
1	本館のあゆみ	2
2	組織・予算・施設	3
(1)	組織	3
(2)	予算	3
(3)	施設	4
3	第2期中期運営ビジョン（平成27年度～31年度）	6
III	事業の実施状況	14
1	調査研究	14
(1)	調査研究の基本的な考え方と目標	14
(2)	個別テーマ調査研究	14
(3)	水系別総合調査研究	16
(4)	調査研究報告会	17
(5)	基礎研修	18
2	資料の収集・保存	19
(1)	資料の収集	19
(2)	資料の整理・登録	22
(3)	資料の保存	23
(4)	資料の修復	23
3	展示	24
(1)	常設展示	24
(2)	特別展示	28
(3)	エントランス展示・ロビー展示	33
(4)	民家園	35
(5)	利用状況	36
4	教育普及	49
(1)	学校教育支援	49
(2)	展示解説員による普及活動	52
(3)	博物館講座	55
(4)	民家園を活用した普及事業	58
(5)	「どこでも博物館」事業	61

(6) 関係機関との連携	6 2
(7) 福祉施設との連携	6 7
(8) レファレンス対応	6 7
(9) 県内研究団体の発表会	6 8
(10) 博物館友の会の活動支援	6 9
(11) 研修室の利用	7 1
IV 情報発信及び経営	7 3
1 情報発信	7 3
(1) 広報推進委員会	7 3
(2) 博物館だより「森の通信」の発行	7 3
(3) ホームページの運用	7 4
(4) 博物館カレンダーの作成	7 4
(5) 県広報紙等への掲載	7 5
(6) その他の広報	7 9
2 経営	8 2
(1) 来館者のアンケート調査	8 2
(2) 職員の資質向上	8 4
(3) 危機管理	8 4
(4) 県内にある博物館等との連携	8 6
V 宮崎県博物館協議会	8 7

[参考資料]

1 平成 30 年度 日誌 (抄)	8 9
2 博物館の沿革	9 1
3 第 2 期中期運営ビジョン評価表 (平成 29 年度分)	9 7
4 県総合博物館関係法規	1 0 2
(1) 宮崎県総合博物館条例	1 0 2
(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例 (抄)	1 0 2
(3) 宮崎県博物館協議会条例	1 0 3
(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	1 0 4
(5) 宮崎県総合博物館処務規程	1 1 3
(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	1 1 3
(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用	1 1 6

I 基本理念と活動方針

1 基本理念

(1) 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館

宮崎の自然史、歴史の資料を展示し、本県の教育や文化の発展に寄与する。

(2) 魅力ある開かれた博物館

県民のだれもが参加でき、楽しく学び、豊かな心を育てる。

(3) 研究を大切にする博物館

学術的な調査研究や積極的な資料収集を通して、新しい展示と情報の提供をする。

(4) 文化財や自然の保護に寄与する博物館

宮崎の自然史や歴史の資料を保管するとともに、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

2 活動の基本方針

(1) 調査研究

宮崎の自然史や歴史について、長期的展望にたつて調査研究をすすめ、その成果は研究紀要や調査報告書にまとめ、展示や普及活動に生かすとともに、他の博物館、教育機関、研究機関と連絡を密にして情報の交換を行う。

(2) 収集保存

宮崎の自然史や歴史について、一次資料に限らず二次資料を含め、計画的かつ長期的な視野にたつて収集する。収集した資料は、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。

(3) 展 示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」をテーマに、実物資料・レプリカ・模型などで新鮮で分かりやすい展示を行い、県民の幅広い層に対応できる学習の場となるよう工夫する。特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も計画する。

(4) 教育普及

学校や他の教育機関等と連携を保ちながら、児童・生徒をはじめ県民の幅広い層に向けて講演会・見学会・各種講座等を開催し、学習や研究の場を提供する。

Ⅱ 本館の概要

1 本館のあゆみ

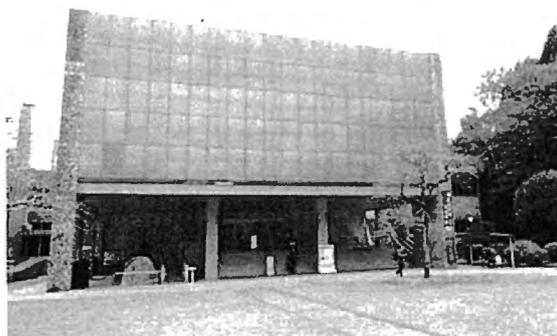
宮崎県総合博物館は、昭和26年に設立された「宮崎県立博物館」を前身とし、昭和46年に明治百年記念事業に伴う整備事業により、考古・歴史・民俗部門に自然と美術部門を併せ持ち、県民文化ホールを併設した総合博物館として現在の地で開館した。

また、昭和47年から昭和53年にかけて、本館東側に、県内に残っていたその地域独特の建築様式を持ち文化的価値の高い民家4棟を移築復元して「民家園」として整備しており、これにより現在運営している敷地内の施設レイアウトが概ね完成した。

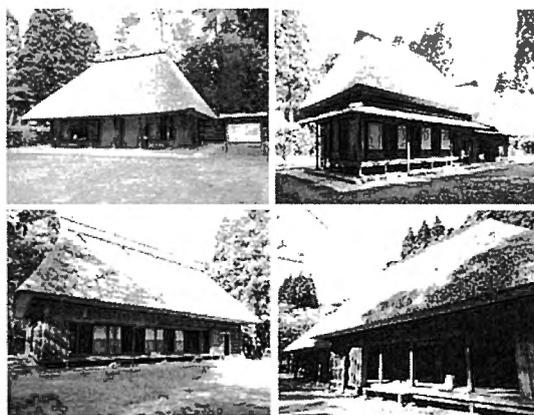
それから四半世紀が経過し、常設展示内容の一新の必要性、生涯学習の場としての教育普及施設としての位置づけ、さらに美術部門の分離独立構想などにより再編整備の必要性が出てきたことから、平成5年から見直しに着手し、常設展示室を中心とする大幅なリニューアル工事を施した後、平成10年5月に、21世紀に向けた文化施設にふさわしく、また楽しく開かれた体験型の博物館としてリニューアルオープンした。

この間、平成7年10月に、置県百年事業である県総合文化公園建設の一環として「県立美術館」が建設されたのを受けて、本館から美術部門が分離独立し、平成8年4月に、大規模開発に対応する発掘調査の拡大の中で、「県埋蔵文化財センター」が本館から分離独立した。また、本館の構成施設であった「西都原資料館」が平成15年9月末に閉館し、平成16年4月開館の「西都原考古博物館」に吸収されるとともに、本館構成施設の「西都原古代生活体験館」も同博物館に移管されるなどの組織改編が行われた。

その後、平成17年4月からの常設展の無料化や、平成19年3月の県民文化ホールの閉館を経て、平成21年度に、多様化する県民ニーズを踏まえ博物館事業を効率的かつ効果的に展開していく観点から、今後5カ年間の運営指針となる「中期運営ビジョン(H22-H26)」を策定し、そのビジョンに基づき、平成22年度から本県の特徴ある自然や歴史・民俗についての調査研究や、その成果を広く展示や多彩な教育普及活動に活かすなど各種事業を総合的かつ計画的に展開しており、現在は2期目の運営ビジョン(H27-H31)に基づき事業展開を図っている。



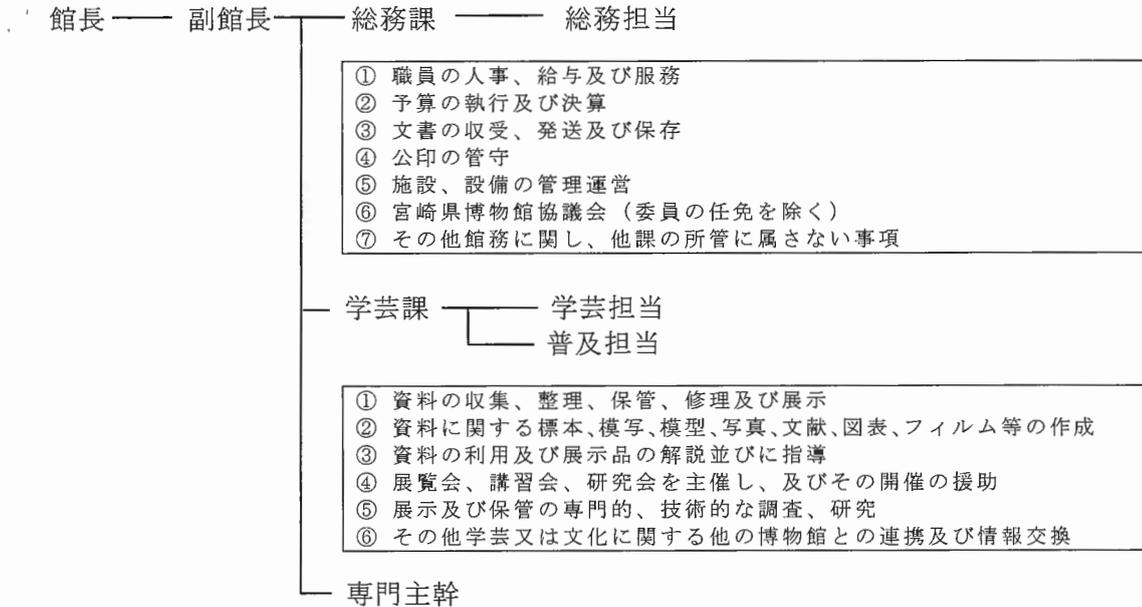
本館



民家園

2 組織・予算・施設

(1) 組織



【平成 30 年度職員】

職名	氏名	職名	氏名
館長	黒木 義博	学芸課 (兼) 課長	糸木 郁朗
副館長	糸木 郁朗	学芸課主幹	松田 清孝
専門主幹	向井 大蔵	学芸担当リター	野添 和洋
		副主幹	中山 貴義
総務課 課長	緒方 洋	主査	外山 真樹
総務担当リター	吉留 幸二	主査	濱田 真理
主事	丸目 清美	主査	長津 宗重
主事	長嶺 早苗	専門主事	黒木 秀一
		普及担当リター	佐藤 省吾
		主幹	岩切 勝彦
		主査	竹下 隼人
		主査	
		主査	

(2) 予算

【平成 30 年度当初予算： 150,640 千円】

ア 博物館費： 129,056 千円

- ・ 博物館協議会費 (177 千円)
- ・ 学芸員養成・研修 (269 千円)
- ・ 管理運営費 (127,698 千円)
- ・ 博物館設備充実事業 (912 千円)

イ 博物館教育普及費： 15,452 千円

- ・ 特別展費 (14,460 千円)
- ・ 博物館講座等 (992 千円)

ウ 博物館資料整備費： 4,912 千円

- ・ 調査研究費 (1,134 千円)
- ・ 館蔵資料緊急保存修復 (991 千円)
- ・ 資料収集費 (2,787 千円)

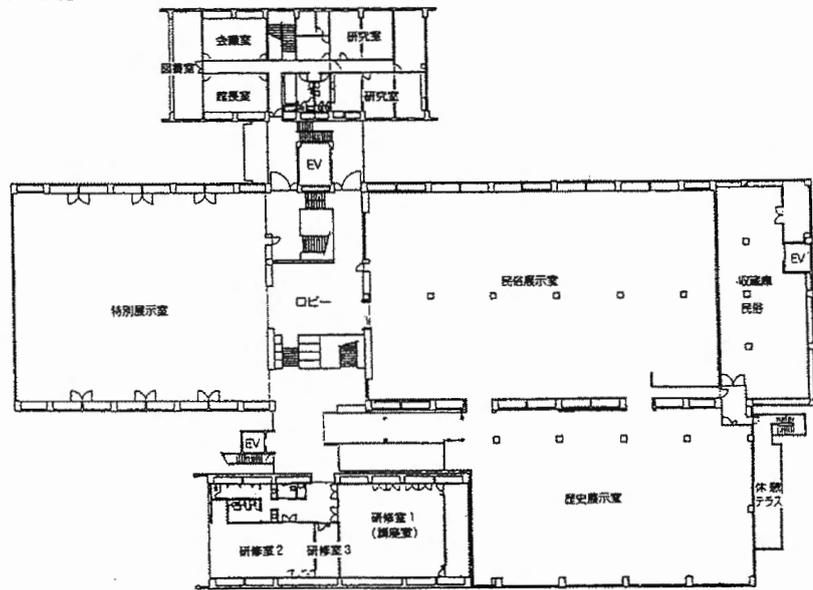
エ 文化財保護顕彰費： 1,220 千円

- ・ 神楽のユネスコ無形文化遺産！県民応援事業 (241 千円)
- ・ 博物館がやってくる！文化財活用推進事業
- 「どこでも博物館充実事業」 (979 千円)

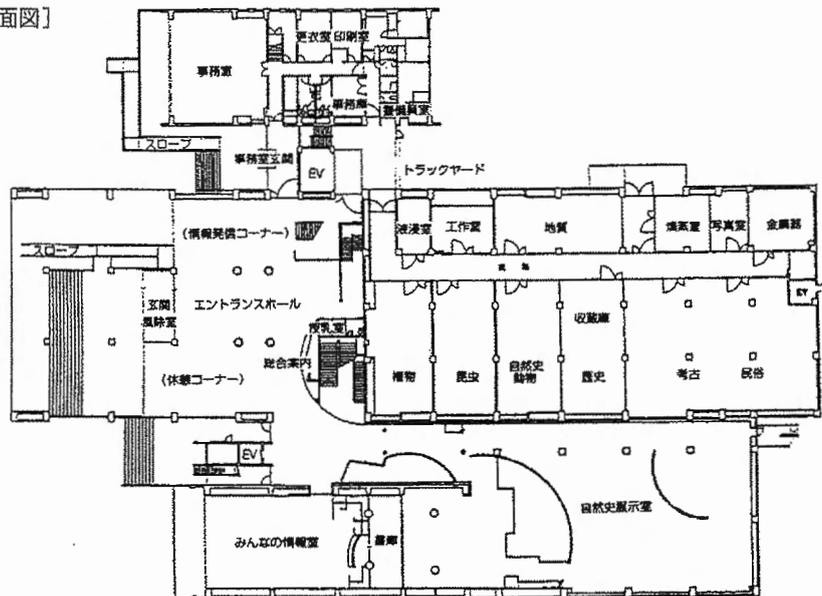
(3) 施設

① 本館			
○ 構造	鉄筋コンクリート2階建		
○ 規模	建築面積	4,122.29 m ²	
	延床面積	7,366.74 m ²	
施設	常設展示室	2,645.80 m ²	
	(自然史展示室 :	844.20 m ²)	
	(歴史展示室 :	767.70 m ²)	
	(民俗展示室 :	1,033.90 m ²)	
	特別展示室	751.68 m ²	
	その他(収蔵庫・事務室等)	3,969.26 m ²	

[2階平面図]

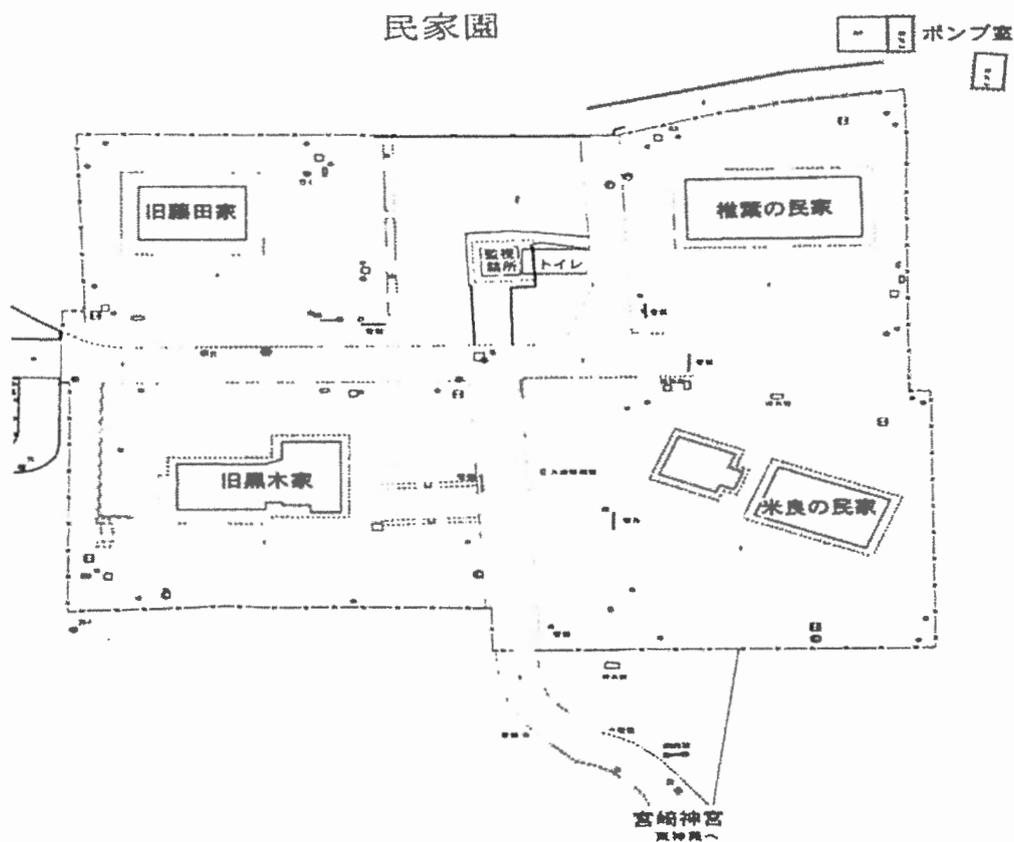


[1階平面図]



② 民家園	
○ 構造	木造平屋建寄棟造 茅葺 (4棟)
【国指定重要文化財】	
① 旧藤田家住宅	90.44 m ²
② 黒木家住宅	131.88 m ²
【県指定文化財】	
③ 米良の民家 (本屋: 78.37 m ²) (馬屋: 31.76 m ²)	110.13 m ²
④ 椎葉の民家	137.97 m ²
③ その他	
○ 屋外トイレ	70.19 m ²
○ ポンプ室	24.78 m ²
○ 詰所	13.25 m ²

(出典: 「公有財産台帳」)



3 第2期中期運営ビジョン（平成27年度～31年度）

(1) ビジョン策定の目的

宮崎県総合博物館は、昭和26年4月1日に設置された宮崎県立博物館を前身として、昭和46年3月に自然史及び人文系の総合博物館として開館した。その後、平成10年にはリニューアルを行い、広く本県の教育、文化の向上に寄与するため、資料収集・保存、調査研究、展示及び教育普及活動を展開し、学校、各種団体等との連携を深めるとともに展示解説員の配置や常設展示を無料化するなど、利用促進に取り組んでいる。

このような中、平成22年度から平成26年度までを第1期とした宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定し、目標達成に向けて事業を展開してきたところであり、今後とも、県内博物館の中核施設としての機能や教育機関としての機能を発揮し、宮崎県の自然や歴史に対する生涯学習や学校教育の多様なニーズにこたえる博物館であるために、また、事業の総合的・計画的な推進を図るための運営指針とするため、新たに第2期宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定するものである。

(2) ビジョンの期間

ビジョンの期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とする。

(3) ビジョンの基本的考え方

県民とともにある博物館を目指すために、次の4項目をビジョンの基本的考え方とする。

- ① 郷土の調査研究を大切にする博物館
- ② 魅力ある開かれた博物館
- ③ 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館
- ④ 文化財や自然の保護に寄与する博物館

(4) 博物館運営の基本方針

ビジョンの基本的考え方の下、次の4項目を博物館運営の基本方針とする。

① 調査研究

宮崎県の自然、歴史、民俗について、フィールドワークを重視し、総合的・広域的な視野に立って、他の博物館、教育機関、研究機関等と連携を密にして情報交換を行いながら、調査研究を進め、その成果を研究紀要や調査報告書にまとめ展示等の情報発信や普及活動に生かす。

② 収集・保存

宮崎県の自然、歴史、民俗に関して、一次資料（実物資料）に限らず二次資料（複製物等）を含め、地域の人々の参加と協力の下で、体系的・継続的に収集する。

収集した資料及び未整理資料については、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収集資料に関する情報を提供する。

③ 展示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」を主題に、幅広い層の県民に対して、興味と学習意欲を喚起するように、定期的に見直しを行う設定テーマに従って、「テーマ展示コーナー（仮称）」を設け、実物資料、レプリカ、模型などで分かりやすい展示を行う。

特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も積極的に開催する。

④ 教育普及

児童生徒をはじめ、県民の幅広い層の学校教育や生涯学習の場として、楽しく自由に学べる講演会・見学会・各種講座等を開催するとともに、相談体制機能を充実強化する。また、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

(5) 実施方針

(4)の基本方針を踏まえて、事務事業を推進するにあたっての方針は次のとおりとする。

① 調査研究

- ・ 調査研究は、博物館事業の根幹をなす重要な活動であることから、引き続き重点的に取り組む。
- ・ 資料の内容に関する学術的な調査研究のみならず、技術的な研究も実施する。
- ・ 県内外の研究者と積極的に交流を行う。

1) 調査研究方針・計画

各学芸員が専門性を生かした研究テーマを設定し、計画的に調査・研究を行う。

年間計画に対する達成率	100%
-------------	------

2) 調査研究成果の公表

研究成果については、展示や教育普及活動等に生かすとともに広く県民に公表する。

研究紀要の発刊	年	1回
調査研究報告会	年	1回

② 収集・保存

資料の収集・保存は博物館の最も基本的な業務である。県民共有の貴重な資料を次世代に伝えるため、宮崎県の自然や歴史に関する資料を広く収集し、整理・保存の上、館内外の活動への活用を図る。

1) 収集・管理

- ・ 資料は、基本方針に基づき短期的・長期的展望にたつて、寄贈、寄託、購入、採集、委託、提供等、各部門にふさわしい方法で積極的な収集に努める。ただし、寄贈等については、館内の資料受入委員会の審議を経て収集する。
- ・ 資料は、展示、調査研究、教育普及の博物館活動の充実を図る観点から、分野のバランスを考慮し継続的に収集する。
- ・ 関連書籍や文献・デジタルデータ等を収集し、調査研究機関としての機能充実を図る。
- ・ 収集資料（未整理資料を含む）の整理・登録を行い、データベース化を進めるとともに、デジタルミュージアムへの登録を随時行っていく。

資料の収集	2,500点（年平均 500点）
図書・文献の収集	5,000点（年平均 1,000点）
デジタルデータ（写真・映像等）の収集	5,000点（年平均 1,000点）
収集資料の整理・登録	4,000点（年平均 800点）
デジタルミュージアム登録数	1,000点（年平均 200点）

2) 保存

定期的に収蔵庫・展示室を点検し、虫菌害の発生を防ぐ。また、虫菌害の発生を発見した場合は、速やかに適切な処置を施す。

燻蒸	年	1回
簡易燻蒸	年	1回
トラップ調査	年	12回
I P Mウオッチング	年	12回

③ 展示

展示は、見る人に興味を持たせ、発見・驚き・感動を与えたり、豊かな感性を育んだり、自ら学ぶ意欲を育てるなど、博物館を最も特徴づけるものである。県民の幅広い年代の要求に対応するとともに、展示物が身近に感じられるよう利用者の立場に立った展示に配慮する。

また、新たな活用法や積極的な広報活動を行うために、福祉や観光等の関係機関との連携を図りながら利用者の増加に努める。

本館入館者数	80 万人 (年平均 16 万人)
民家園入園者数	25 万人 (年平均 5 万人)

1) 常設展

常設展示は、宮崎県に関する情報発信の場として、自然、歴史、民俗の3部門構成とする。展示資料については適宜見直しを検討し、部分的な展示替えやコーナー展示を行うなど、リピーターも楽しめるよう努める。

展示替等回数	年 5 回
--------	-------

2) 特別展

特別展示は、学芸員の調査研究の成果をまとめた独自の企画展や、県民のニーズを参考に学術的意義を踏まえながら国内外の巡回展を開催する。

実施回数	年 3 回
------	-------

3) ロビー展

本館エントランスロビーを活用し、時機を得た多様な展示やトピック展示を行い、県民の知的欲求に対応した情報提供に努める。

実施回数	年 12 回
------	--------

4) 民家園

民家園4棟(国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟)の活用を進め、入園者増を図る。

④ 教育普及

宮崎県の自然や歴史、更に伝統文化に対する理解を深めるために、展示活動に加えて学習機会を提供する。また、学校や教育機関等との連携を図り、博物館機能の充実及び利用促進に努める。

1) 学校教育支援

平成20年に改正された学習指導要領では、教育基本法等の改正で明確となった理念を踏まえて、「生きる力」を育成することが重要視され、博物館が果たすべき役割に期待されている。そのため、学校教育を積極的に支援する。

- ・ 積極的に学校に資料を貸し出す。
- ・ 積極的に学校の授業支援を行い、博物館資料と教科等との関連資料を作成する。
- ・ 生徒の職場体験活動を受け入れる。
- ・ 教育研修センター等と連携し、教職員研修の場としての活用を図る。

学校受入校数	年 200 校
資料貸出し	年 10 校
授業支援	年 10 校
職場体験受入れ	年 5 校
職員研修受入れ	年 5 校

2) 展示解説

利用者の理解を深めるために、展示室に「展示解説員」を配置し、時代背景等分かりやすく関心を持たせるよう資料の解説を行う。

また、専門的知識を持つ学芸員は、学術的な解説を行う。更に、より深く学習を望む利用者には、

関係機関の情報を提供するなど学習意欲を喚起させる。

なお、解説に際しては、個人、団体を問わず、資料提供地域に重点をおいた解説に考慮するなど、利用者の興味や関心を引き出すよう配慮する。

実施人数	年 10,000 人
------	------------

3) 博物館講座等

博物館講座や特展に関する講座などを開催し、自然や歴史・文化に関する多様な体験・学習の機会を提供する。また、県央地区以外でも講座を開催（地域講座）し、多くの県民が講座に参加できるようにする。

主催講座(地域講座含む)	年 30 回
地域講座	年 10 回
受講者数	年 1,500 人

4) 民家園の活用

民家園の利活用を推進するため、特性を生かしたサービス活動を充実させる。また、民家園の理解促進を図る観点からボランティアの活動の充実を図る。

民家園まつり	年 1 回
伝統芸能公演	年 1 回
宮崎の昔話公演	年 10 回
その他の催事	年 6 回

5) 関係機関との連携

宮崎県の中核博物館として、県内外の博物館や資料館、研究機関等との連携を図るため、職員の派遣・招聘、資料の貸し借り、研究会への参画、共催事業の開催など積極的に対応する。

職員の派遣・招聘 資料の貸し借り 研究会への参画 共催事業 等	年 20 件
--	--------

6) 博物館と福祉施設との連携

回想法などの取組を通して社会福祉施設等との連携を図る。

施設受入件数	年 200 件
--------	---------

7) レファレンス対応

県民の知的要求に応えるためには、来館者のみならず電話やメールでの相談に応じることは重要である。日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも、何にでも相談にのれる博物館」としての定着を図る。

相談件数	年 1,000 件
------	-----------

8) 研究発表会の開催

自然や歴史に関する調査研究の中核施設として、研究団体や研究者の研究活動の支援を行うとともに、県民に学習の機会を提供し、自然や歴史の関心を高めるための研究発表会を開催する。

研究発表会	年 1 回
-------	-------

9) 博物館友の会との連携

博物館活動の支援を目的として自主活動している「博物館友の会」については、講師の派遣や活動の補助に努めるとともに、互いの活動の充実を目指し連携を図る。

講師派遣(博物館→友の会) 講座の支援(友の会→博物館)	年 5回
---------------------------------	------

⑤ 情報発信

博物館活動を充実させるためには、利活用の促進が重要である。そのため、館内での「広報推進会議」で、広報効果の検証や検討を随時行いながら、情報発信機能を強化する。

1) 情報発信の充実

博物館の展示会や講座等のみならず、博物館に関するあらゆる情報を、広報紙をはじめ様々なメディアを通じて積極的に発信する。

広報紙発行	年 2回
報道処理・情報提供件数	年 120件

2) ホームページの充実

インターネットによる情報発信を推進するため、ホームページによる適時の情報提供に努める。

更新回数	月 5回
アクセス数	年 500,000件

⑥ 経営

博物館は教育機関であるとともに、サービス機関であることを念頭に置き、全職員が「おもてなしの心」を持って利用者に対応するとともに、研修の充実等により職員の資質向上を図る。

1) 博物館協議会や県民の意見の尊重

博物館の運営に関し内部評価を実施し、宮崎県博物館協議会から意見を聴取する。また、来館者のアンケートや利用者の電話等による様々な意見を真摯に受け止め、より良いサービスが提供できるよう努める。

アンケート収集件数	年 2,000件
満足度	70%

2) 職員の資質向上

職員が博物館の社会的役割を自覚し、宮崎県の「自然や歴史に関する唯一の総合博物館」としての機能の充実・向上を図るために、研修機会の確保に努める。

3) 危機管理体制の強化

地震等の自然災害や火災・病人発生等の危機に対して迅速に対応するため、防災訓練を実施するなど危機管理体制の強化を図る。

防災訓練	年 2回
------	------

⑦ その他

1) ビジョンの見直し

本ビジョンは本県財政計画の変更や組織改編などの財源や定数等に変更が生じた場合には、必要に応じて見直すものとする。

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

4:指標を大きく上回った 3:指標を達成できた 2:指標をやや下回った 1:指標を大きく下回った

方針	項目	評価指標		評価基準				評価				総合
				4	3	2	1					
① 調査研究	1)調査研究方針・計画	達成率	100%	6部門すべてにおいて実施でき、更に大きな成果を上げた部門があった。	各部門において概ね計画通り実施できた。	一部の部門で実施できなかった、または内容が十分ではない部門があった。	全体的に十分な調査が行えなかった。	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
	2)調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	多くの論文が掲載された。またその内容も本県の自然・歴史・博物館学の解明に非常に大きく貢献するものであった。	多くの論文が掲載された。またその内容も本県の自然・歴史・博物館学の解明に貢献するものであった。	多くの論文が掲載されたが、本県の自然・歴史・博物館学の解明に貢献するものはやや少なかった。	論文数も少なく、本県の自然・歴史・博物館学の解明に貢献するものではなかった。	4	3	2	1	
		調査研究報告会	年1回	報告者、参加者とも大変多く、報告内容も大変充実し所期の目的以上に達成できた。	報告者、参加者とも多く、所期の目的を十分に達成できた。	報告者、参加数ともに少なく、所期の目的を十分に達成することができなかった。	実施しなかった。	4	3	2	1	
② 収集・保存	1)収集・管理	資料	2,500点	資料・図書文献・デジタルデータ・資料の登録・デジタルミュージアム登録が年間4,000点以上で、資料の登録数は収集資料数を300点以上上回るとともに、非常に貴重な資料を収集した。	資料・図書文献・デジタルデータ・資料の登録・デジタルミュージアム登録が合計3,500点程度で、資料の登録数は収集資料数を300点以上上回った。もしくはややそれ以下だが、非常に貴重な資料を収集した。	資料・図書文献・デジタルデータ・資料の登録・デジタルミュージアム登録が合計2,500点以上。もしくはややそれ以下だが、貴重な資料を収集した。	資料・図書文献・デジタルデータ・資料の登録・デジタルミュージアム登録が合計2,500点未満で、特筆するような資料はなかった。	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
		年平均	500点									
		図書・文献	5,000点									
		年平均	1,000点									
		デジタルデータ	5,000点									
		年平均	1,000点									
		資料の登録	4,000点									
	年平均	800点										
	2)保存	燻蒸	年1回	すべての評価指標を達成した。もしくは達成できなかったが他の方法で確実に補った。その他において虫菌害が発生する危険性を著しく抑制した。	すべての評価指標を達成した。もしくは達成できなかったが他の方法で確実に補った。その他目視など日常的な点検も丹念に実施し虫菌害の発生を抑制した。	いくつかの目標値は達成できなかったが、収蔵庫の燻蒸など重要な部分は実施した。日常的な点検も実施した。	収蔵庫の燻蒸も行わず、その他の防除対策も十分ではなかった。	4	3	2	1	
		簡易燻蒸(殺虫処理)	年1回									
トラップ調査		年12回										
IPMウォッチング		年12回										
③ 展示	入館者数	本館入館者数	80万人	18万人以上	16万人以上	10万人以上	10万人未満	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
		年平均	16万人									
		民家園入館者数	25万人	6万人以上	5万人以上	4万人以上	4万人未満	4	3	2	1	
	1)常設展	展示替等回数	年5回	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年5回以上の展示替等を実施した。また、県民や利用者の幅広い年代の要求に対応し、展示物が身近に感じられるよう観覧者の立場に立った効果的な展示を行うことができた。	年間の展示計画を策定し、年5回の展示替等を実施し、新たな情報発信を行った。	展示内容の見直しや展示替を3回以上の実施となり、目標には達しなかった。	展示内容の見直しや展示替は3回未満の実施で目標を大きく下回った。	4	3	2	1	
		2)特別展	実施回数	年3回	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。また入館者数も多くアンケート等からも極めて高い評価を得た。	中期的な展示計画や年間の展示計画を策定し、年3回以上実施した。アンケート等からも一定の評価を得た。	年3回の展示会を実施したが、評価が行われなかった。	十分な展示会が実施できなかった。	4	3	2	
	3)ロビー展	実施回数	年12回	16回以上行った。	12回以上行った。	8回以上行った。	8回未満であった。	4	3	2	1	

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

4:指標を大きく上回った 3:指標を達成できた 2:指標をやや下回った 1:指標を大きく下回った

方針	項目	評価指標		評価基準				評価				総合
				4	3	2	1					
④ 教 育 普 及	1) 学校教育支援	学校受入校数	年200校	各評価指標の目標値を大きく上回り、学校からの評価も高かった。	各評価指標の目標値を概ね達成できた。	各評価指標の目標値を達成できなかった。	学校教育支援には取り組まなかった。	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
		資料貸出し	年10校									
		授業支援	年10校									
		職場体験受入れ	年5校									
		職員研修受入れ	年5校									
	2) 展示解説	実施人数	年10,000人	15,000人以上	10,000人以上	8,000人以上	8,000人未満	4	3	2	1	
	3) 博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	計30回以上、2,000名以上	計30回以上1,500名以上	計25回以上30回未満1,000名以上	計25回未満1,000名未満	4	3	2	1	
		地域講座	年10回									
		受講者数	年1,500人									
	4) 民家園の活用	民家園まつり	年1回	各評価指標を達成するとともに、ボランティアの育成やボランティア募集を行い、活用体制の充実を図ることができた。	各評価指標を達成するとともに、ボランティアの育成を行うことができた。	いずれかの評価指標が達成できなかったが、ボランティアの育成を図ることができた。	いずれかの評価指標が達成できず、更にボランティアの育成を図ることができなかった。	4	3	2	1	
		伝統芸能公演	年1回									
		宮崎の昔話公演	年10回									
		その他の催事	年6回									
5) 関係機関との連携	職員の派遣・招聘 資料の貸し借り 研究会への参画 共催事業 等	年20件	30件以上	20件以上	10件以上	10件未満	4	3	2	1		
6) 博物館と福祉施設との連携	施設受入件数	年200件	300件以上	200件以上	100件以上	100件未満	4	3	2	1		
7) レファレンス対応	相談件数	年1,000件	2,000件以上	1,000件以上	500件以上	500件未満	4	3	2	1		
8) 研究発表会の開催	研究発表会	年1回	参加団体、発表者、参加者とも多く、本県の自然歴史に大きく貢献する有意義な研究発表ができた。	参加団体、発表者、参加者とも、ほぼ所期の目的を達成できるものであった。	実施したが参加数が少なく、所期の目的を十分に達成することができなかった。	実施しなかった。	4	3	2	1		
9) 博物館友の会との連携	講師派遣 (博物館→友の会) 講座の支援 (友の会→博物館)	年5回	10回以上	5回以上	3回以上	3回未満	4	3	2	1		

【第2期中期運営ビジョン評価基準表】

4:指標を大きく上回った 3:指標を達成できた 2:指標をやや下回った 1:指標を大きく下回った

方針	項目	評価指標		評価基準				評価				総合
				4	3	2	1					
⑤ 情報発信	1)情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回以上、200件以上	2回以上、120件以上	2回以上、80件以上	2回未満、80件未満	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
		報道処理・情報提供件数	年120件									
	2)ホームページの充実	更新回数	月5回	更新回数月8回以上、かつアクセス数1,000,000件以上	更新回数月5回以上、かつアクセス数500,000件以上	更新回数月3回以上、かつアクセス数300,000件以上	更新回数月3回未満、アクセス数300,000件未満	4	3	2	1	
		アクセス数	年500,000件									
⑥ 経営	1)博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	2,000件以上90%以上	2,000件以上70%以上	1,000件以上50%以上	1,000件未満50%未満	4	3	2	1	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
		満足度	70%									
	2)職員の資質向上			職員の研修の機会を広く確保することができ、職員の専門力等を大きく向上することができた。	職員の研修の機会を確保することができ、職員の資質向上を図ることができた。	職員の研修の機会を確保したが、機会の活用が十分ではなく、職員の資質向上にあまりつながらなかった。	職員の研修の機会を確保できなかった。	4	3	2	1	
3)危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	危機マニュアルの整備や防災訓練・防災研修を効果的に実施することができ、危機管理に対する意識を大きく向上させ、体制の強化を行うことができた。	危機マニュアルの整備や防災訓練・防災研修を実施し、危機管理に対する意識向上と体制の強化を行うことができた。	防災訓練・研修を実施したが、危機管理意識の向上が十分ではなかった。	防災訓練・研修の機会を十分に確保できなかった。	4	3	2	1		

Ⅲ 事業の実施状況

1 調査研究

(1) 調査研究の基本的な考え方と目標

① 調査研究の基本的な考え方

当博物館の基本理念及び活動の基本方針に基づき、特に次の点に留意している。

- ア 県民に還元できるものであること。
- イ 本館の設立目標に沿ったものであること。
- ウ 将来展示等に活かされるものであること。
- エ 科学的・客観的なものであること。

② 調査研究の目標

ア 館共通

宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。

イ 分野別

自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。

歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

(2) 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が、研究テーマを年度当初に設定し、単年度又は複数年度で計画的に調査研究を進めている。その成果については、研究紀要で報告するとともに、展覧会に反映させるなど、広く公開している。

① 平成30年度の個別研究テーマ

担当者	部門	研究テーマ	内容	期間
外山真樹	動物	宮崎県内における淡水産貝類の生息分布について	県内の用水路・河川をフィールドとして、特にイシガイ目の分布状況を中心に、淡水産貝類について調査する。	3年
		宮崎県内におけるヤドカリ目の生息分布調査	県内の海岸に生息するヤドカリについて、種の把握を行うとともに、特に天然記念物であるオカヤドカリについて、生息分布を詳細に調査する。	4年
竹下隼人	動物	ササラダニによる環境診断の可能性について	ササラダニの種別生息分布を調べ、実際の環境と比較・調査することで、環境指標生物として利用できるか考察する。	3年
黒木秀一	植物	宮崎平野南部における照葉樹林の菌類相について	宮崎平野南部の菌類相を明らかにし、人里に近い環境に残る本県の菌類多様性の解明を進める。	3年
岩切勝彦	植物	県内に見られるヤエムグラ属の分布と特徴について	文献と標本形体の特徴や生息環境について調査し、現地調査で標本の収集を行う。	6年
		3Dプリンターの活用とモデル作成	県が所有する3Dプリンターのもつ特性を生かした資料の作製を通して、普及活動における博物館の収蔵資料の活用における新しい方法を検証する。	2年

松田清孝	地質	五ヶ瀬地域の阿蘇-3火砕流堆積物に架かる「うのこの滝」と「竿渡滝」の関係について	「うのこの滝」と「竿渡滝」は地質や滝壺の形状など共通点が多い。現地調査とデータ解析等によって共通性の原因を探る。	2年
中山貴義	地質	小丸川流域の阿蘇-3・4火砕流堆積物の分布について	これまでに行われていない小丸川流域の阿蘇火砕流による堆積物の詳しい分布調査を行う。	1年
濱田真理	地質	宮崎県内の変成岩	変成岩標本の充実のため、研究論文や地質図などの文献調査を行い、現地調査、標本採取、収蔵資料の整理を行う。	3年
		宮崎層群の堆積岩に生じる炭酸塩コンクリーション	県南地域総合調査の追加調査・研究を行い、コンクリーションの形成過程を明らかにする。	1年
長津宗重	考古	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	弥生時代から古墳時代の集落（居住域）や墓制（墓域）の規模（拠点と周辺）、階層的格差、立地、消長（変遷）に着目して小丸川水系の遺跡の動態を明らかにする。	2年
榎木郁朗	歴史	近世・近代における宮崎県の災害に関する研究	火山及び地震による被害に焦点を当て、古文書や近代以降の記録を繙きながら各災害の状況を明らかにする。	2年
佐藤省吾	歴史	田邊家資料の整理	平成29年度に収集（寄贈）した田邊家資料を整理・分類し、戦時下の生活の様子を明らかにする。	1年
野添和洋	民俗	宮崎県の神楽に関する研究	神楽の神事や演目等に焦点を当てて、県内全域の神楽の特色を分布的に明らかにする。	3年

② 平成30年度調査研究の報告書

本館では、調査研究の成果をとりまとめ広く公表するため、昭和47年度から研究紀要を発行している。平成30年度は第39輯^{しゅう}を発行した。

【宮崎県総合博物館研究紀要 第39輯】

著者	部門	題目
外山真樹	動物	宮崎市内海巾着島におけるオカヤドカリ属の観察記録
竹下隼人	動物	宮崎県総合博物館のヒラタチャタテ (<i>Liposcelis bostrychophilus</i>) について
黒木秀一	植物	宮崎県産スゲ属植物目録
岩切勝彦	植物	宮崎県内に見られるヤエムグラ属について
山本好和・黒木秀一・岩切勝彦・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県日南市飢肥の地衣類
山本好和・黒木秀一・岩切勝彦・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県鰐塚山の地衣類
松田清孝・中山貴義	地質	火砕流台地を後退する2つの滝の関係 (研究ノート) —うのこの滝と竿渡滝—
濱田真理	地質	小丸鉦山跡の現在の状況 —小丸川水系調査関連報告—
長津宗重	考古	小丸川下流域における竪穴建物跡の展開 ～弥生時代から古墳時代前期～
佐藤省吾	歴史	【報告】特別展「日向国の明治維新 ～戊辰戦争から西南戦争まで～」
榎木郁朗	歴史	【研究ノート】大正三年桜島噴火と宮崎県 ～被災状況と災害への対応～
野添和洋	歴史	【研究ノート】みやざきの神楽について (一) —記紀神話に関する演目構成—

(3) 水系別総合調査研究

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。

自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした総合的な調査研究を実施しており、平成27年度から30年度は小丸川水系に着目した調査研究を進めている。

【小丸川水系総合調査（平成27年度～平成30年度）】

部門	研究テーマ	内 容
動物	小丸川水系の動物相	小丸川水系の上流・中流・下流にポイントを置き、生息する動物の生息状況・分布等を把握する。
植物	小丸川水系の植物相	小丸川水系の河川区域の標本収集と分布を記録することで水系を中心とした植物相を解明する。
地質	小丸川流域の地質	小丸川水系がつくる地形、河岸や河床の露頭、河床礫などを流域内で調査する。小丸川流域の閉山した鉱山に関する資料の収集・整理・保存も行う。
考古	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	小丸川水系の弥生時代から古墳時代の遺跡の報告書を集成し、集落と墓地から時期ごとの様相を明らかにする。
歴史	近代の用水開発	小丸川水域をフィールド調査するとともに、石碑の碑文、藩政資料・行政資料等をもとに用水開発の歴史を明らかにする。
民俗	川の道～小丸川を通してみた人々の暮らし～	小丸川が流域に暮らす人々の生活にどのような影響を与えていたのか、流域に住む人々の習俗等の聞き取りをもとに明らかにする。

(4) 調査研究報告会

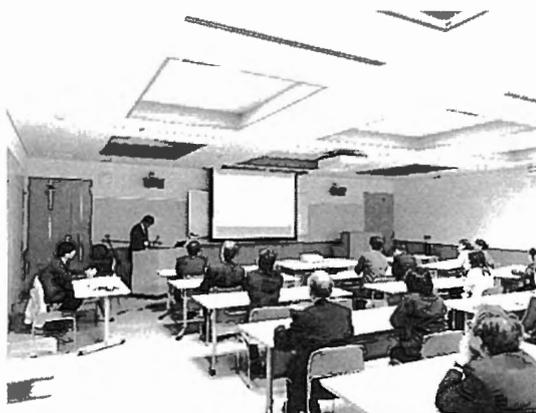
毎年度、総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を実施している。平成30年度は、学芸課職員及び副館長が、調査研究の成果や中間報告、教育普及について報告した。当館職員の他、博物館協議会委員、他の文化施設の職員などが出席した。

実施日時：平成31年2月26日(火)

10:40～15:10

実施場所：本館 研修室1

参加者：40人



報告会の様子

【報告者・発表題目一覧】

報告者	部門	発表題目
松田清孝	地質	うのこの滝と竿渡滝は双子滝か？ －滝の後退と分岐－
濱田真理	地質	小丸鉱山跡の現在の状況
中山貴義	地質	地質巡検の報告
長津宗重	考古	小丸川下流域における竪穴建物跡の展開 －弥生時代から古墳時代前期－

梶木郁朗	歴史	黒木親慶文書について
佐藤省吾	歴史	田辺家資料の整理
野添和洋	民俗	みやざきの神楽について －記紀神話に関する神楽演目－
外山真樹	動物	淡水生二枚貝「イシガイ目」の宮崎県内における生息状況調査について (経過報告)
竹下隼人	動物	宮崎県総合博物館のヒラタチャタテについて
岩切勝彦	教育 普及	アウトリーチ活動の取組と今後
黒木秀一	植物	宮崎県におけるきのこ民俗調査について

(5) 基礎研修

学芸課の職員は、着任すると同時に専門的な業務や問い合わせ等に対応するとともに、調査研究を行わなければならない。そのため、総合博物館では、自然史・歴史の各部門（植物・動物・地質、考古・歴史・民俗）の担当者として必要な基礎的な知識や技術を習得し、写真撮影技術などの基礎力を高める基礎的な研修（基礎研修）を行う機会を設けている。

基礎研修は、学芸課の職員がそれぞれ計画し、個人あるいは複数の職員で、部門を超えて協力しながら実施する。そして、標本の採集、資料の収集、史蹟調査、写真撮影、研究会への参加などを行い、成果を報告するとともに、収集した資料や写真データを保存している。

2 資料の収集・保存

県民のかけがえのない財産である文化財等の資料を、適切に収集・研究して本県の真の姿を明らかにするとともに、未来に向けて恒久的な保存を図ることは博物館の基本的な業務である。このため、本館では、宮崎の自然史や歴史に関する資料を、計画的かつ長期的な視野に立って収集するとともに、これらの収集資料を、分類整理・登録を行った上で、適切な保存に努めている。

(1) 資料の収集

各部門の収集方針を設定し、その方針に沿って、採集、購入、寄贈、交換、寄託、製作、提供、移管などの方法により収集作業を行っている。特に、寄贈や寄託による資料の受入れに際しては、受入れの可否等を慎重に検討する観点から、関係職員で構成する「資料受入委員会」で審査することとしている。

① 平成30年度に収集した資料 収集数計 4,906 点

ア 動物

資料名	点数（点）	収集方法
外国産チョウ類乾燥標本	2,459	寄贈
宮崎県産アリ類乾燥標本	296	寄贈
ハネカクシ類乾燥標本（タイプ標本）	3	寄贈
外国産チョウ類乾燥標本	3	提供
ハシボンガラス剥製標本	1	提供
サケガシラ骨格標本	1	購入
アカボウクジラ骨格標本	1	採集
計	2,764	

イ 植物

資料名	点数（点）	収集方法
植物さく葉標本	1,277	採集
地衣類標本	726	採集
イカタケレプリカ	1	購入
アカイカタケレプリカ	1	購入
マントカラカサタケ	1	購入
計	2,006	

ウ 地質

資料名	点数（点）	収集方法
宮崎市田野町産炭酸塩球状コンクリーション	3	採集
県内産岩石標本	6	採集
県内産鉱物標本	3	採集
県内産化石標本	7	採集
マンモス尾骨標本	1	購入
国内産動植物化石標本	86	寄贈
計	106	

エ 歴史

資料名	点数（点）	収集方法
千人針	1	寄贈
計	1	

オ 民俗

資料名	点数 (点)	収集方法
椎葉神楽等映像 (DVD)	29	提供
計	29	

※主な新収蔵資料

【動物部門】

○ハネカクシ類乾燥標本

本標本は、パラタイプ（従基準標本）であるが、研究分野における学術的価値は非常に高い。ハネカクシ類を主として研究に取り組む県内研究者はほとんどいないが、宮崎県内の自然環境や地理的状況の多様さを示すことができる貴重な標本である。また、今回を含めると、動物部門におけるタイプ標本の収蔵は2例目となり（1例目はミヤタツマトビキエダシヤク）、学術的価値も非常に高い標本である。



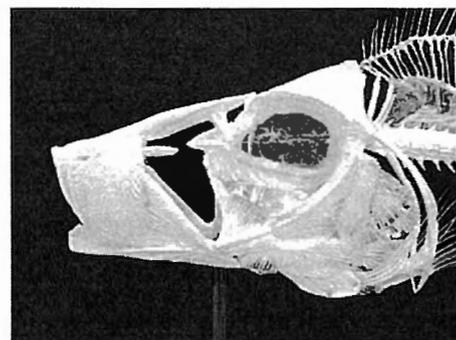
タカシカクムネヨツメハネカクシ



シイバミズギワヨツメハネカクシ

○サケガシラ骨格標本

本標本は、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲された個体から全身骨格標本として作製されたものである。サケガシラは、条鰭綱アカマンボウ目フリソデウオ科の魚類の一種であり、水深 500m 付近に生息する深海魚である。本標本の全長は 1.2m ほどで、横に扁平で細長い体型で、体の後半部から急に細くなり、その先に小さな尾びれが上向きについている。両顎に小さな歯を持ち、小魚やイカなどをエサとしていると考えられている。当館にはサケガシラ剥製標本があり、体内外の比較はもとより、他の硬骨魚との骨格の比較展示として紹介することができる効果的な資料である。



サケガシラ骨格標本（頭部）

【植物部門】

○イカタケ

イカタケは、夏～秋、もみ殻やわらなどに発生する稀なきのこである。幼菌は球形で白色をしており、腕を直立させて柄を伸ばす。イカのような姿で立ち上がり、腕を広げるとイソギンチャクのような形態になる。強い腐肉臭を放つクレバを柄の上部に生じ、ハエなどに孢子を散布させる。本県でも確認例はあるが、継続して発生することは少ない。

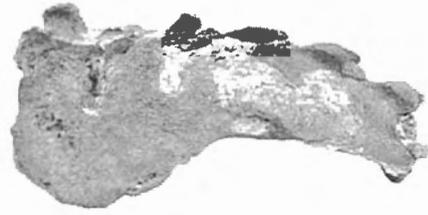


イカタケ（レプリカ）

【地質部門】

○マンモス尾骨

本標本は、ロシア・シベリアの永久凍土より産出したものである。¹⁴Cによる放射年代として約 19596~18810 yr BP が得られている。部位は尾椎の一部で、皮膚と体毛が部分的に残存している。生息当時の体表の状態を知ることができる貴重な資料として、展示や教育普及等で活用できる資料である。



マンモス尾骨

○五ヶ瀬町祇園山産床板サンゴ類化石（重黒木標本）

重黒木一夫氏（宮崎化石研友会）が五ヶ瀬町鞍岡祇園山で採集した化石コレクションである。祇園山の床板サンゴを含む化石群は「シルルーデボン紀化石群」として日本地質学会の「宮崎県の石（化石）」に選定されている。コレクションには日石サンゴやクサリサンゴ、ハチノスサンゴ、ウミユリなどが含まれる。保存状態が良好な標本が多く、展示等へ活用できる資料である。



床板サンゴ化石標本の一例
（日石サンゴ）

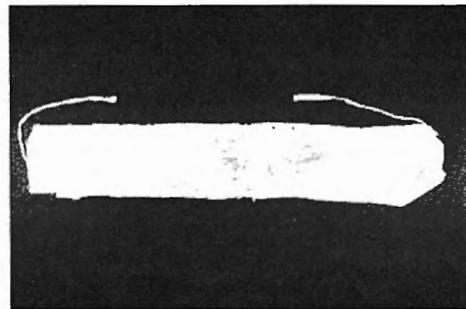
【歴史部門】

○千人針

本資料は、所有者が太平洋戦争で出征した際に身につけていた千人針で、終戦後日本に持ち帰ったものである。

千人針は、兵士の武運と生還を祈って、女性たちが赤い糸で一針ずつ縫って、文字や国旗を結び目で描いて作った白布であり、本資料は「武運長久」の文字が縫い込まれている。

シベリア抑留も経験した所有者は、寒さをしのぎ、心の拠り所となっていた千人針を大切に保管されていたが、今回寄贈を決断された。戦時中の生々しい記憶を伝える資料として展覧会等で活用できる資料である。



千人針

【民俗部門】

○椎葉神楽等映像（DVD）

本資料は、昭和62年から平成9年までの椎葉村における民俗芸能の映像記録で、最も古い資料は昭和62年の畑・鳥の巣地区の臼太鼓踊りの映像である。29点の映像のほとんどは椎葉神楽の映像であり、映像の中には現在では催行されていない神楽や存続の危機に瀕している神楽もある。椎葉民俗芸能博物館にも同じ資料が所蔵してある。

② その他の資料

ア 図書・文献等の収集

本館では、調査研究、展示、教育普及などの諸活動に必要な関連図書や文献、雑誌の収集を行っており、その大半は全国の博物館等施設や研究機関及び研究者等からの寄贈により受け入れている。平成30年度は1,124点を収集した。

イ デジタルデータの収集

本館では、調査研究等を行う際にデジタルカメラにより撮影した写真や、本館が所蔵する資料を学芸課職員又は業者の撮影により得られた写真・動画を、デジタルデータとして収集し、調査研究、資料リストの作成・登録、デジタルミュージアムへの掲載、他施設への提供などの際に使用している。平成30年度は646点を収集した。

(2) 資料の整理・登録

① 資料の登録数

収集した資料は、保存と活用を目的に分類・整理し登録を行っている。平成30年度は2,440点の登録を行った結果、これまでに登録まで完了した資料は14万3,817点となった。

(平成31年3月31日現在)

分野・部門		資料数	平成30年度登録 資料数(点)	登録資料数 (点)	内訳		
					実物	標本	模型(複写)
自然史	動物		320	60,776	0	320	0
	植物		2,006	57,516	0	2,003	3
	地質		106	5,471	0	106	0
	計		2,432	123,763	0	2,429	3
歴史	考古		0	1,689	0	0	0
	歴史		1	5,322	1	0	0
	民俗		7	12,927	7	0	0
	計		8	19,938	8	0	0
美術*	古美術(刀 剣類など)		0	107	0	0	0
	近代美術 (彫刻屋外 展示など)		0	9	0	0	0
	計		0	116	0	0	0
総計			2,440	143,817	8	2,429	3

*美術品は本館に美術部門があった時から収蔵している資料。平成7年の県立美術館設置の際、刀剣類と屋外に展示している彫刻は移管されずに、そのまま本館の資料となった。

*内訳は統計法に基づく博物館調査票の項目

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやぎきデジタルミュージアム」は、県内の文化や歴史に関する情報をデジタル化し、一元的なデータ整理・管理を行うとともに、インターネットにより広く地域や時間に偏りなく情報を提供することにより、郷土の文化に誇りを持つ人材の育成や観光振興、国際交流の促進に資することを目的に構築されたもので、本館をはじめ、県立美術館、県埋蔵文化財センター、県立西都原考古博物館が収蔵する資料の情報とデジタルデータを掲載している。平成30年度は231件の登録を行った。

(3) 資料の保存

資料の恒久的な保存を図るため、本館では、全職員で定期的な点検と清掃を行うことにより文化財に悪影響を及ぼす虫菌害を未然に防ぐIPM活動を基本としながら、薬剤による管理を補完的に行っている。

① IPMウォッチング

虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するために、全職員による定期的な点検を行うとともに、点検結果を回覧し、情報の共有化を図った。

- ・点検場所…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟など
- ・実施回数…年12回

② モニタリング(トラップ調査)

害虫の侵入及び発生状況を把握するため、粘着トラップを設置するとともに、捕獲した害虫の同定及び分析したものを報告書にて職員に周知した。

- ・設置場所…展示室・収蔵庫・エントランス（計80か所）
- ・実施回数…年12回

③ 収蔵庫内の目視・清掃

I P M活動の一環として、収蔵庫内の環境を適切に保ち、資料の状態を確認することを目的に、毎月1回計画的に学芸課職員による目視・清掃を実施した。

- ・実施回数…年12回

④ 薬剤による管理

実施月	場所	備考
9月	収蔵庫	ガス燻蒸
	常設展示室	簡易燻蒸（殺虫等処理）

(4) 資料の修復

資料の劣化等が確認され修復が必要になった場合には、館内においてその都度修復作業を行うほか、特別な技術や知識を必要とする場合は、専門機関に委託して修復作業を行っている。

【動物部門】

平成28年8月に宮崎市小内海海岸にデッドストランドイングし、埋設していたアカボウクジラの骨格を掘り上げた。掘り上げ後、骨格標本として活用できるよう洗浄および漂白クリーニングを行った。



アカボウクジラ骨格標本（頭骨）

【地質・考古部門】

屋外展示している「縄文から弥生にかけていきたくスノキ」コーナーのクスノキスライス標本、ハンズオン標本を補修し、同コーナーの弥生土器の補修を展示ケースの修理とともに行った。

【地質部門】

今年度収集した大型炭酸塩球状コンクリーション3点を、屋外展示標本として一般公開するため、総合博物館本館正面の芝生広場に設置し、標本表面の洗浄等を行った。展示標本は宮崎市田野町産で、炭酸塩球状コンクリーションとしては国内最大級であることが平成30年5月に吉田英一教授（名古屋大学）によって確認されたものである。



炭酸塩球状コンクリーション

3 展示

本館の展示活動は、常設展示室で恒常的に資料展示を行う「常設展示」、特別展示室で特別なテーマを設定し、会期を限って開催する「特別展示」、本館の1階エントランスホールや2階民俗展示室前のロビーを活用して行う「ロビー展示」、県内各地に残っていた独特の建築様式を持つ民家4棟を移築復元し展示に供している「民家園」から成っており、県民の幅広い層にとって学習の場となるよう工夫している。

(1) 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3フロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

① 自然史展示室

本館1階にある自然史の常設展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験的装置や情報機器を導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入口の北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

【宮崎の森】のコーナー

本県の自然の象徴である照葉樹の森やブナの森を実物やレプリカを通して表現するとともに、「森において」「地表潜望鏡」「木の中の音」「フィールドスコープ」等の体験装置を設置している。また、一般に知られていない土壌中の生きものや身近なキノコ類の展示も行っている。さらに、「照葉樹林シアター」を備え、照葉樹林の一日を実感できる大人向けと子ども向けのプログラムを交互に上映している。



照葉樹林のジオラマとニホンジカ

【宮崎の水辺】のコーナー

河口や沿岸で見られる「干潟の自然」、川南町や高鍋町の大地に見られる「湿原の自然」、日南市と串間市にまたがる「サンゴの海」をジオラマで紹介している。また、磯の潮間帯の生きものや川の生きもの、本県と高知県でしか見られないアカメなど多くの標本を展示している。

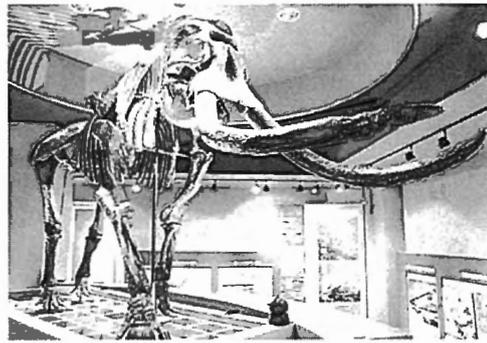


干潟の自然のジオラマ

【宮崎の大地】のコーナー

本県の大地の生い立ちを解説するため、化石、鉱物、岩石標本を多数展示するとともに、随所で顕微鏡観察や触察ができるような工夫を行っている。

生物の進化のエリアでは、ティラノサウルスやヨロイ竜サイカニア、ナウマンゾウの全身骨格など各時代の化石を展示したり、地層や火山のエリアではビデオ映像による説明を行っている。また「地球シアター」では、地球と宮崎の大地の成り立ちや県内の地質について紹介している。



生物の進化のエリア

【宮崎の生物】のコーナー

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたことと、地史的な背景との絡みもあって、寒冷地から亜熱帯性の生きもの、さらに固有の生きものが生息している。これらの多様な生きもの世界の成り立ちやその生物の営み、宮崎に生息する植物の世界と動物の世界について、県内で収集した標本やその関連資料を用い、観覧者がより身近に感じることができるよう、多角的な視点から紹介している。



「宮崎の植物」のエリア

【ふるさとの自然】のコーナー

私たちの身の回りに見られるふるさとの代表的な自然の様子、その自然の中での人びとのくらしと変貌する生きもの世界、自然の保護と創出、大いに自然に触れる野外体験の勧めについて紹介し、今後の自然との共存や自然保護について考える機会を提供している。



「ふるさとの自然」のコーナー

② 歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマと関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎地域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

【日向のあけぼのに生きる】のコーナー

旧石器時代から古墳時代までを、打製石器・磨製石器・縄文土器・弥生土器・須恵器などの各時代の発掘資料、花びら形住居や地下式横穴墓などの原寸大模型を使って紹介している。

また、本県で出土した金銅製馬具類（国宝、五島美術館蔵）、子持家形埴輪（重要文化財、東京国立博物館蔵）などの重要資料については、レプリカを製作し、展示している。



花びら形住居のジオラマ

【古代から近世を生きる】のコーナー

古代から近世までを、文書資料や発掘資料、実際に使用していた道具などを展示し、当時のできごとや人々の暮らしを紹介している。

特に日向国図田帳（東京大学史料編纂所蔵）、土持文書（県指定有形文化財、個人所蔵・当館寄託）、宗麟原供養塔（国指定史跡）、錦の御旗（本館蔵）など、この時代を代表する重要な資料はレプリカを製作し、展示している。また、江戸時代の延岡藩の庄屋資料である福良家資料（個人蔵・当館寄託）など、当時の人々の日常生活を読み取ることができる資料も展示している。

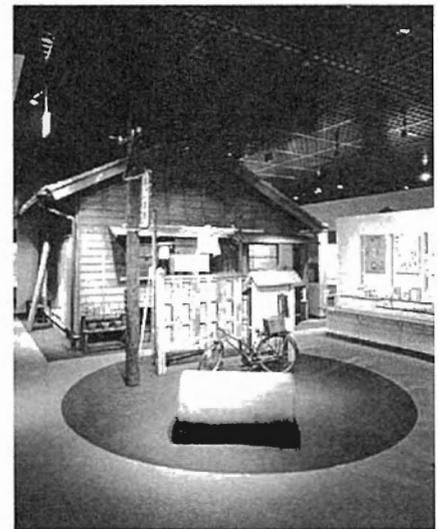


宗麟原供養塔と耳川合戦図屏風

【発展しつづける宮崎】のコーナー

明治時代以降の歴史について、実物資料や模型を展示し、当時のできごとや人々の暮らし、文化を紹介している。特に、「宮崎の近代化」のコーナー。写真や、「戦争と人々の暮らし」の灯火管制下の住宅内部の復元によって、当時の人々の暮らしをわかりやすく紹介している。

また、戦後の宮崎では、移築と一部復元を行った原寸大の昭和30年代文化住宅と時代のひろばが、歴史展示室の人気コーナーになっており、紙芝居やむかしの遊びなどの催しに利用している。



時代のひろばと文化住宅

③ 民俗展示室

本館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

【山にくらす】のコーナー

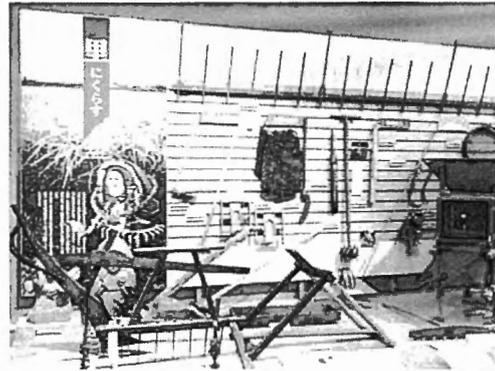
山の恵みを生活に活かすための知恵や工夫、願いや感謝など山間部に見られる人々の暮らしを紹介し、映像や写真、人形等を用いて、現在では使われなくなった民具をどのように使用していたのかを観覧者が実感できるようにしている。また、焼き畑作業場兼住まいとして西米良村の山の中腹近くに建てられていた作小屋を原寸大で復元している。



山で使用する衣服等

【里にくらす】のコーナー

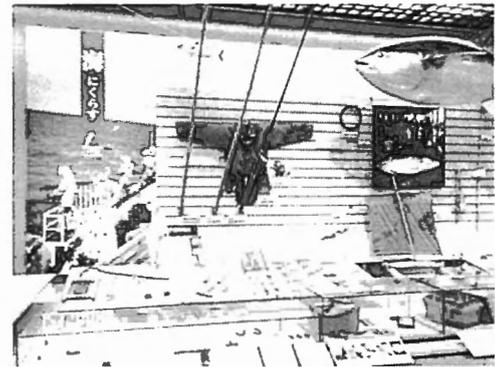
長い年月の間に受け継がれてきた主に農業の知恵と技術、豊作への願いや感謝など、日向灘に注ぐ川沿いに広がる盆地や平野に見られる人々の生活を紹介している。小学校の社会科の授業でよく利用されるため、児童が学習しやすいように、スキヤセンバなどの使用方法を示した図を設置している。



里の農業で使用する農具

【海にくらす】のコーナー

カツオの一本釣りやマグロの延縄漁の道具、ブリ大敷網や大謀網の模型などを展示し、海の幸を生活の糧とするための様々な知恵と技術を紹介するとともに、大漁旗や船霊さまなどから大漁と航海の安全への願いを、カンカン部隊の道具から市場や行商を通じた人々の生き生きとした経済活動と心のつながりを紹介している。



海の漁で使用する漁具

【いのりとまつり】のコーナー

山・里・海に生きる人々の安らかなくらし、豊作や大漁への祈りをこめた季節の祭や年中行事を紹介している。また、「神楽シアター」では、高千穂の浅ヶ部神楽をモデルに、神庭と外注連を再現するとともに、映像として、子ども向けの「神楽ってなあに？」と大人向けの「宮崎の神楽」を交互に上映して県内の神楽を疑似体験できるように工夫している。



神楽を紹介した写真パネル

④ 常設展示資料数

常設展示室に常時展示している資料数は、平成31年3月末日現在で7,670点である。また、収蔵庫の資料を活用して年19回34点の展示替えを実施し、展示内容の充実を図った。このうち歴史展示室と民俗展示室の接続部分に設置しているロビーケースでは歴史部門による展示替えを5回実施し、館蔵の刀剣類を紹介した。

(単位：点)

展示室	部門	実物資料	レプリカ	模型	ジオラマ	計
①自然史 展示室	動物	3,627	54	10	6	3,697
	植物	57	386	1		444
	地質	416	21	7		444
②歴史 展示室	考古	558	58	71	0	687
	歴史	1,179	83	8		1,270
③民俗 展示室	民俗	1,081	21	33	0	1,135
計		6,918	623	130	6	7,677

(2) 特別展示

本館2階にある特別展示室において、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を、他の関係機関から資料を借用するなど連携して開催した。また、巡回展を開催し、国内外の自然を幅広く紹介した。

① 「第38回SSP展 ～自然を楽しむ科学の眼～」

ア 会期：平成30年4月28日(土)～6月10日(日) 開館日数：38日間

イ 主催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

ウ 展示の内容

SSP展の本館開催は今回で14回目となった。写真部門150点、動画部門14点の作品を展示した。また、本館収蔵資料の中から作品に登場する動物の剥製標本や乾燥標本、レプリカなど60点、3D映像資料1点を展示した。

エ 関連行事

○4月28日(土) 9:30～10:10 参加者40人

開会式及びプロ写真家によるガイドツアー

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展委員)

一日博物館長及び友の会会員を招待。一日博物館長と東木場氏によるテープカットの後、ガイドツアーを実施した。

○4月30日(月) 13:00～15:30 参加者18人

「生きもの写真リトルリーグ2018」コラボイベント 子ども写真教室「生きもの写真のススメ」

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展写真展委員)

協力：生きもの写真リトルリーグ実行委員会(パナソニック株式会社)

小中学生を対象とした写真教室。講師による講義ののち民家園周辺で動植物の撮影実習を行い、参加者作品のミニコンテストを行った。

○5月21日(日) 午前の部 9:30～12:00 午後の部 13:30～16:00 参加者24人

関連講座「SSPの作品にTRY! II」

講師：東木場昭裕氏(自然写真家・SSP展委員)・福島英樹氏(SSP展委員)

SSP展の「顕微鏡・科学」写真に挑戦する写真教室の第2弾。光の干渉によってできる虹模様やミルククラウンなどの撮影を行った。

○5月3日(木)～6月11日(月)「生きもの写真のススメ」参加者作品展示

○5月23日(木)～6月11日(月)「SSPの作品にTRY! II」参加者作品展示

オ 観覧者数：8,747人



開会式(テープカット)



ガイドツアー



生きもの写真のススメ



SSPの作品にTRY! II



会場の様子



動画部門展示の様子

② 「むしムシ虫展 ～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」

ア 会期：平成30年7月14日（土）～9月2日（日）

※8月22日（水）は空調機故障に伴う臨時休館 開館日数：44日間

イ 主催：「むしムシ虫展」実行委員会

（MRT 宮崎放送、一般社団法人宮崎県教職員互助会、宮崎県総合博物館）

ウ 名義主催：宮崎日日新聞社

エ 協力：大淀川学習館、宮崎昆虫同好会、宮崎昆虫調査研究会、小林生物愛好会、宮崎県工業技術センター、アクア・グリーンライフ、新開孝氏

オ 展示の内容：宮崎県総合博物館の独自企画

昆虫標本はもとより、大きく拡大した昆虫資料を中心とした展示の中で、「見る」・「聞く」・「触れる」といった五感を通じて昆虫の形態や生態を体感学習し、昆虫の多様化を実感し自然環境や昆虫と人間の暮らしとの関わりに興味を持ってもらうことを目的として展覧会を開催した。6つのコーナーに標本や拡大模型、触れられる生体、映像、写真の展示を行った。

カ 関連行事

○7月14日（土）10:00～11:00 開会式・内覧会

主催者あいさつ及びテープカットを実施。終了後内覧会を行った。

○7月21日（日）9:30～12:00 特別展関連講座「昆虫標本をつくろう①」

講師：外山 真樹（学芸課） 参加者：20人

○8月11日（土・祝）13:30～15:00 特別展関連講演会「虫のしわざ ～あっ！こんなところにも、あんなところにも」

講師：新開 孝氏（昆虫写真家） 参加者：34人

○8月19日（日）13:30～15:00 特別展関連講演会「ゲッチョ先生の自然観察入門 ～身近な虫のふしぎ～」

講師：盛口 満 准教授（沖縄大学人文学部） 参加者：51人

○毎週土曜日（※7月14日、8月11日を除く）、8月10日（計7回）13:30～14:00 学芸員による「昆虫探検！ガイドツアー」 参加者：190人

○毎週日曜日（※8月19日を除く）（計7回）13:30～14:30 宮崎昆虫同好会会員によるギャラリートーク「昆虫ラボ 宮崎の昆虫博士たち」 参加者：336人

キ 広報：ポスター2,000枚、チラシ200,000枚、テレビ広告441本、ラジオ広告540本、新聞広告2回、大型液晶ビジョン2か所（宮崎駅東口・橘通）

ク 観覧料：大人1,000円、小中高生500円、未就学児無料

ケ 観覧者数：49,411人



開会式（テープカット）



内覧会（ガイドツアー）



体験型展示資料の様子



関連講演会の様子



関連講座の様子



「カブトムシの森」体験コーナー

③ 「日向国の明治維新 ～戊辰戦争から西南戦争まで～」

ア 会期：平成30年10月18日（木）～12月2日（日） 開館日数：40日間

イ 主催：宮崎県総合博物館

ウ 協力：宮内庁書陵部、高千穂町コミュニティセンター、高鍋町歴史総合資料館、町立高鍋図書館、日南市教育委員会、都城市教育委員会、都城島津邸、宮崎大宮高等学校書道部、宮崎県文書センター、宮崎市教育委員会、宮崎市佐土原歴史資料館、山口県立山口博物館

エ 展示の内容

幕末・維新期の開国、倒幕、そして新政府の成立という歴史の流れのなかで、日向国内でも政治や経済、社会のしくみなどが大きく変化した。例えば幕末の日向諸藩は軍備の西洋化を進めていき、幕長戦争・戊辰戦争にも出兵した。また、維新後は版籍奉還・廃藩置県など新政府が中央集権体制を強化するなかで、宮崎県が成立した。しかし、宮崎県は鹿児島県に併合され、西南戦争では多大な人的、経済的な損害を被った。その後、分県運動が高まり、新たな宮崎県が成立した。

平成30年は、明治維新150周年である。これを記念して本展覧会では、特に戊辰戦争と西南戦争に焦点を当てながら、幕末・維新期の日向国の歴史を紹介した。

オ 関連行事

○10月17日（水）14:00～14:45 開会式・内覧会

開会式（主催者あいさつ、テープカット）の後、内覧会を実施。

○10月27日（土）10:30～12:00 関連講座「薩長同盟の成立と展開」

講師：三宅紹宣氏（広島大学名誉教授） 参加者：61人

○11月17日（土）10:30～12:00 関連講座「幕末維新期の延岡藩」

講師：増田豪氏（延岡市内藤記念館専門学芸員） 参加者：60人

○ガイドツアー 計6回、参加者総数：157人

10月21日（日）、11月3日（土）、11月10日（土）、11月18日（日）、11月24日（土）、12月1日

カ 観覧料 無料

キ 観覧者数 10,836人



開会式（テープカット）



ガイドツアー



関連講座（10月27日）



関連講座（11月17日）

④ 「岩合光昭の世界ネコ歩き 写真展」

ア 会期：平成31年2月22日（金）～4月14日（日） 45日間

イ 主催：宮崎日日新聞社、UMKテレビ宮崎

ウ 協賛：オリンパス株式会社

エ 企画製作：クレヴィス

オ 展示の内容

NHK BSプレミアムの人気番組「岩合光昭の世界ネコ歩き」をもとに、岩合光昭氏がヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジアなどで撮影したネコの写真作品約200点を展示した。また、野外写真展「ねこ科」を博物館周辺で実施した。

カ 観覧料：大人1,000円、小中高生600円、未就学児無料

キ 観覧者数：32,394人（ただし、2月22日～3月31日は21,477人）



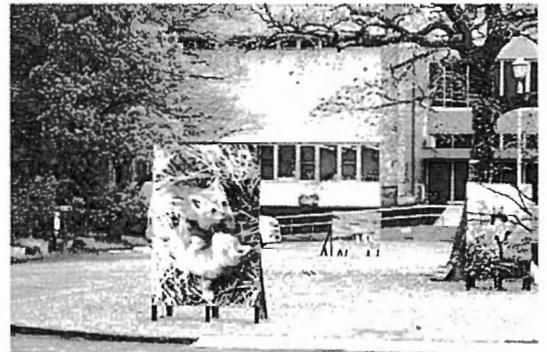
開会式（テープカット）



チラシ



展示室の様子



ねこ科（野外展示）

(3) エントランス展示・ロビー展示

本館1階のエントランスホール（ロビーケース、展示スペース、情報コーナー、休憩コーナー）や2階民俗展示室前のロビーにおいては、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定した展示を行っている。平成30年度は16回の展示を実施した。

① 展示一覧

タイトル ＜展示場所＞	期 間	担当者	内 容
THE よろい・かぶと ＜1階エントランスケース＞	3月4日 ～5月4日	佐藤省吾	常設展示室に展示していない鎧・冑を展示し、収蔵資料を紹介した。5月5日の博物館講座「よろい・かぶと着用体験！」の広報に役立てた。
第38回 SSP 展関連展示 ＜2階ロビー＞	5月4日 ～6月10日	濱田真理	第38回 SSP 展の関連講座（写真教室2講座）参加者の作品を展示した。
化石から“よみがえる”大昔の 生き物『アンモナイト』 ＜1階エントランスケース＞	5月5日 ～6月11日	中山貴義	5月10日の「地質の日」に合わせ、実物化石とそのレプリカ及び生体復元模型を展示した。
むしむし虫展関連展示 ＜1階エントランスケース＞	6月16日 ～7月13日	外山真樹	7月14日より開催する特別展「むしむし虫展」に先立ち、昆虫標本56点を展示し事前PRを行った。
愛鳥作品コンクール作品展示 ＜2階ロビー＞	7月4日 ～7月23日	濱田真理	平成30年度愛鳥作品コンクールの絵画と習字を展示した。（中部農林振興局による企画）
宮崎の伝統工芸品 ＜2階ロビー＞	8月2日 ～9月2日	野添和洋	伝統的工芸品に対する興味・関心を高めるため、宮崎県内の伝統的工芸品を民俗展示室出口ロビーに展示した。（オールみやざき営業課による企画）
博物館こどもDAY ＜1階展示スペース＞	8月10日	学芸課	貝殻のタッチプールや化石・鉱物・石器などの触れる展示、よろい・かぶとや神楽装束の着用体験などを行った。
ジャンボきのこ ヘンテコきのこ ＜1階展示スペース＞	9月22日 ～11月19日	黒木秀一	県内に見られるおもしろい形のきのこのレプリカや写真、触察体験用の実物乾燥標本を展示した。
宮崎県高校生の探究活動 ポスター展 ＜1階情報コーナー・2階ロビー＞	11月19日 ～12月23日	濱田真理	県内の高校生が授業や部活動で取り組んだ自然科学系探究活動の成果をポスター展示により紹介した。（出品：県立高校10校のポスター19件）
文化財を守る～民家園「米良の 民家」「椎葉の民家」の昔と今～ ＜1階展示スペース＞	11月21日 ～1月20日	野添和洋	保存修理を終えた民家園の「米良の民家」「椎葉の民家」の保存修理の過程や、昭和40年代の移築の様子について解説した。
海底立体地形図展示 ＜1階情報コーナー＞	1月30日 ～2月28日	松田清孝	日本列島近海の海底地形を3Dメガネで立体視してもらい、南海トラフ地震の啓発の機会とした。
水中ハンターズ・魅惑の深海魚 （深海オールスターズ人気投票） ＜1階展示スペース＞	1月30日 ～3月29日	竹下隼人	宮崎県内の川や海に生息する動物食の魚や水棲哺乳類の展示と、深海魚のパネル展示を同時開催。参加型展示として深海魚の人気投票も行った。
はくとも写真展 ＜1階情報コーナー＞	2月9日 ～3月3日	博物館 友の会	博物館友の会会員が撮影した自然や歴史に関する写真を展示した。
博物館で雛祭り ＜2階ロビー＞	2月23日 ～3月4日	野添和洋	春の節句の雰囲気を感じてもらうため、博物館に寄贈された雛人形を展示した。
博物館ひなまつり ＜1階情報コーナー＞	3月2日	広報推進委 員会	宮崎市立小松台小学校合唱部によるコンサートと展示解説員による紙芝居を行った。
THE よろい・かぶと ＜1階エントランスケース＞	3月30日 ～4月22日	佐藤省吾	常設展示室に展示していない鎧・冑を展示し、収蔵資料を紹介した。

② 主な展示

ア 「宮崎県高校生の探求活動ポスター展」

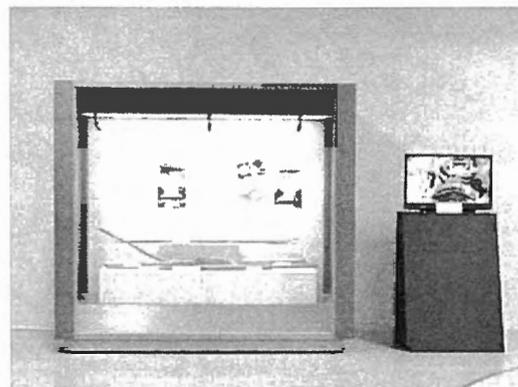
- a 展示期間：平成 30 年 11 月 19 日（月）
～12 月 23 日（日）
- b 展示場所：本館 1 階情報コーナー
本館 2 階ロビー
- c 展示内容：県内の高校生が授業や部活動
で取り組んだ自然科学系探究活
動の成果をポスター展示により
紹介した。（県立高校10校・ポス
ター19件の出品）



ポスター展示の様子

イ 文化財を守る～民家園「米良の民家」「椎葉の民家」の昔と今～

- a 展示期間：平成 30 年 11 月 21 日（水）
～1 月 20 日（日）
- b 展示場所：本館 1 階展示スペース
- c 展示内容：保存修理を終えた民家園の「米
良の民家」「椎葉の民家」の保存修
理の過程や、昭和 40 年代の移築の
様子について解説した。



民家園展示の様子

ウ 水中ハンターズ・魅惑の深海魚 (深海魚人気投票)

- a 展示期間：平成 31 年 1 月 30 日（水）
～3 月 29 日（金）
- b 展示場所：本館 1 階展示スペース
- c 展示内容：宮崎県内の川や海に生息する
動物食の魚や水棲哺乳類の展示
と、深海魚のパネル展示を同時
開催した。参加型展示として、
深海魚の人気投票も行い、結果
を展示と SNS で発表した。



水中ハンターズ展示の様子

(4) 民家園

民家園は、本館の東側に位置し、県内に残っていたその地方独特の建築様式を持つ民家を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元した4棟の民家から成る。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「米良の民家」と「椎葉の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

また、民家の内部には、実際に使用されていた踏み臼のほか、唐箕や機織り機といった生業道具、釜や甕などの生活用具を展示するとともに、屋外には石風呂などを展示し、来園者が民家の雰囲気を感じ取れるようにしている。

なお、4棟とも経年劣化や耐震上の問題があったことから、平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を実施した。

【旧藤田家住宅】

九州山地中央部に残る民家の古い形式を伝える数少ない建物で、五ヶ瀬町から移築復元した。県内で確認された民家では最も古く、間仕切柱の刻銘から天明7年(1787)に建てられたことが明らかとなっている。間取りは、オモテ(客間)、ヘンヤ(居間)の2つからなる。



旧藤田家住宅

【旧黒木家住宅】

高原町にあった郷土の建物を移築復元したものである。この民家は、県南西部に分布する分棟型農家の典型で、平入のオモテ(主屋)と妻入のナカエ(釜屋)の2棟からなる。発見された墨書によって、天保5年(1834)から2年間かけて建てられたことが明らかになっている。



旧黒木家住宅

【米良の民家】

西米良村にあった建物を移築復元したもので、山間の3段石積みの上に建てられ、外観や間取りなどに古い西米良の農家のかたちが残されている。また、太い材を用いた馬屋が隣接している。口伝により、文政4年(1821)頃に建てられたとされている。



米良の民家

【椎葉の民家】

椎葉村にあった建物を移築復元したもので、県北西部に分布する並列型農家の典型で、間取りは、3つの部屋と1つの土間が横一列に並び、その手前に板縁がおっている。解体中に発見された墨書によって、元治元年(1864)に建てられたことが明らかになっている。



椎葉の民家

(*民家園を活用した普及事業については、58～61頁を参照)

(5) 利用状況

① 平成30年度の利用状況

ア 利用状況一覧

(単位：人)

施設、講座等		入館・入園者数
1 本館入館者数		136,134
①	特別展観覧者 ※	101,388
②	常設展示室の展示解説 (定時解説及び通常解説)	(10,042)
③	紙芝居	(5,850)
④	むかしのあそび体験広場	(4,570)
⑤	クイズラリー (通常版)	(1,110)
⑥	みどりの日クイズラリー (特別版)	(140)
⑦	文化の日クイズラリー (特別版)	(68)
2 民家園入園者数		50,714
①	伝統文化体験講座	(197)
	ア 正月飾り製作体験 (35)	
	イ 正月準備体験 (162)	
②	県民大学「神楽公演」	(815)
③	民家園春まつり	(586)
④	みやざきの昔話公演	(274)
⑤	風車フェスタ	(446)
⑥	昔のくらし体験	(329)
合 計		186,848

※特別展示観覧者数には「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」の4/1～4/14分の観覧者10,917人を含む。

イ 本館入館者の状況 (月別)

(単位：人)

月	個人 (人)	団体 (人)				総入館者数 (人)	開館日数 (日)	1日 平均 (人)
		大人	高校生 大学生	小学生 中学生	未就学児			
4	6,598	387	7	150	63	7,205	26	277
5	6,201	455	49	1,999	222	8,926	26	343
6	5,062	413	85	443	264	6,267	23	272
7	21,102	598	62	347	782	22,891	26	880
8	32,500	455	20	643	356	33,974	27	1,258
9	5,294	176	9	153	41	5,673	15	378
10	3,962	758	37	1,643	120	6,520	26	251
11	4,564	849	78	2,471	146	8,108	26	312
12	3,129	315	802	350	128	4,724	23	205
1	2,235	114	48	285	90	2,772	16	173
2	7,046	394	175	98	74	7,787	24	324
3	20,079	783	18	299	108	21,287	27	788
計	117,772	5,697	1,390	8,881	2,394	136,134	285	478

ウ 利用団体内訳

(単位：団体)

	小学校	中学校、高校 特別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
団体数	102	22	105	260	58	138	685

※小・中・高校・特別支援学校の内訳は39～41頁、その他の団体の内訳は42～48頁を参照

エ 特別展示入館状況

a 無料の特別展示

展示会名	会期 (日)	日数 (日)	個人 (人)	団 体 (人)				合計 (人)	1日平均 (人)
				大人	高大 学生	小中 学生	未就 学児		
第38回SSP展	平成30年 4月28日 ～6月10日	38	6,187	366	84	1,912	198	8,747	230
日向国の 明治維新展	平成30年 10月18日 ～12月2日	40	6,528	1,098	137	2,954	119	10,836	271

b 有料の特別展示

展示会名	会期	日数	入場者数 (人)				合計 (人)	1日平均 (人)
			有料		無料			
むしムシ虫展	平成30年 7月14日 ～9月2日	44	大人 小中高生 ペア割他	20,047 10,052 2,575	大人 小中高生 未就学児 招待者他	1,305 351 13,477 1,604	49,411	1,123
岩合光昭の世界 ネコ歩き写真展	平成31年 2月22日 ～4月14日	45	大人 小中校生	22,840 3,013	未就学児 招待者 身障者他	1,586 1,595 3,360	※ 32,394	720

※「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」の2/22～3/31の入場者数は21,477人

オ 民家園入園者の状況 (月別)

月	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
4	4,288	30	143
5	4,045	31	130
6	3,276	30	109
7	3,991	31	129
8	3,711	31	120
9	2,241	※ 24	93
10	5,168	31	167
11	5,015	30	167
12	3,380	31	109
1	4,508	31	145
2	4,531	28	162
3	6,560	31	212
計	50,714	359	141

※ 9月13日～18日(燻蒸期間のため民家園入園禁止)

② 過去10年間の利用状況の推移

ア 本館入館者数

年度	個人 (人)	団体別 (人)				合計 (人)	開館 日数 (日)	1日 平均 (人)	特別展 観覧者数 (人)
		大人	高大学生	小中学生	未就学児				
21	148,702	6,485	647	9,458	2,175	167,467	296	566	149,562
22	89,364	4,626	966	9,090	2,617	106,663	268	398	72,553
23	97,754	5,063	495	10,262	3,186	116,760	297	393	73,940
24	91,374	5,156	636	8,752	1,835	107,753	298	362	69,680
25	113,438	5,481	756	9,003	2,504	131,182	299	439	95,611
26	91,050	5,310	127	8,620	2,361	107,468	292	368	73,621
27	112,909	5,976	429	9,356	1,892	130,562	289	452	91,901
28	92,342	4,673	343	8,380	1,982	107,720	284	379	64,973
29	93,867	5,576	498	8,766	2,265	110,972	285	389	61,552
30	117,772	5,697	1,390	8,881	2,394	136,134	285	478	90,471

イ 本館の利用団体内訳

(単位：団体)

年度	小学校	中学・高校・特別支援学校	幼稚園、保育園等	福祉施設	放課後児童クラブ	旅行団体等	合計
21	109	32	97	130	58	169	595
22	115	35	91	139	12	102	494
23	129	22	132	133	47	124	587
24	113	19	78	153	19	139	521
25	116	36	114	156	46	132	600
26	109	10	89	186	39	137	570
27	113	22	78	233	48	168	662
28	98	11	66	286	37	86	584
29	112	19	94	321	69	94	709
30	100	24	105	260	58	138	685

ウ 民家園入園者数の推移

年度	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
21	55,359	362	153
22	38,013	320	119
23	43,857	361	121
24	44,889	359	125
25	47,810	359	133
26	44,718	358	125
27	36,267	361	100
28	46,648	358	130
29	50,461	357	141
30	50,714	359	141

【参考】学校団体（小・中・高・特別支援学校）の利用状況

月	日	曜	学 校 名	教科	総合	遠足・学校行事	学年	市町村名	人数
4	27	金	西都市立銀鏡中学校			○	1~3	西都市	12
4	27	金	宮崎市立瓜生野小学校			○	3・4	宮崎市	62
5	2	水	宮崎市立宮崎東小学校			○	6	宮崎市	49
5	2	水	都城市立東小学校			○	5	都城市	95
5	10	木	宮崎市立那珂小学校	○		○	3	宮崎市	45
5	10	木	都農町立都農南小学校			○	3	都農町	40
5	10	木	宮崎市立住吉小学校			○	3	宮崎市	147
5	11	金	宮崎市立池内小学校			○	3	宮崎市	45
5	11	金	国富町立本庄小学校	○		○	3	国富町	58
5	11	金	宮崎市立東大宮小学校			○	3	宮崎市	109
5	11	金	宮崎市立江平小学校	○		○	2	宮崎市	116
5	11	金	西都市立穂北小学校 西都市立茶臼原小学校			○	3	西都市	41
5	11	金	日南市立潟上小学校	○		○	6	日南市	20
5	11	金	川南町立川南小学校			○	5	川南町	66
5	17	木	宮崎市立赤江小学校			○	3	宮崎市	130
5	17	木	都城市立沖水小学校	○		○	4	都城市	132
5	18	金	都城市立中霧島小学校			○	3・4	都城市	53
5	18	金	川南町立通山小学校			○	5	川南町	32
5	18	金	都城市立今町小学校			○	3・4	都城市	35
5	23	水	宮崎大学教育学部附属小学校		○		6	宮崎市	95
5	23	水	宮崎市立広瀬小学校			○	3	宮崎市	123
5	24	木	宮崎市立宮崎港小学校			○	2	宮崎市	67
5	25	金	宮崎市立穆佐小学校			○	3・4	宮崎市	44
5	25	金	宮崎市立潮見小学校	○		○	3	宮崎市	93
5	25	金	宮崎市立恒久小学校			○	3	宮崎市	85
5	25	金	都城市立高崎小学校	○		○	3	都城市	46
5	25	金	宮崎市立穂小学校			○	3	宮崎市	113
6	7	木	宮崎県立清武せいりゅう支援学校			○	その他	宮崎市	9
6	7	木	都農町立都農東小学校	○		○	3	都農町	14
6	8	金	日向市立富高小学校			○	4	日向市	80
6	18	月	宮崎県立清武せいりゅう支援学校			○	6	宮崎市	3
6	20	水	宮崎市立穂中学校		○		1	宮崎市	192
6	20	水	延岡学園 尚学館小学校			○	1・2	延岡市	45
6	22	金	宮崎大学教育学部附属小学校			○	その他	宮崎市	3
7	12	木	宮崎市立広瀬中学校		○	○	1	宮崎市	97
7	13	金	川南町立国光原中学校		○	○	3	川南町	65
8	29	水	新富町立富田小学校 支援学級			○	その他	新富町	2
8	29	水	新富町立富田小学校		○		その他	新富町	8
9	7	金	宮崎県立るびなす支援学校高等部		○	○	1~3	新富町	6
9	9	日	熊本大学附属中学校		○	○	1~3	県外	21
9	26	水	宮崎県立延岡しろやま支援学校			○	2	延岡市	9
9	28	金	宮崎大学教育学部附属小学校		○		3	宮崎市	100
10	5	金	宮崎県立みやざき中央支援学校			○	3・4	宮崎市	13
10	5	金	都城市立上長飯小学校			○	4	都城市	145
10	11	木	都城市立明和小学校			○	4	都城市	70
10	12	金	綾町立綾小学校	○		○	3	綾町	88
10	12	金	都城市立安久小学校			○	5	都城市	53
10	12	金	都農町立都農小学校			○	5	都農町	52
10	12	金	串間市立大東小学校	○		○	3・4	串間市	27
10	12	金	都城市立富吉小学校			○	その他	都城市	30
10	12	金	延岡市立恒富小学校			○	5	延岡市	42
10	12	金	日向市立大王谷学園			○	4	日向市	106
10	18	木	宮崎市立清武小学校	○		○	3	宮崎市	143

月	日	曜	学校名	教科	総合	遠足・学校行事	学年	市町村名	人数
10	18	木	日南市立大窪小学校	○		○	その他	日南市	5
10	19	金	高鍋町立高鍋西小学校			○	2	高鍋町	75
10	19	金	都城市立志和池小学校			○	4	都城市	47
10	22	月	川南町立山本小学校			○	4	川南町	11
10	24	水	延岡市立東海小学校			○	4	延岡市	74
10	25	木	宮崎市立大淀小学校			○	3	宮崎市	126
10	25	木	日南市立大堂津小学校			○	3・4	日南市	29
10	25	木	小林市立栗須小学校			○	5	小林市	26
10	26	金	日向市立塩見小学校			○	4	日向市	29
10	26	金	川南町立東小学校	○			4	川南町	23
10	26	金	国富町立八代小学校			○	3・4	国富町	52
10	26	金	三股町立三股小学校			○	4	三股町	82
10	26	金	日南市立吾田小学校			○	3	日南市	75
10	26	金	日向市立寺迫小学校			○	5	日向市	12
10	27	土	宮崎県立宮崎北高校留学生	○				宮崎市	20
10	31	水	小林市立小林南小学校			○	5	小林市	61
10	31	水	新富町立上新田小学校	○		○	3	新富町	15
10	31	水	宮崎市立小戸小学校	○			3	宮崎市	72
11	1	木	宮崎市立広瀬西小学校			○	4	宮崎市	43
11	1	木	宮崎市立木花小学校	○		○	3	宮崎市	36
11	2	金	宮崎市立生目小学校			○	3	宮崎市	105
11	2	金	門川町立門川小学校			○	5	門川町	70
11	2	金	都城市立西小学校			○	4	都城市	131
11	2	金	日南市立酒谷小学校			○	その他	日南市	6
11	2	金	延岡市立延岡小学校			○	4	延岡市	74
11	2	金	都城市立高城小学校			○	5	都城市	55
11	2	金	宮崎市立池内小学校			○	4	宮崎市	41
11	2	金	宮崎市立加納小学校			○	3	宮崎市	146
11	8	木	宮崎市立広瀬北小学校			○	5	宮崎市	94
11	8	木	宮崎県立みやざき中央支援学校高等部			○	3	宮崎市	5
11	8	木	宮崎市立広瀬北小学校			○	3	宮崎市	97
11	9	金	宮崎市立大塚小学校			○	2	宮崎市	140
11	9	金	都城市立川東小学校	○		○	3	都城市	57
11	9	金	日南市立榎原小学校			○	1~6	日南市	41
11	9	金	宮崎市立国富小学校			○	4	宮崎市	136
11	9	金	宮崎市立国富小学校			○	3	宮崎市	119
11	9	金	日南市立油津小学校			○	4	日南市	45
11	14	水	宮崎市立穂北小学校	○		○	3	宮崎市	101
11	15	木	宮崎市立住吉南小学校	○	○	○	3	宮崎市	105
11	15	木	小林市立細野小学校			○	3	小林市	38
11	16	金	宮崎市立倉岡小学校	○		○	3・4	宮崎市	56
11	16	金	西都市立三財小学校	○			3	西都市	27
11	16	金	西都市立都於郡小学校			○	3	西都市	19
11	16	金	三股町立勝岡小学校	○			3	三股町	58
11	16	金	日向市立平岩小学校	○		○	3・4	日向市	51
11	16	金	日向市立坪谷小学校			○	3	日向市	19
11	17	土	宮崎県立延岡青朋高等学校			○	1~3	延岡市	23
11	19	月	神村学園高等部宮崎学習センター		○		1~3	宮崎市	10
11	22	木	国富町立木脇小学校			○	3	国富町	52
11	22	木	新富町立新田小学校			○	3	新富町	39
11	22	木	宮崎市立田野小学校	○		○	3	宮崎市	109
11	22	木	宮崎市立江南小学校			○	3	宮崎市	121
11	22	木	高原町立高原小学校			○	4	高原町	48
11	26	月	宮崎大学教育学部附属小学校	○			6	宮崎市	90
11	29	木	宮崎市立高岡小学校	○		○	3	宮崎市	76

月	日	曜	学 校 名	教科	総合	遠足・学校行事	学年	市町村名	人数
12	1	土	都城市立五十市中学校			○	1～3	都城市	14
12	7	金	宮崎市立本郷小学校	○		○	3	宮崎市	97
12	14	金	宮崎県立佐土原高等学校		○		1～3	宮崎市	720
12	16	日	宮崎県立宮崎大宮高等学校				1・2	宮崎市	14
12	17	月	宮崎市立大宮小学校	○			6	宮崎市	69
12	19	水	宮崎市立大宮小学校	○			6	宮崎市	68
12	24	月	宮崎県立宮崎大宮高等学校研修部				1・2	宮崎市	25
1	30	水	宮崎市立東大宮小学校	○			3	宮崎市	108
1	31	木	宮崎市立西池小学校	○			3	宮崎市	159
2	6	水	宮崎市立大宮小学校	○			3	宮崎市	160
2	14	木	宮崎市立みやざき中央支援学校			○	3	宮崎市	6
2	22	金	宮崎市立みなみのかぜ支援学校			○	1～3	宮崎市	65
2	27	水	向洋学園高等専修学校			○		宮崎市	9
3	8	金	宮崎市立宮崎西中学校			○	3	宮崎市	170
3	23	土	宮崎市立宮崎中学校美術部			○		宮崎市	13
3	23	土	宮崎市立住吉中学校美術部			○		宮崎市	15

【参考】その他の団体の利用状況

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
4	4	水	ソフトタウン高洲	宮崎市	8
4	4	水	デイサービスセンター春風	宮崎市	10
4	4	水	希望ヶ丘リハデイサービス	宮崎市	3
4	4	水	介護付有料老人ホーム ソフトタウン高洲	宮崎市	6
4	6	金	上新町いきいきサロン	日南市	13
4	6	金	じょいすてっぷ	宮崎市	11
4	6	金	Grow-Up松橋	宮崎市	10
4	6	金	養護老人ホーム 静和園	西都市	13
4	6	金	山元洋裁教室	都城市	9
4	7	土	学遊館つねひさ	宮崎市	11
4	7	土	松橋こども支援センター	宮崎市	4
4	7	土	アライヴ ふあいん神宮	宮崎市	5
4	8	日	GHわかば	日南市	12
4	9	月	スマイルシード恒久	宮崎市	3
4	9	月	デイサービス 楽	宮崎市	10
4	9	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
4	9	月	静和園デイサービスセンター	西都市	15
4	11	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
4	11	水	静和園デイサービスセンター	西都市	2
4	12	木	サポートセンターそしある	宮崎市	4
4	12	木	美郷町北郷遺族会	美郷町	34
4	12	木	静和園デイサービスセンター	西都市	6
4	12	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
4	12	木	サポートセンターそしある	宮崎市	4
4	14	土	ころころ保育園	宮崎市	64
4	14	土	こどもプラス宮崎教室	宮崎市	1
4	14	土	放課後等デイサービス みつばちキッズ機丸	宮崎市	6
4	14	土	放課後等デイサービス ふあいん	宮崎市	7
4	14	土	放課後等デイサービス 大地	宮崎市	10
4	16	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
4	18	水	建幸くらぶ万智	宮崎市	6
4	18	水	こどもプラス宮崎教室	宮崎市	3
4	19	木	祇園デイサービス	宮崎市	2
4	20	金	みつばちキッズ大淀	宮崎市	4
4	21	土	放課後等デイサービスツナグ	都城市	12
4	21	土	放課後等デイサービスピースヒルみらい	宮崎市	14
4	25	水	認定こども園ソレイユひまわり組	宮崎市	27
4	25	水	デイサービス ようこそ	宮崎市	13
4	25	水	清芳会 井上病院	宮崎市	4
4	30	月	放課後等デイサービスキッズラボ	都城市	6
5	2	水	タンポポ保育園	宮崎市	4
5	2	水	リハっする健康スタジオデイサービス	宮崎市	3
5	3	木	グループホーム101	宮崎市	5
5	3	木	まつばしKIDS	宮崎市	3
5	3	木	陽明小学	県外	49

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
5	4	金	放課後等デイサービスふあくとりーくらぶ	国富町	6
5	6	日	えがおの杜 GH・心音・茜音	宮崎市	9
5	6	日	松橋こども支援センター	宮崎市	6
5	7	月	春生会 くどみ児友園	宮崎市	23
5	10	木	サポートセンターそしある	宮崎市	3
5	10	木	高鍋町中央公民館事業 歴史講座	高鍋町	47
5	10	木	サポートセンターそしある	宮崎市	2
5	11	金	宮崎公立大学民俗学研究室	宮崎市	15
5	12	土	宮崎大学教育学部小中一貫教育コース	宮崎市	14
5	13	日	美郷町南郷身体障がい者福祉会	美郷町	12
5	17	木	白百合会	県外	10
5	18	金	日の出幼稚園	宮崎市	37
5	19	土	放課後等デイサービス さくら	宮崎市	6
5	20	日	住吉南小 テル新名爪こども会	宮崎市	61
5	21	月	小規模多機能ホーム おおつかの家	宮崎市	3
5	21	月	タンポポ保育園	宮崎市	5
5	21	月	共同保育園 どろんこ	宮崎市	9
5	21	月	綾町社会福祉協議会	綾町	6
5	21	月	おおつかの家	宮崎市	3
5	21	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
5	23	水	ドリトル加納	宮崎市	4
5	23	水	スマイルシード恒久	宮崎市	2
5	24	木	サポートセンターそしある	宮崎市	2
5	24	木	サポートセンターそしある	宮崎市	4
5	25	金	新城眼科保育室	宮崎市	4
5	25	金	南ヶ丘幼稚園	宮崎市	42
5	25	金	佐土原本町サロン	宮崎市	21
5	26	土	Happy Works	宮崎市	17
5	26	土	宮崎大学教育学部	宮崎市	16
5	26	土	まーぶるくらぶ	新富町	8
5	26	土	あさひがおか	三股町	13
5	28	月	くどみ児友園	宮崎市	20
5	28	月	スマイルシード潮見町	宮崎市	1
5	28	月	じょいすてっぷ	宮崎市	7
5	28	月	キャンパスの会	都城市	11
5	28	月	有料老人ホームあおば	宮崎市	5
5	28	月	社会福祉法人たらちね会じょいすてっぷ	宮崎市	5
5	28	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	7
5	30	水	うちやまこども園	宮崎市	15
5	30	水	日南市大堂津高齢者クラブ渚会	日南市	20
5	31	木	風光るゆめの森	宮崎市	15
5	31	木	野の花幼稚園	宮崎市	36
5	31	木	桜ヶ丘婦人学級	日南市	18
6	1	金	新城眼科保育室	宮崎市	2
6	2	土	南九州大学	都城市	11

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
6	2	土	松橋子ども支援センター	宮崎市	6
6	4	月	宮崎大学	宮崎市	16
6	4	月	平和が丘デイサービス	宮崎市	3
6	4	月	細見クリニック	宮崎市	6
6	6	水	ニチイケアセンター上北方	宮崎市	9
6	6	水	宮崎公立大学人文学部 田村ゼミ	宮崎市	25
6	8	金	風光るゆめの森	宮崎市	15
6	8	金	西都病院デイケア	西都市	21
6	9	土	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	21
6	9	土	南九州大学	都城市	13
6	9	土	浮之城ひまわり幼保園学童クラブ	宮崎市	20
6	9	土	ら・ぼるて	宮崎市	5
6	9	土	ピースヒルみらい	宮崎市	13
6	10	日	有料老人ホームあおば	宮崎市	3
6	10	日	E・TRAVEL	県外	23
6	11	月	細見クリニック	宮崎市	5
6	11	月	(有)彩華デイサービス ひまわりの社	宮崎市	6
6	16	土	ら・ぼるて	宮崎市	3
6	18	月	宮崎情報ビジネス医療専門学校	宮崎市	12
6	18	月	くどみ児友園	宮崎市	19
6	18	月	西都ふたば幼稚園	西都市	68
6	18	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	7
6	20	水	加納ひまわり幼保園	宮崎市	31
6	20	水	有限会社若葉会せんり	綾町	13
6	20	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
6	20	水	芳生会 あやめ館	宮崎市	5
6	21	木	芳生会 芳生あやめ館	宮崎市	4
6	21	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
6	21	木	春生会 春生倶楽部	宮崎市	8
6	22	金	茶臼原小学校家庭教育学級	西都市	8
6	22	金	那珂子ども園	宮崎市	16
6	22	金	芳生会あやめ館	宮崎市	4
6	23	土	タンポポ保育園	宮崎市	18
6	23	土	さくら会	宮崎市	4
6	23	土	スマイルシード潮見	宮崎市	6
6	23	土	松橋子ども支援センター	宮崎市	8
6	25	月	スマイルシード恒久	宮崎市	3
6	25	月	まつばし子ども支援センター	宮崎市	4
6	25	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
6	27	水	宮崎みなみ幼稚園	宮崎市	23
6	27	水	小林市赤十字奉仕団	小林市	28
6	27	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
6	28	木	野の花幼稚園	宮崎市	31
6	28	木	宮崎市社会福祉協議会 デイサービスセンター清武	宮崎市	14
6	29	金	向陽の里 くすのき寮	国富町	2

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
6	29	金	就労移行支援事業所 響	宮崎市	8
6	29	金	きんかん小規模多機能ホーム	宮崎市	6
6	30	土	大宮小学校 1-2組	宮崎市	61
6	30	土	タンポポ保育園	宮崎市	13
6	30	土	ら・ぼるて	宮崎市	2
7	2	月	くどみ児友園	宮崎市	23
7	2	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
7	4	水	JAIにじ年金友の会保養の旅 浮羽地区	県外	39
7	4	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
7	4	水	養護老人ホーム 松の寮	宮崎市	10
7	5	木	JAIにじ年金友の会保養の旅 田主丸地区	県外	43
7	5	木	神宮学幼稚園	宮崎市	2
7	5	木	くどみ児友園	宮崎市	18
7	5	木	生目幼稚園	宮崎市	50
7	5	木	学校法人山樺学園 みまた幼稚園	都城市	53
7	5	木	祇園デイサービス	宮崎市	4
7	5	木	児童発達支援センター わかば園	宮崎市	10
7	6	金	広瀬共栄幼稚園	宮崎市	16
7	6	金	大淀幼稚園	宮崎市	39
7	7	土	赤江保育園	宮崎市	30
7	7	土	ら・ぼるて	宮崎市	3
7	9	月	長生園	宮崎市	3
7	9	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	7
7	9	月	学園木花デイサービス	宮崎市	5
7	11	水	宮崎保健福祉専門学校	宮崎市	44
7	11	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
7	11	水	希望楽苑	宮崎市	15
7	12	木	祇園デイサービス	宮崎市	4
7	12	木	リバーサイド学園木花デイサービス	宮崎市	5
7	13	金	広瀬共栄幼稚園	宮崎市	13
7	13	金	長生園	宮崎市	3
7	14	土	新富幼稚園	新富町	28
7	14	土	立生佼成会	宮崎市	7
7	14	土	ら・ぼるて	宮崎市	5
7	14	土	ドンボスコ保育園	宮崎市	21
7	14	土	社会福祉法人なのはな村	都城市	11
7	15	日	宮大V38傘クラス会	県外	7
7	15	日	明照デイサービス	宮崎市	6
7	16	月	社会福祉法人明和会ピッコロ	宮崎市	12
7	18	水	本庄西部保育所	国富町	30
7	18	水	ひがし保育園	宮崎市	22
7	18	水	社会福祉法人やまびこ会 わかば保育園	三股町	48
7	18	水	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	26
7	19	木	こどものしろ保育園	宮崎市	12
7	19	木	あやちゃん家	宮崎市	6

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
7	19	木	昭和認定こども園	宮崎市	61
7	19	木	うちやまこども園	宮崎市	15
7	19	木	合同会社G&G	宮崎市	6
7	19	木	サポートセンターそしある	宮崎市	4
7	19	木	ひろせ幼稚園	宮崎市	59
7	20	金	ひがし保育園	宮崎市	19
7	20	金	ひがし保育園	宮崎市	27
7	21	土	日本ボーイスカウト西都第一団	西都市	7
7	21	土	スマイルシード恒久	宮崎市	9
7	21	土	ら・ぼるて	宮崎市	5
7	22	日	成華幼稚園	宮崎市	13
7	23	月	大宮公民館	宮崎市	16
7	23	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
7	25	水	ちびっこランド神宮園	宮崎市	8
7	25	水	のぞみ保育園	宮崎市	1
7	25	水	放課後等デイサービス もくせいクラブ	日向市	20
7	25	水	ニチイケアセンター上北方	宮崎市	4
7	25	水	放課後等デイサービス みつばちキッズ御丸	宮崎市	10
7	25	水	ピースヒルみらい	宮崎市	10
7	26	木	宮崎大学P S U受け入れ	宮崎市	12
7	26	木	花ヶ島幼稚園	宮崎市	16
7	26	木	芳士幼稚園	宮崎市	24
7	27	金	大田原保育園学童	国富町	14
7	27	金	くるみ保育園	三股町	41
7	27	金	エンジョイキッズ	宮崎市	2
7	27	金	じょいすてつぷ	宮崎市	10
7	27	金	松橋こども支援センター	宮崎市	12
7	27	金	生目台幼稚園	宮崎市	26
7	28	土	四本松子ども会	宮崎市	10
7	28	土	宮崎めぐみ聖書教会	宮崎市	12
7	28	土	びーだまクラブ	宮崎市	3
7	28	土	放課後等デイサービス ふあいん	宮崎市	8
7	28	土	川南次代を担う人作り基金事業	川南町	20
7	29	日	尾八重公民館	椎葉村	20
7	29	日	ひまわり学園	宮崎市	5
7	30	月	中島サンダース	県外	31
7	30	月	加納ひまわり幼保園	宮崎市	19
7	30	月	神宮学幼園	宮崎市	9
7	30	月	目井津高齢クラブ 柴松高齢クラブ	日南市	30
7	30	月	ら・ぼるて	宮崎市	3
7	30	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
8	2	木	放課後児童クラブF Aスクール	日向市	44
8	2	木	上尾原児童クラブ	県外	49
8	2	木	生活介護施設 ひまわり	宮崎市	5
8	3	金	放課後等デイサービス ジョケア	都城市	11

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
8	4	土	ユニバースアカデミー	都城市	35
8	4	土	放課後等デイサービス マーブルクラブ	新富町	8
8	4	土	韓国中学生	県外	35
8	4	土	ひなたかれっじ	宮崎市	8
8	6	月	ドリトル柳丸	宮崎市	9
8	6	月	放課後等デイサービス いちご	都城市	11
8	8	水	サティこども園	宮崎市	17
8	8	水	ケアハウス芳生ヴィラ	宮崎市	10
8	8	水	桜ヶ丘幼稚園	宮崎市	24
8	8	水	生活介護事業所 ねいろ	宮崎市	14
8	8	水	Grow-Up松橋	宮崎市	6
8	8	水	みなみこども園	宮崎市	16
8	9	木	つよし会 風の子タートルズ	日南市	20
8	10	金	光が丘幼稚園学童塾	宮崎市	40
8	10	金	サンサンクラブ三股	三股町	28
8	10	金	直純寺保育園	宮崎市	31
8	10	金	新田児童クラブ	新富町	19
8	10	金	南小児童クラブ	延岡市	14
8	10	金	放課後等デイサービス 日向の社	宮崎市	5
8	10	金	Grow-Up松橋	宮崎市	5
8	10	金	(株)アライヴ放課後等デイサービスファイン神宮	宮崎市	9
8	10	金	ハッピーコーポレーション	宮崎市	15
8	10	金	放課後等デイサービス ツナグ鷹尾	都城市	14
8	11	土	さくら会	宮崎市	5
8	11	土	韓国青年会	県外	13
8	12	日	松橋こども支援センター	宮崎市	5
8	14	火	松橋こども支援センター	宮崎市	6
8	15	水	Grow-Up松橋生活介護事業所	宮崎市	2
8	16	木	佐土原幼稚園	宮崎市	36
8	16	木	くどみ児友園	宮崎市	42
8	16	木	スマイルジム	都城市	11
8	16	木	松橋こども支援センターGrow-up松橋	宮崎市	4
8	16	木	児童クラブあいいく	西都市	26
8	16	木	あさひがおか学童	三股町	11
8	17	金	くどみ児友園	宮崎市	18
8	17	金	三宮学童クラブ	宮崎市	19
8	17	金	飛江田保育園	宮崎市	24
8	17	金	社会福祉法人げんき はにわの会 仲間の家	宮崎市	23
8	17	金	エンジョイキッズ	宮崎市	7
8	17	金	放課後等デイサービス キッズラボ	都城市	14
8	19	日	エデンの園	国富町	4
8	19	日	鳥居原団地こども会	宮崎市	17
8	20	月	神奈川県議会 文化芸術振興会	県外	9
8	20	月	国富町中央児童館	国富町	37
8	23	木	ふたば学童クラブ	宮崎市	13

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
8	23	木	住吉幼稚園	宮崎市	40
8	23	木	上学童クラブ	県外	53
8	23	木	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	24
8	24	金	ふたば学童クラブ	宮崎市	8
8	24	金	みつばちキッズ	宮崎市	7
8	24	金	ゆめの花	宮崎市	9
8	24	金	デイサービス ゆずり葉	宮崎市	13
8	25	土	宮崎公立大学	宮崎市	8
8	25	土	Good Jobs	宮崎市	8
8	27	月	わかば保育園	宮崎市	16
8	29	水	ふれあい遠足会	川南町	14
8	29	水	児童養護施設 みんせいかん	宮崎市	11
8	29	水	木脇保育園 児童クラブ	国富町	4
8	30	木	もものき保育園	高鍋町	16
8	30	木	はーとねっと五番館	宮崎市	2
8	30	木	スマイルシード恒久	宮崎市	6
8	30	木	G r o w - u p 松橋	宮崎市	2
8	30	木	ケアホームさくら荘清武	宮崎市	7
8	30	木	はーとねっと五番館	宮崎市	2
8	31	金	三股みどり保育園	三股町	26
8	31	金	いずみ幼稚園	宮崎市	40
8	31	金	みなみこども園	宮崎市	23
8	31	金	向陽の里	国富町	3
9	1	土	グローバル キッズ	小林市	13
9	1	土	放課後等デイサービス 変わらぼうし	国富町	5
9	1	土	保団連九州ブロック事務局 宮崎県保険医協会	県外	21
9	3	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	7
9	5	水	宮崎市神話観光ガイド ボランティア協議会	宮崎市	33
9	5	水	デイサービス 雁ヶ音	宮崎市	8
9	5	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
9	6	木	祇園デイサービス	宮崎市	4
9	7	金	くどみ児友園	宮崎市	16
9	7	金	就労移行支援事業所 響	宮崎市	5
9	7	金	コクエイ消毒	県外	7
9	8	土	タンポが保育園	宮崎市	19
9	22	土	G r o w - u p 松橋	宮崎市	8
9	26	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
9	27	木	神宮学幼稚園	宮崎市	2
9	27	木	川越 伸夫	日南市	6
9	27	木	サポートセンターそしある	宮崎市	3
9	27	木	サポートセンターそしある	宮崎市	3
9	27	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
9	27	木	はーとねっと五番館	宮崎市	2
9	28	金	くどみ児友園	宮崎市	7
10	1	月	細身クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
10	3	水	内山こども園	宮崎市	14
10	4	木	脇本こすもすサロン	日南市	15
10	4	木	風田婦人学級	日南市	15
10	5	金	放課後等デイサービス はるぐち	宮崎市	3
10	5	金	平和が丘保育園地域子育て支援センター	宮崎市	15
10	5	金	びーだまクラブ	宮崎市	5
10	5	金	アジアライアンス構築委員会	県外	6
10	5	金	杉水流高齢者クラブ	えびの市	23
10	5	金	清芳会	宮崎市	8
10	6	土	宅老所 くんぱち	宮崎市	7
10	7	日	古河青年会議所	県外	12
10	7	日	丸山 庸次 ご兄弟	都城市	7
10	7	日	Eikoh-D&O	県外	39
10	8	月	荒殿珠算教室	都城市	12
10	10	水	中央生きがい学級	小林市	25
10	10	水	すずのや	宮崎市	10
10	10	水	ひまわりの杜	宮崎市	2
10	11	木	デイサービスセンター うしたに	宮崎市	7
10	11	木	デイサービス ひまわりの杜	宮崎市	3
10	12	金	東京印章協同組合	県外	8
10	13	土	小松台小学校家庭教育学級	宮崎市	36
10	15	月	黒田こども園	宮崎市	18
10	15	月	乙房こども園	都城市	23
10	15	月	神宮学幼稚園	宮崎市	2
10	15	月	ふたば保育園	宮崎市	25
10	15	月	迫野内女性学級	日向市	14
10	15	月	デイサービスセンター うしたに	宮崎市	7
10	15	月	ひまわりの杜	宮崎市	2
10	18	木	高千穂幼稚園	宮崎市	20
10	18	木	串間市大東自治会	串間市	10
10	18	木	文化財保護指導委員連絡会議	宮崎市	11
10	19	金	宮崎県博物館協議会	宮崎市	10
10	20	土	江平小学校1年1組	宮崎市	31
10	20	土	日進電気会	県外	9
10	20	土	宮崎県地域史研究会	宮崎市	35
10	22	月	八重原学級	日向市	11
10	22	月	東海東小学校家庭教育学級	延岡市	14
10	22	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
10	24	水	サポートセンターそしある	宮崎市	2
10	25	木	ソフトタウン神宮東	宮崎市	3
10	25	木	きりしまの園デイサービスセンター	小林市	27
10	26	金	デイサービスはつらつ青葉	宮崎市	10
10	27	土	宮崎大学学芸員養成課程	宮崎市	17
10	27	土	岡部 喜久雄	県外	5
10	27	土	秋田県大仙市訪問団	県外	29

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
10	28	日	株式会社SASAKI	県外	15
10	29	月	あさぎり町文化協会	県外	43
10	29	月	デイサービスはつらつ青葉	宮崎市	10
10	29	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	7
10	31	水	あさひ高齢者クラブ	都城市	24
10	31	水	井上病院	宮崎市	14
10	31	水	デイサービスはつらつ青葉	宮崎市	11
11	1	木	養護老人ホーム 清風園	都城市	16
11	1	木	すこやか大学有明学級	県外	32
11	1	木	デイサービスはつらつ青葉	宮崎市	10
11	2	金	大王谷さくら会	日向市	16
11	2	金	デイサービスはつらつ青葉	宮崎市	5
11	5	月	宮崎市中心東地区社会福祉協議会	宮崎市	48
11	5	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
11	5	月	大空クリニックデイケア	宮崎市	6
11	7	水	たちばなふるさとふれあい学園	都城市	34
11	7	水	レインボー住吉	宮崎市	5
11	7	水	潮見保育園	宮崎市	58
11	8	木	レインボー住吉	宮崎市	6
11	8	木	西都病院2病棟	西都市	10
11	9	金	佐野市議会	県外	7
11	9	金	レインボー住吉	宮崎市	6
11	9	金	西都社会福祉協議会	西都市	13
11	10	土	あかつきヘルパーサービス	宮崎市	2
11	12	月	社会福祉法人たちね会 じよいすてつぷ	宮崎市	6
11	12	月	Grow-Up松橋	宮崎市	3
11	12	月	わかば園	宮崎市	22
11	12	月	鬼塚ミユキ様	宮崎市	5
11	12	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	3
11	14	水	鉱脈社 おとなの見学スコーレ	宮崎市	21
11	14	水	JTB福岡支店	県外	4
11	14	水	ソニア	宮崎市	7
11	14	水	文化財課	宮崎市	4
11	15	木	細野いきがい学級	小林市	33
11	15	木	高鍋東中学校PTA 家庭教育学級	高鍋町	15
11	16	金	綾幼稚園	綾町	26
11	16	金	石山高齢者学級	都城市	31
11	17	土	障がい福祉サービス事業所 みずいろ	宮崎市	3
11	18	日	ボーイスカウト宮崎6団	宮崎市	14
11	18	日	谷五自治公民館婦人部	都城市	21
11	19	月	八幡保育所	新富町	30
11	19	月	宮崎大学特展ガイドツアー (AM)	宮崎市	26
11	19	月	原向生き生きサロン (はるむこ)	日南市	22
11	19	月	園田美沙様	宮崎市	8
11	19	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	3

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
11	19	月	宮崎大学特展ガイドツアー (PM)	宮崎市	14
11	21	水	鶴松館ガイドの会	宮崎市	10
11	21	水	北川町高齢者大学	延岡市	39
11	21	水	サポートセンターそしある (AM)	宮崎市	2
11	21	水	サポートセンターそしある (PM)	宮崎市	3
11	21	水	佐土原小学校 職員研修	宮崎市	21
11	22	木	JAはまゆう女性部	日南市	16
11	23	金	放課後等デイサービス ら・ぼるて	宮崎市	7
11	28	水	東霧島高齢者学級	都城市	23
11	28	水	神宮学幼稚園	宮崎市	1
11	28	水	くにとみ史跡、文化ガイドの会	国富町	7
11	29	木	日向市美々津町石並長寿会	日向市	29
11	29	木	カリタスの園 竹の寮	宮崎市	4
11	30	金	江平高齢者学級	宮崎市	35
12	1	土	門川町かどっこキャンパス	門川町	17
12	2	日	宮崎大学博物館情報メディア論	宮崎市	32
12	3	月	神宮学幼稚園	宮崎市	8
12	3	月	放課後等デイサービス スポーツパークBASIS	宮崎市	7
12	3	月	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	4
12	3	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
12	5	水	国富保育園	宮崎市	22
12	5	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
12	6	木	(株)ユメホーム	県外	8
12	6	木	タンポポ保育園	宮崎市	11
12	6	木	門川町高齢者クラブ連合会	門川町	18
12	6	木	JA天草女性部ふれあいの旅	県外	44
12	7	金	宮崎県シンガポール親善協会	宮崎市	34
12	7	金	綾町教育委員会	綾町	9
12	7	金	いきいきサロン東西会	新富町	21
12	7	金	わにつか荘デイサービス	宮崎市	6
12	10	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
12	13	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
12	16	日	TEAM 101	宮崎市	49
12	17	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	4
12	19	水	新城眼科保育室	宮崎市	2
12	19	水	わかば園	宮崎市	23
12	20	木	のぞみ保育園	宮崎市	19
12	20	木	くども児友園	宮崎市	23
12	20	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	5
12	22	土	ひなたかれっじ	宮崎市	7
12	23	日	宮崎大学学芸員養成課程「博物館資料論」自然系講義	宮崎市	11
12	26	水	くども児友園	宮崎市	21
12	27	木	サポートセンターそしある	宮崎市	3
1	5	土	タンポポ保育園	宮崎市	11
1	6	日	小規模多機能ホーム よかよか	宮崎市	6

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
1	7	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
1	9	水	くども児友園	宮崎市	20
1	9	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
1	10	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
1	11	金	障害者施設 ハッピーヒル	都城市	7
1	12	土	スポーツパーク BASIS	宮崎市	12
1	16	水	南宮崎カトリック幼稚園	宮崎市	25
1	16	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
1	17	木	南九州大学	都城市	48
1	17	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
1	18	金	高岡幼稚園	宮崎市	13
1	19	土	アニマート宮崎しまのうち	宮崎市	6
1	30	水	向陽の里	国富町	4
1	30	水	芳士幼稚園	宮崎市	21
1	30	水	南島原市議会広報誌特別委員会	県外	8
1	31	水	宮崎県東アジア交流	県外	10
2	4	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
2	6	水	神宮学幼稚園	宮崎市	3
2	6	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
2	6	水	タンポポ保育園	宮崎市	14
2	7	木	36区福祉推進会	西都市	12
2	7	木	デイサービス アットホーム	宮崎市	6
2	7	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	5
2	9	土	(株) フリーダム	宮崎市	2
2	9	土	宮崎県山村木材振興課みやざきスギ活用推進室	宮崎市	11
2	10	日	ハビビ	県外	13
2	11	月	放課後等デイサービス ビーだまクラブ	宮崎市	3
2	13	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
2	14	木	神宮学幼稚園	宮崎市	4
2	14	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
2	15	金	合同会社G&G m-front	宮崎市	4
2	15	金	井上病院	宮崎市	2
2	16	土	宇宙少年団内之浦銀河分団	県外	15
2	16	土	みつばちキッズ柳丸	宮崎市	9
2	18	月	サポートセンター そしある	宮崎市	4
2	18	月	山田りんどう学園	都城市	36
2	18	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
2	18	月	サポートセンター そしある	宮崎市	4
2	20	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
2	21	木	聖愛幼稚園	都農町	11
2	21	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
2	22	金	みなみこども園	宮崎市	20
2	22	金	野崎病院精神科デイケアにじのおか	宮崎市	49
2	22	金	モジラ・テラス	都城市	8
2	22	金	中村茂靖様	宮崎市	8

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
2	24	日	ボーイスカウト宮崎5団	宮崎市	16
2	25	月	横町さくら保育園	宮崎市	18
2	25	月	西小林小学校家庭教育学級	小林市	7
2	25	月	モデスト	宮崎市	7
2	25	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
2	27	水	社会福祉団体 なごみ会	宮崎市	19
2	27	水	井上病院	宮崎市	14
2	28	木	フレンズ	宮崎市	4
3	2	土	まいづるカード会	高鍋町	20
3	2	土	放課後等デイサービス エンジョイキッズ加納	宮崎市	3
3	2	土	スポーツパーク BASIS	宮崎市	9
3	3	日	ホームやまびこ	宮崎市	5
3	4	月	いずみ幼稚園	宮崎市	47
3	4	月	じょいすてっぷ	宮崎市	4
3	4	月	こごうメンタルクリニック	宮崎市	14
3	4	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	6
3	4	月	はまゆう赤江デイサービス	宮崎市	7
3	6	水	跡江保育所	宮崎市	44
3	6	水	神宮学幼稚園	宮崎市	6
3	6	水	末吉文化協会	県外	24
3	6	水	NPO法人 オレンジ	宮崎市	6
3	6	水	福祉サービス作業所 ポノポノ	宮崎市	17
3	6	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
3	7	木	はまゆう赤江デイサービス	宮崎市	5
3	7	木	グローアップ松橋 生活介護事業所	宮崎市	2
3	7	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	7
3	8	金	農協観光 熊本支店	県外	23
3	8	金	古河YEG	県外	9
3	8	金	みんなのサービス	西都市	17
3	8	金	新城眼科保育室	宮崎市	4
3	9	土	スマイルシード潮見町	宮崎市	28
3	9	土	セサミファーム	新富町	22
3	9	土	ピッコロ	宮崎市	12
3	9	土	健幸くらぶ万智	宮崎市	10
3	9	土	戦国ドッジボール	県外	13
3	10	日	延岡市ボランティア協会	延岡市	81
3	10	日	すずめの学校	県外	28
3	11	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
3	13	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
3	14	木	串間ハッピーつながり隊	串間市	12
3	14	木	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
3	16	土	あすなろの里	宮崎市	18
3	16	土	のぞみ園	延岡市	45
3	17	日	ホームやまびこ	宮崎市	4
3	18	月	栗下自治会女性部	えびの市	17

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
3	18	月	細見クリニックデイケアかなりあ	宮崎市	5
3	20	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
3	20	水	リサイクル工房	宮崎市	21
3	20	水	新富町こころの駅 ハッピーパーク	新富町	6
3	21	木	グリーンハート川南	川南町	26
3	21	木	双石山の会	宮崎市	14
3	23	土	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	17
3	23	土	グリーンハート宮崎	宮崎市	14
3	24	日	ホームやまびこ	宮崎市	4
3	24	日	セサミ都農	都農町	15
3	25	月	細見クリニックデイケア	宮崎市	5
3	27	水	鐘ヶ浜学園	日向市	9
3	28	木	向洋の里	国富町	4
3	28	木	タンポポ保育園	宮崎市	7
3	28	木	浮之城ひまわり幼保園	宮崎市	16
3	28	木	放課後等デイサービス リボン	宮崎市	5
3	28	木	清武町さんさんクラブ新町おしゃべりカフェ、リン	宮崎市	11
3	28	木	ピア、メンタルささき病院デイケア	宮崎市	14
3	28	木	三股町放課後等デイサービス旭が丘児童クラブ	三股町	13
3	29	金	社保 げんき はにわの会 仲間の家	宮崎市	23
3	30	土	グループホーム心音	宮崎市	5

4 教育普及

県民誰もが参加でき、本県の自然や歴史について楽しく学べるような学習機会を提供することを目的に、本館ではこれまで収集してきた資料や調査研究成果を積極的に活用しながら、学校や関係機関と連携して、学校教育に対する支援や展示解説員による普及活動、各種講座などを行っている。

(1) 学校教育支援

① 学校の受け入れ

学校団体が、遠足や授業などで本館を訪問する形での利用があり、平成30年度は、小学校102校、中学校10校、高等学校8校、特別支援学校4校、幼稚園・保育園・認定こども園105校の計229校を受け入れた。

② 教員研修等への支援

学校の部会や研修会等の講師として、担当の専門性を生かした指導・助言を行った。

ア 南那珂地区教科等研究会生活科部会への協力

担当：岩切勝彦（植物部門）

期日：平成30年10月18日（木）

場所：日南市立榎原小学校

内容：南那珂地区の各小学校生活科主任を対象とした研修会において「身のまわりにある植物の教材化と活用」と題した講義・講習を行った。スライドを使った講義や「どんぐりクラフト作り」の演習など、新学習指導要領における改善の基本方針を考慮して実施した。

イ 宮崎市立佐土原小学校職員研修への協力

担当：野添和洋（民俗部門）

期日：平成30年11月21日（水）

場所：総合博物館 特別展示室

内容：宮崎市立佐土原小学校の学校職員に対し、特別展「日向国の明治維新 ～戊辰戦争から西南戦争まで～」の展示概要や佐土原藩に関連する展示資料について解説した。

参加者：25人

③ 授業への支援

専門的な内容をテーマにした授業がある場合に、担当教員と事前の打ち合わせを十分行った上で、本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行っている。

ア 宮崎北高等学校・宮崎県総合博物館連携事業「宮崎と自然」と「海洋と大地」

担当：松田清孝（地質部門）、岩切勝彦（植物部門）

期日：平成30年5月19日（土）9:00～12:00「宮崎と自然」（場所：総合博物館）

：平成30年6月2日（土）9:00～12:00「宮崎と自然」（場所：総合博物館）

：平成30年6月16日（土）9:00～12:00「宮崎と自然」（場所：総合博物館）

：平成30年6月26日（火）8:00～16:00「海洋と大地」（場所：屋久島）

：平成30年9月8日（日）9:00～12:00「宮崎と自然」（場所：総合博物館）

対象：宮崎北高等学校サイエンス科1年生（41名）

内容：本格的な専門学習を行う前に、宮崎と屋久島の自然探求をフィールドワークの観点から比較しながら行うことを通して、探究活動の方法やまとめ方・報告の仕方などを経験させた。また、本館が事業に積極的にかかわることで、今後科学を

専門的に学習・研究していくことになる若い人材に対し、地元宮崎の自然への関心を高めてもらう機会とすることができた。

イ 宮崎西高等学校附属中学校「青島巡検（探求）」への協力

担当：岩切勝彦（植物部門）

期日：平成30年11月20日（火）

場所：野島神社、青島

内容：宮崎西高校附属中学校1年生2クラスを対象として、県内に自生する亜熱帯植物を中心に解説する巡検を行った。この後生徒達は2年生で綾町の照葉樹林を観察する巡検を行い、3年生で種子島と屋久島の自然について理解を深める統一的な学習を実施することとなっている。今回はその導入的な位置づけであることを特に意識した内容として、各観察ポイントで宮崎県と屋久島・種子島の自然について比較しながら解説した。

参加者：84人（1年生）



青島巡検のようす

ウ 宮崎大学日本史ゼミ等への協力

担当：佐藤省吾（歴史部門）

期日：平成30年11月3日（土）、11月19日（月）

場所：総合博物館 特別展示室

内容：宮崎大学日本史ゼミや基礎教育「現代社会と歴史(1)～近現代日本とアジア（外交と戦争）～」の受講生などに対し、特別展「日向国の明治維新～戊辰戦争から西南戦争まで～」の展示資料について、それぞれの資料の特徴、見方、取扱い方などを解説した。

参加者：60人



エ 宮崎大学博物館実習事前指導への協力

担当：濱田真理（学芸課）、植木京・宮本岬（展示解説員）

期日：平成30年6月4日（月）

場所：総合博物館 研修室1、自然史・歴史・民俗展示室、特別展示室ほか

内容：博物館等で館園実習を受ける学生に対する事前指導の一環として、当館の事業内容や学芸課職員の業務内容の説明を行ったほか、常設展示解説、特別展「第38回SSP展」の解説等を行った。

参加者：19人

オ 宮崎市立大宮小学校への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：平成30年12月17日（月）・19日（水）

場所：総合博物館 自然史展示室・研修室1

内容：地質に関する学習のまとめとして、博物館の資料を活用した授業に協力した。

宮崎県全体や学校周辺の地質の説明、県内で産出する化石の紹介を行った。

参加者：137人（6年生）

カ 宮崎保健福祉専門学校への協力

担当：野添和洋（民俗部門）、首藤由紀・中原順子（展示解説員）

期日：平成30年7月11日（水）

場所：総合博物館 民俗展示室・研修室1

内容：博福連携として実施している「博物館で思い出を語ろう！」事業の概要を民俗担当が解説、展示解説員が民俗展示室を回りながら具体的な取組を説明し、授業の支援を行った。

参加者：45名



解説の様子

④ 「教員のための博物館の日」事業

「教員のための博物館の日」事業は、学校の教員に博物館へ親しみを持ってもらうとともに、授業において博物館の使い方を知ってもらうことを目的に、国立科学博物館が全国の博物館等施設に呼びかけて平成25年度からスタートした事業である。本県では、宮崎科学技術館との交互開催で実施している。

担当：中山貴義（地質部門）、野添和洋（民俗部門）

期日：平成30年8月8日（水）

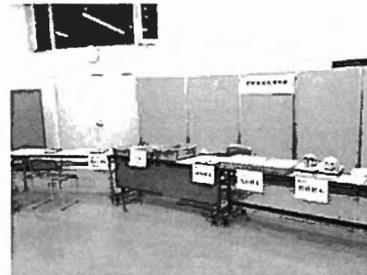
場所：宮崎科学技術館

内容：本館からは民俗部門と地質部門の参加となった。民俗部門からは、県内の神楽の紹介として映像資料DVDの上映、面や衣装の展示と解説、学校貸出資料として昔の道具セットの展示を行った。地質部門からは、県内で見られる岩石の展示と解説、岩石の分類を通したミニ図鑑の作成体験、学校貸出資料として化石標本、頭骨レプリカ標本の展示を行った。

参加者：37人



民俗部門のブース



地質部門のブース

⑤ 学校への資料貸出し

本館では、学校支援の一環として、授業等で活用することの多い資料をセットにして、学校への貸出しを行っている。また、リスト以外の資料についても随時相談に応じている。

ア 主な貸出しセット（本館HPに掲載）

【動物】乾燥標本（トンボ、チョウ、ハチ等）、剥製標本（ほ乳類、鳥）、骨格標本（ほ乳類）

【植物】教科書掲載押し葉植物標本、コケ・シダ模型

【地質】鉱物・岩石標本、人類頭骨レプリカ、化石レプリカ

【歴史部門】蒙古襲来絵詞・西郷札・地券写真パネル、伊能図（複製）、防空ずきん

【民俗部門】むかしの道具等写真パネル、むかしの道具貸出しキット

イ 学校貸出し実績

学校名	期間	資料	点数
日向市立日知屋東小学校	9/5～9/10	昆虫乾燥標本	13点
国富町立森永小学校	11/12～11/22	県内岩石標本セット	7セット
宮崎市立住吉中学校	12/2～12/10	人類頭骨レプリカ	4点
延岡市立東海小学校	1/6～2/3	むかしの道具貸出しキット	1セット

⑥ 職場体験学習・インターンシップの受入れ

中高生の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成を図るため、毎年度、学校教育一環として行われている中学校の職場体験学習と高等学校のインターンシップの受け入れを行っており、平成29年度は中学校4校11人を受け入れた。

期 間	日数	学校名	学年・人数
6月20日(水)～6月21日(木)	2日間	宮崎大学教育学部附属中学校	2年生3人
7月4日(水)～7月6日(金)	3日間	宮崎市立宮崎東中学校	2年生3人
11月14日(水)～11月15日(木)	2日間	宮崎市立生目中学校	2年生3人
11月28日(水)～11月29日(木)	2日間	宮崎市立赤江中学校	2年生2人

⑦ 博物館実習生の受入れ

学芸員資格取得を希望する大学生に対して、博物館の概要や学芸員の業務等についての理解と、展示や普及活動の実習を通しての知識や技能の習得を目的として、本館での実習を行っている。平成30年度は、5大学7人の実習生を受け入れた。

期 間：平成30年8月22日(水)～8月31日(金)の8日間(8/26(日)と8/28(火)を除く)

実習生：在籍大学・学部、人数については次のとおり。

大学・学部等	人数
高知大学理学部	1人
大東文化大学外国語学部	1人
南九州大学環境園芸学部	3人
宮崎大学教育文化学部	1人
宮崎大学農学部	1人

(2) 展示解説員による普及活動

来館された方に対してきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度を本格スタートさせた。展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

【展示解説員が担当する催し物の参加者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定時解説及び通常解説	216	2,284	634	677	411	268	1,637	2,781	296	293	357	188	10,042
紙芝居	383	611	327	1,096	1,061	452	258	291	292	202	352	525	5,850
むかしのあそび	232	312	463	475	962	429	233	196	167	298	206	597	4,570
クイズラリー	148	310	159	73	68	59	45	141	60	73	97	85	1,318

① 常設展示室の展示解説

常設展示室では、来館者が展示資料等に関する理解を深め、本県の自然や歴史に対する関心を持ってもらうため、展示解説員による展示解説を行っている。この展示解説には、あらかじめ日時と展示室を指定して定期的に行う「定時解説(ガイドツアー)」と、来館者の要望に応じて随時行う「通常解説」があり、申込みに応じて実施している。

まず、定時解説については、毎週土曜日、日曜日、祝日の午前と午後に、自然史、歴史、民俗の各展示室を指定して、30分程度の解説を行っている。また、通常解説には、個人解説と団体解説があり、時間、内容、展示室についての入館者の希望に可能な限り対応しており、特に、学校団体には、希望に応じて「むかしの道具」の解説マニュアルを使った解説を行っ

たり、視覚障害者向けには触察資料を紹介するマニュアルを用いた解説を行っている。

平成30年度に展示解説を受けた方の数は10,042人であった。

② 催し物の運営

展示解説員の企画運営により、次の催し物を行った。

ア 紙芝居

歴史展示室「時代のひろば」にて、紙芝居を日曜日及び祝日に2回（午前11時30分～、午後2時30分～）実施した。紹介する紙芝居は、各回とも2話である。紙芝居は、「時代のひろば」に設置している紙芝居舞台を用いた。

また、移動可能な紙芝居用自転車を利用して、民家園春まつりや博物館ひなまつり等のイベントでも紙芝居を行った。

平成30年度の紙芝居参加者は5,850人であった。

イ むかしのあそび体験ひろば

毎月第1・3・5土曜日（午前9時～午後4時）に、歴史展示室「時代のひろば」で、「けん玉」「お手玉」「あやとり」「おはじき」など遊び道具を用い、「むかしのあそび」を体験する場を設けた。遊び方については、展示解説員がアドバイスをした。

また、5月5日（土）には、「むかしのあそび拡大版」を実施した。この日は、通常の遊び道具に加え、「とんとん相撲」や「魚釣りゲーム」「だるま落とし」などを用意した。

平成30年度の体験者数は4,570人であった。

ウ クイズラリー

クイズラリーは、館内の展示資料を見ながら、用意された問題（クイズ）を解いていく催しで、定期的実施する通常版と、来館者の多い時期に実施する特別版がある。

通常版には、個人用と団体用があり、個人用の対象は小中高生で、毎月第2・4土曜日の午前9時から午後4時まで参加を受け付けて実施しており、参加者には参加賞を、設定した段階をクリアした正解者には認定書と賞品を贈呈することとしている。団体用は、低学年、高学年、高校生までを対象とした問題を4種類用意しており、親子会や児童クラブ等のレクリエーションや学級単位での利用があった。

特別版では、ゴールデンウィーク期間中に「みどりの日クイズラリー」、文化の日に「文化の日クイズラリー」と題して、館内と民家園を巡って解く特別問題を作成し、全問正解者の中から抽選で賞品を贈呈することとしている。

平成30年度は、通常版に1,110人（個人用947人、団体用12団体163人）、特別版は5月4日に140人、11月3日に68人の参加があり、計1,318人の参加があった。

③ 地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

本館では高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に「博物館で思い出を語ろう！」事業を試行的に実施しており、展示解説員が来館当日の団体対応をはじめ、実施マニュアルの作成、福祉施設との連絡調整などを担当している。

（活動の詳細は67頁参照）

④ 「博物館わくわく通信」の発行

総合博物館の資料や活動などを紹介する「博物館わくわく通信」（年2回発行）は、展示解説員が作成を担当しており、4月と10月に発行した。幅広い方々に楽しめるように分かりやすい表記を心がけている。また、館内での掲示も行い、周知に努めている。

※その他展示解説員が担当する業務

展示解説員は①～④を担当する他、本館の普及活動等に関わる次の業務も担当している。

- ゴールデンウィークイベント等の企画立案
- イベント運営（博物館こども DAY、民家園春まつり、博物館ひなまつり、風車フェスタ）
- 展覧会の開会式における司会進行と介添え、誘導、監視
- 展覧会の準備補助、チラシ等発送業務
- 学芸課が行う講座などの補助
- 燻蒸期間やメンテナンス期間、特別整理期間における展示室・収蔵庫の整理・清掃
- IPM ウォッチング
- 広報推進委員会出会
- SNS による広報

(3) 博物館講座

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座がある。特に、普及講座では、県内各地（宮崎市以外）を会場として館外で実施するものを地域講座として位置づけ、地域バランスを考慮しながら、県下全域に講座会場を設定して実施している。

平成30年度は、野外講座を含む講座総数24（地域講座9を含む）を設定。荒天により2講座が中止となった。特別展関連講座と合わせて29講座を実施、受講者総数は933人であった。

【平成30年度の博物館講座参加者数一覧】

博物館講座参加者数	933人
① 普及講座	659人
② 特別展示関連講座	274人

① 普及講座（※地は地域講座）

No	部門	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	動物	地磯の生きものを観察しよう		平成30年 5月29日	野島	43
2	歴史	よろい・かぶと着用体験！		5月21日	1階エントランスホール	123
3	民俗・動物	地酒谷川のノボリコ漁と生きもの	太田 祐光氏 戸田 博氏	5月6日	酒谷川河川敷	中止
4	動物	地岬馬を観察しよう	秋田 優氏	5月19日	都井岬	11
5	歴史	宮崎の歴史を学ぶ1	関 周一氏	6月16日	研修室1	63
6	普及	学校の授業で博物館を使ってみよう		6月23日	研修室2	4
7	動物	標本講座「昆虫標本をつくろう②」		7月28日	研修室2	23
8	植物	標本講座「押し葉標本をつくろう」		7月29日	研修室2	27
9	地質	標本講座「化石標本クリーニング体験」		7月30日	研修室2	41
10	自然史	採集作品の名前を調べる会		8月18日	情報室	51
11	資料保存	ワークショップ フスマの下張り文書はがしに挑戦！		8月25日	研修室2	24
12	考古	「小丸川下流域の考古学－弥生時代から古墳時代のムラと墓－」		9月9日	研修室1	34
13	民俗	みやざきの神楽を学ぼう	前田 博仁氏	9月29日	研修室1	17
14	植物	地行藤山できのこの観察をしよう		9月30日	行藤山	中止
15	植物	地霧島山で秋の植物観察をしよう		10月20日	霧島山	15
16	動物	地出張講座「チリメンモンスターをGetしよう！」		10月21日	三股町立文化会館	16
17	地質	地宮崎の天然記念物めぐり①～日向岬		10月27日	日向岬周辺	13
18	考古	地男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察しよう		11月4日	西都原古墳群	29
19	植物	草木染めに挑戦！	中武 享子氏	11月11日	研修室2	20
20	地質	地宮崎の天然記念物めぐり②～猪崎鼻		11月23日	猪崎鼻	17

21	動物	これからはじめるバードウォッチング	前田 幹雄氏 猪崎 悦子氏	11月25日	研修室1 神宮の森	18
22	民俗	佐土原人形絵付け体験	下西 美和氏 金丸 琴路氏	12月1日	研修室1	23
23	地質	海岸の砂を顕微鏡で見よう		平成31年 2月17日	研修室2	27
24	地質	化石レプリカをつくろう		3月3日	研修室2	20

② 特別展示関連講座

No	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	SSP 展関連講座 子ども写真教室「生き物写真のスズメ」	東木場 昭裕氏	平成30年 4月30日	研修室1 宮崎神宮の森	18
2	SSP 展関連講座 プロ写真家東木場昭裕氏の 「SSPの作品にTRY! II」	東木場 昭裕氏	5月20日	研修室1 研修室2	午前14 午後10
3	むしムシ虫展関連講座「昆虫標本をつくろう①」		7月21日	研修室2	26
4	むしムシ虫展関連講演会 虫のしわざ ～あっ!こんなところにも、あんなところにも～	新開 孝氏	8月11日	研修室1	34
5	ムシ虫ムシ虫展関連講演会 ゲッチョ先生の自然観察入門 ～身近な虫のふしぎ～	森口 満氏	8月19日	研修室1	51
6	日向国の明治維新展関連講座 「薩長同盟の成立と展開」	三宅 紹宣氏	10月27日	研修室1	61
7	日向国の明治維新展関連講座 「宮崎の歴史を学ぶ2」	増田 豪氏	11月17日	研修室1	60

【主な講座実施例】

ア 博物館講座「岬馬を観察しよう」

実施日：平成30年5月19日(土)

講師：秋田 優 氏 (串間市役所商工観光スポーツランド推進課)

実施場所：都井岬 (串間市)

参加者：11人

内 容：岬馬は国の特別天然記念物にも指定されており、今回の講座はその行動を観察しながら種の保存の重要性について学ぶ事を目的として実施した。当日は5月上旬に産まれたばかりの春駒を間近で見学できるなど貴重な体験ができた。



岬馬の春駒

都井岬は、岬馬だけではなく、「オキナグサ」、「ノヒメユリ」などの絶滅危惧種の植物も自生する貴重な土地である。講師の秋田氏は、このような土地の重要性について分かりやすく説明し、参加者の中には熱心にメモをとられる方もいた。

イ 博物館講座「男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察しよう」

実施日：平成30年11月4日（日）

実施場所：西都市 西都原古墳群（男狭穂塚・女狭穂塚古墳）

参加者：29人

内 容：国指定史跡の古墳群を歩いて、その地域の歴史を学ぶことを目的に、毎年度文化の日を実施している考古部門の野外講座で、今年度は西都市の特別史跡西都原古墳群（男狭穂塚・女狭穂塚古墳）で実施した。

九州最大の中期古墳である女狭穂塚・男狭穂塚古墳（全長176m）は陵墓参考地であるので、外周を歩きながら、

資料の測量図で墳丘・堀・外堤、前方後円墳と帆立貝形古墳の違いについて観察した。陪冢である169・170・171号墳では出土した葺石の有無、墳丘の形・高さや出土した埴輪の違いを観察した。またこの場所になぜ巨大古墳が造営されたのかを地形及び西都原古墳群の成り立ちや変遷・埴輪からヤマト王権との関わりで説明した。

陵墓参考地であるため外周からは男狭穂塚・女狭穂塚古墳の形が分かりにくかったが、年に1回の一般参拝の際に参道からある程度男狭穂塚古墳の特徴が観察でき、天候にも恵まれ、男狭穂塚・女狭穂塚古墳の巨大古墳に触れた講座となった。



古墳を前にした解説

(4) 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業については、平成19年度の「民家園利活用構想報告書」をもとに、平成20～21年度は「民家園利活用促進事業」、平成22～23年度は「民家園環境整備事業」、平成24～25年度は「総合博物館民家園を活用した故郷の四季体験事業」として展開してきており、平成26年度から「民家園民俗文化体験事業」として、正月行事体験、伝統芸能（神楽公演）、民家園春まつりを実施している。これらの他、民家園ボランティアによる火入れ（毎週土曜日）や昔の道具体験、県内の語り部の会による宮崎の昔話公演、民家園の貸出しなどを行っている。

① 火入れ

民家園ボランティアによる、民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施している。囲炉裏から出る煙が茅葺き屋根の茅に浸透することで、茅に虫が付かなくなり、またタールが茅に付着することで水をはじくようになり、茅を長持ちさせるなどの効果があるといわれる。



火入れの様子

② 伝統文化体験講座

ア 民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！

実施日：平成30年12月22日（土）

会場：椎葉の民家の前庭

講師：民家園ボランティア

参加者：162人

内容：旧藤田家住宅の庭で、昔ながらの正月準備を体験する講座を実施した。講師である民家園ボランティアの指導のもと、伝統的な正月準備である煤払いと餅つきの体験を行った。

天候に恵まれ、多くの方々が参加された。経験することが少なくなった正月準備を、家族や友人とともに楽しみながら、本県の伝統文化に触れる機会を提供することができた。



餅つきの様子

イ 正月飾り製作体験講座

実施日：平成30年12月23日（日）

会場：椎葉の民家の前庭

講師：匠の会（銀鏡会）

参加者：35人

内容：正月に飾る注連（しめ）飾りとミニ門松の製作を体験する講座を実施した。西都市銀鏡地区の「匠の会」の講師3人の指導のもと製作を行った。個人だけでなく親子や夫婦での参加もみられ、本県の伝統文化を皆で学ぶ講座となった。



注連縄づくりの様子

ウ 県内の神楽公演

<西米良（村所）神楽公演>

実施日：平成 30 年 10 月 28 日（日）

会 場：椎葉の民家の前庭

公演者：村所神楽保存会

参加者：319 人

内 容：前日から準備してもらい、例大祭さながらの御神屋や注連を再現し、西米良（村所）神楽の 7 演目が披露された。午前中には、みやざきの神楽魅力発信委員の那賀教史氏と西米良神楽の各保存会代表 3 名による神楽講座（55 名参加）も開催された。



西米良（村所）神楽公演

<高千穂（上田原）神楽公演>

実施日：平成 30 年 11 月 11 日（日）

会 場：椎葉の民家

公演者：高千穂（上田原）神楽保存会

参加者：314 人

内 容：民家内に御神屋を設え、戸や障子をすべて外し中庭からも観覧できるようにした。高千穂（上田原）神楽の 8 演目が披露された。小学一年生から神楽を始めている中学生・高校生が大人顔負けの舞や楽で盛り上げていた。



高千穂（上田原）神楽公演

<生目神社神楽公演>

実施日：平成 31 年 2 月 3 日（日）

会 場：椎葉の民家の前庭

公演者：生目神楽保存会

参加者：182 人

内 容：神楽公演の前に、保存会による神楽の舞や神楽面の着用などの体験講座が行われた。保存会の方々から直接話を聞ける機会となった。その後、春神楽を代表する生目神社神楽の 7 演目が披露された。



生目神社神楽公演

③ 民家園春まつり

実施日：平成 31 年 3 月 23 日（土）

会 場：民家園

参加者：586 人

内 容：各民家において、野点、琴の演奏、昔の暮らし体験、昔の遊び体験、紙芝居、民謡公演、昔話公演を行った。民謡公演では、ひえつき節やシャンシャン馬道中唄などを参加者が口ずさむ姿も見られた。天気も良く、桜も咲いて非常に好評であった。



民謡公演

④ 「みやざきの昔話」公演

実施日：平成30年4月21日、5月19日、6月16日、
7月21日、8月18日、9月22日、10月20日、
11月17日、平成31年2月16日、3月23日
(※ 年10回実施)

会場：民家園 椎葉の民家

講師：「民家園語りの会」「都城おかしむじ会」
「神話語り部の会」会員

参加者：274人

内容：12月と1月を除く毎月第3土曜日（9・3月は第
4土曜日）に宮崎県内に伝わる昔話の公演を行った。

毎回5～6話の県内各地で語り継がれてきた昔話を
椎葉の民家で語ってもらった。耳で聞く昔話は、本で読むのとは一味違ったおもしろさ
があり、子どもから大人まで幅広い年齢層に楽しんでいただいた。



昔話公演の様子

⑤ 昔のくらし体験

実施日：5回（詳細を下に示す）

平成30年10月3日（水）	内山子ども園	19人
平成30年10月13日（土）	小松台小学校家庭教育学級	36人
平成30年11月2日（金）	高城小学校5年生	58人
平成30年11月14日（水）	憶北小学校3年生	106人
平成30年11月15日（木）	住吉南小学校3年生	110人

会場：椎葉の民家

講師：民家園ボランティア

参加者：329人（5回の合計）

内容：年末年始等の休館日を除く毎週土曜日に活動して
いる民家園ボランティアが指導者となり、小学生な
どを対象に、各民家の囲炉裏や石臼、唐箕などの昔
の道具の使い方を指導した。

実際に道具を使った体験ができ、参加した小学生
などには好評であった。



昔のくらし体験の様子

⑥ その他

ア 風車フェスタ

実施日：平成30年10月20日（土）

会場：椎葉の民家

参加者：446人

内容：博福連携事業の一環として、医療法人ハートピ
ア細見クリニックとの共催事業として実施した。
認知症の高齢者と関係者がペットボトルを使って
製作した風車を民家園全体に飾り付け、認知症サ
ポーター養成講座、コーラス、バンド演奏などの
催しを行った。民家園ボランティアによる水鉄砲
作りも行った。

多くの来場者があり、認知症患者へのサポート
に関心を持っていただいた。



大宮小学校児童によるコーラス

イ レコードコンサート

実施日：平成 30 年 11 月 4 日(日)

会 場：椎葉の民家

参加者：43 人

内 容：宮崎レコード音楽愛好会との共催事業として実施し、真空管アンプなどの音響機器を用いて懐かしい音楽を流すレコードコンサートを行った。前半は 1960 年代～1970 年代の歌謡曲と、叙情歌のレコード音楽を流して、来場者に楽しんでいただいた。



レコードコンサートの様子

(5) 「どこでも博物館」事業

本館が所在する宮崎市から距離があり、訪れることが難しい地域の県民を対象に、博物館が向き、収集資料の展示紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を、平成 27 年度から実施してきた。平成 30 年度から新たに「展示充実推進事業」として輸送手段に大型トラックを用いることで、大型の資料や重量のある資料も展示紹介することが可能となった。本年度は次に挙げる県内 3 か所で実施した。

① どこでも博物館 in 五ヶ瀬

日 時：平成 30 年 10 月 10 日(水)～10 月 14 日(日) 午前 9 時～午後 5 時

会 場：五ヶ瀬町自然の恵み資料館 特別展示室 視聴覚室

共 催：五ヶ瀬町、五ヶ瀬町教育委員会

内 容：特別展示室で五ヶ瀬町にゆかりのあるアンモナイトの実物化石をはじめとする博物館資料と夏の特別展「むしムシ虫展」で展示紹介した昆虫拡大模型トンネルや昆虫頭部拡大模型ブラインドボックスなどを展示した。また、遮光ができる視聴覚室を 3D シアターにして、博物館の施設概要や活動と五ヶ瀬町の自然の空撮映像を紹介した。初日は博物館職員による展示解説を行った。スクールバスを利用して三ヶ所小学校と鞍岡小学校の児童が授業の一環として見学を訪れるなど、期間中は五ヶ瀬町内の地域住民の方々を中心に観覧していただいた。



参加者：285 人

② どこでも博物館 in 都城

日 時：平成 30 年 11 月 4 日(日) 午前 11 時～午後 3 時 30 分

会 場：都城市総合文化ホール

共 催：都城市文化振興財団・MAST 共同事業体

後 援：都城教育委員会

内 容：都城市総合文化ホールの 1 階ロビー及びマルチギャラリーに博物館資料を展示して解説を行った。宮崎国民文化祭イベントと宮崎県立芸術劇場の 25 周年記念事業に関わるイベントや都城市文化振興財団のイベントが行われる日に開催した。今回の展示資料は、以前本館で行った「霧島山の自然」で使用した大型写真パネルや植物レプリカや都城にゆかりのある岩石標本と合わせて、夏の特別展「むしムシ虫展」の大型資料も展示紹介した。



参加者：202 人

③ どこでも博物館 in 日南市立鶴戸小中学校

日 時：平成31年1月18日（金） 午前11時～午後2時
 会 場：日南市立鶴戸小中学校体育館
 内 容：はじめに宮浦保育所園児の自由見学からスタートした。鶴戸小中学校の児童は全体挨拶の後6グループで時間を区切って全てのブースを回る方法で見学や体験を行った。大型の昆虫拡大模型トンネル等に加え、歴史部門や民俗部門の着用体験資料も好評であった。

参加者：77人



(6) 関係機関との連携

博物館活動を展開するにあたっては、関係機関との連携が不可欠であることから、他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出・借用、情報交換等を行っている。

① 職員の派遣

他の機関からの依頼に応じて、講師や委員会のメンバーとして、また企画展などの指導・助言者として、職員の派遣を行った。

年月日	依頼機関	依頼内容	派遣職員
平成30年5月19日 6月2日 6月16日 6月26日 9月8日	宮崎県立宮崎北高等学校	プレ探究活動「宮崎と自然」講師 4講座 (事前学習3講座、まとめ学習1講座) プレ探究活動「海洋と大地」講師 1講座 計5回派遣	松田清孝 岩切勝彦
平成30年6月1日 平成30年8月3日 ～8月4日 平成30年12月15日 ～12月16日 平成31年3月3日	宮崎県教育庁文化財課	第1回みやざきの神楽魅力発信委員会 第2回みやざきの神楽魅力発信委員会 第3回みやざきの神楽魅力発信委員会 九州の神楽ネットワーク協議会 計4回派遣	野添和洋
平成30年6月3日	高鍋町教育委員会	高鍋神楽研修会	野添和洋
平成30年7月26日	宮崎市生涯学習課	安井息軒顕彰・川口市文化交流事業講師	野添和洋
平成30年7月29日	学園木花台南2丁目自治会	学園木花台南2丁目自治会の文化講演会の講師「石器・土器が語る学園木花台の今昔物語」	長津宗重
平成30年8月9日 平成30年11月24日 ～11月25日 平成31年3月24日	西米良村教育委員会	「米良山の神楽」記録作成調査委員会 計3回派遣	野添和洋
平成30年9月24日	宮崎県高等学校文化連盟	第40回宮崎県高等学校総合文化祭自然科学部門講師	黒木秀一
平成30年10月18日	南那珂地区教科等研究会 生活科部会	第2回研修会講師	岩切勝彦
平成30年11月11日	宮崎県教育庁高校教育課	第8回「科学の甲子園」宮崎県予選答案の採点業務	濱田真理
平成30年11月20日	宮崎西高等学校附属中学校	中学1年「探究」の時間《青島巡検》講師	岩切勝彦

計10件20回

- ② 職員等の招聘 ※講座・講演会・共同研究等 計20件21名
普及講座の外部講師として8件11名、特別展示関連講座の外部講師として6件5名、調査研究で6件5名を招聘した。

<普及講座>

秋田優氏（串間市商工観光スポーツランド推進課）、関周一氏（宮崎大学教育学部）、前田幹雄氏・猪崎悦子氏（日本野鳥の会）、前田博仁氏（宮崎民俗学会）、下西美和氏・金丸琴路氏（佐土原人形製作者）

<特別展講座>

増田豪氏（延岡市内藤記念館）、三宅紹宣氏（広島大学名誉教授）、東木場昭裕氏（写真家）、新開孝氏（昆虫写真家）、盛口満氏（沖縄大学准教授）

<水系別総合調査（小丸川水系）>

福島英樹氏（県文化財課／鳥類・哺乳類）4件1名、流田勝夫氏・宍戸章氏（宮崎地質研究会）1件2名、那賀教史氏・地村光弘氏（宮崎民俗学会）3件2名、小山博氏（埋蔵文化財センター／民俗）2件1名

- ③ 視察・調査等で来館された関係機関（順不同） 計19機関

<国外>

韓国国立羅州博物館

<県外>

東京大学史料編纂所、福岡市博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、名古屋大学博物館、名古屋市科学館、産業技術総合研究所地質調査総合センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム、天草市立御所浦白亜紀資料館、鹿児島県立博物館、大分県立先哲資料館、文化学園服飾博物館、放送大学、東洋大学、多摩動物公園、埼玉県立川の博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、神奈川県議会

<県内>

延岡市内藤記念館、西都市歴史民俗資料館、県立図書館、県立西都原考古博物館

- ④ 資料の貸出し

ア 館外資料貸出し

計20機関

部門	資料名	貸出先	期間	目的
動物	メジロ剥製1点、コサギ剥製1点、コノハズク剥製1点、馬頭蓋骨1点、ヤママユの繭2点、カイコの繭2点、絹糸1点、コクゾウムシ標本1点	宮崎県立西都原考古博物館	平成30年6月12日 ～9月30日	特別展「共に生きたもの～ムシと動物の考古学～」での展示
	昆虫類標本（トンボ類10点、甲虫1類点、バッタ類2点）	日向市立日知屋東小学校	平成30年9月5日 ～9月8日	授業で使用
植物	きのこレプリカ10点	鹿児島県立博物館	平成30年6月20日 ～9月14日	企画展「毒あります」での展示
	オオヨドカワゴロモ（レプリカ）1点オオヨドカワゴロモ（拡大模型）1点	小林市教育委員会	平成31年2月15日 ～2月22日	小林市立三松小学校での出前授業で使用
地質	始祖鳥化石（レプリカ）1点	宮崎子どもの本に親しむ会	平成30年5月20日 ～5月23日	「宮崎子どもの本に親しむ会」5月定例学習会での展示
	化石標本 9点	天草市立御所浦白亜紀資料館	平成30年6月20日 ～9月20日	特別展「恐竜と今に生きる太古の生き物」での展示

地質	霧島山地模型（ジオラマ）1点、 岩石標本 5点	宮崎県立 西都原考古博物館	平成30年9月5日 ～12月19日	国際交流展「海山に宿る神々～ 日韓の祭祀遺跡～」での展示
	県内岩石標本 7セット	国富町立森永小学校	平成30年11月12日 ～11月22日	授業で使用
	始祖鳥化石（レプリカ）1点 人類頭骨（レプリカ）3点	宮崎市立住吉中学校	平成30年12月2日 ～12月10日	授業で使用
	岩石標本 1点	宮崎県立 西都原考古博物館	平成30年12月20日 ～平成31年3月29日	企画展Ⅱ「どきを編む～宮崎県 の縄文土器～」での展示
	石鏃復元品2点・鉄鏃復元品1点 ・搔器復元品1点・磨製石剣復元 品1点・紡錘車復元品1点・石斧 復元品1点・支脚復元品1点・鹿 革1点・墨書石1点・石棒レプリ カ1点 計11点	宮崎県立 西都原考古博物館	平成30年4月13日 ～6月22日	企画展「石が人を創った～石と 人の文化史～」での展示
	下北方出土下城式壺 1点	宮崎県立西都原考古博 物館・大分県埋蔵文化 財センター	平成29年12月14日 ～平成30年6月15日	合同企画展「豊と日向」での展 示
考古	耳截遺跡出土手向山式土器 1点・陣内遺跡出土黒色磨研 土器1点・布平遺跡出土夜白 式土器1点・下菌遺跡出土壺 形土器（レプリカ）1点・黒 土遺跡出土有溝石庖丁1点	宮崎県立 西都原考古博物館	平成30年12月19日 ～平成31年3月20日	企画展Ⅱ「どきを編む～宮 崎県の縄文土器～」
歴史	木造阿弥陀如来坐像 （寄託資料）	福岡市博物館	平成30年8月23日 ～11月26日	特別展「浄土九州」での展 示
	木喰作 大黒天像	西都市歴史民俗資料館	平成30年11月19日 ～平成31年3月3日	企画展「木喰上人と西都」で の展示
	小村寿太郎フロックコート ベスト	文化学園服飾博物館	平成30年10月5日 ～11月30日	「ブルックス・ブライザー：アメリカンスタイル 200年 革新の2世紀」での展示
	谷村計介直筆書状	宮崎市天ヶ城歴史民俗 資料館	平成31年2月28日 ～4月22日	企画展「谷村計介～地方から 見た西南戦争」での展示
民俗	昔の道具貸出キット（昔の服 ：大人用、昔の服：子ども用、 昔の履き物、昔の運搬具）	延岡市立東海小学校	平成31年1月6日 ～2月3日	授業で使用

イ 資料の館内利用

計 19 件

	資料名	点数
歴史	鰐口	1 点
	鰐口	1 点
	写真フィルム	1 件
	高橋文書	1 件
	伊勢文書	1 件
	奈古神社文書	1 件
	土持文書	1 件
	伊勢文書	1 件
	山田文書	1 件
	河上文書	1 件
	宮崎名所遊覧レコード	1 件

ウ 貸出した写真データが展示・出版物等に掲載・放映された資料 計10件

	資料名	出版社・機関
地質	霧島山遠景 新燃岳噴火状況 青島遠景	県立西都原考古博物館（国際交流展「海山に宿る神々～日韓の祭祀遺跡～」展示図録）
	ユーステノプテロン	洋泉社（『大人のための 入門古生物と古生代』）
	2011年・2017年新燃岳噴火関連資料30点（画像・映像）	島根県立三瓶自然館企画展「火山のチカラとダイナミズム」（平成30年3月17日～平成30年5月27日）で展示
歴史	錦の御旗	洋泉社（『歴史REAL』）
	西郷札	朝日新聞社
	錦の御旗	国際文字文化検定協会（『文字文化を先人に学ぶ 文字だ！』）
	蒙古襲来絵詞（楽翁本） 三国割拠図 伊勢文書「島津義弘書状」 高橋文書「徳川家康黒印状」 佐土原御城下細見之図 小村寿太郎関係資料「シルクハット」 西南戦争錦絵（日向霧島山激戦之図） 宮崎連合共進会場及市街略図	樫出版社（『宮崎本』）
	経筒	はにわ広告事務所（本郷まちづくり推進委員会作成ガイドブック）

歴史	金ノ鷹ノ羽馬印	佐土原SIGEKI塾（佐土原城物語 ハイライト子供読本「戦国編」）
----	---------	-----------------------------------

⑤ 本館が資料を借用又は展覧会・調査研究等で協力を得た関係機関（順不同） 計 83 機関

< 県外 >

山口県立山口博物館、宮内庁書陵部、日本自然科学写真協会、「生きもの写真リトルリーグ2018」実行委員会、埼玉県立自然の博物館、群馬県立自然史博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、名古屋大学博物館、名古屋市科学館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、国立科学博物館、茨城県自然博物館、鹿児島県立博物館、屋久島環境文化財団屋久島環境文化研修センター、京都大学大学院研究科、東京大学、兵庫県立人と自然の博物館、大阪市立自然史博物館、鳥取県立博物館、鹿児島大学理学部、北九州市立自然史・歴史博物館、岡山大学附属図書館、北九州市ほたる館、九州大学総合研究博物館

< 県内 >

高鍋町歴史総合資料館、町立高鍋図書館、日南市教育委員会、都城島津邸、宮崎県文書センター、宮崎市教育委員会、宮崎市佐土原歴史資料館、延岡市内藤記念館、飢肥城歴史資料館、県中部農林振興局、県オールみやざき営業課、県立宮崎北高等学校、県立宮崎南高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立高鍋高等学校、県立都農高等学校、県立日向高等学校、県立門川高等学校、県立都城泉ヶ丘高等学校、県立都城西高等学校、県立小林高等学校、宮崎県総合博物館友の会、宮崎神宮、宮崎地質研究会、宮崎化石研友会、日向市教育委員会、高千穂町歴史民俗資料館、県立図書館、県工業技術センター、県食品開発センター、県埋蔵文化財センター、宮崎野生動物研究会、宮崎昆虫同好会、宮崎昆虫調査研究会、県立宮崎海洋高等学校、宮崎科学技術館、宮崎市フェニックス自然動物園、大淀川学習館、串間市教育委員会、小林生物愛好会、宮崎植物研究会

(7) 福祉施設との連携

本館を利用する児童、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあり、平成30年度は延べ142施設が来館された。

このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」「おもちゃ」「映像」等を用いて、子どもの頃や若い頃に経験したことを楽しみながら語っていただくことによって脳を活性化させ、心を元気にし、ひいては認知症を予防し進行を遅らせようとする「博物館で思い出を語ろう！」事業（他県では地域回想法とも呼ばれている）を試験的に行っており、平成30年度は58回実施した（細見クリニック19回、健幸くらぶ万智20回、祇園デイサービス19回）。また、施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、平成30年度は2施設5回の利用があった。



テーマ回想法の様子



(8) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問はもとより、電話やメールでのレファレンス対応に努めている。平成30年度のレファレンス件数は842件であった。

① 問い合わせ件数

(単位：件)

分野・部門 内容	自然史			歴史			その他 *1	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
一般	118	118	90	32	125	55	14	552
学校	5	1	14	0	8	1	12	41
博物館等施設	5	0	5	2	10	0	2	24
マスコミ	35	21	16	0	40	7	20	139
公共機関	16	11	9	2	21	0	5	64
その他*2	2	1	2	1	14	0	2	22
合計	181	152	136	37	218	63	55	842

*1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

*2 その他は、NPO法人等からの問合せ

② 問い合わせ内容

(単位：件)

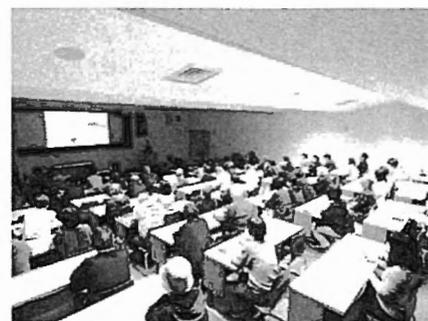
分野・部門 内容	自然史			歴史			その他 * 1	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
専門的内容や収蔵資料に関すること	142	145	119	36	149	42	2	635
展示会	29	0	2	0	62	1	9	103
講座	10	3	14	0	6	6	6	45
イベント	0	3	1	0	1	2	6	13
その他 * 2	0	1	0	1	0	12	32	46
合計	181	152	136	37	218	63	55	842

* 1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

* 2 その他は、館の施設利用や撮影許可等の問合せ。

(9) 県内研究団体の発表会

本県には動物や植物、地質に関するさまざまな研究団体があるが、対象を限った研究が大半で、県内の自然全体を網羅する団体はない。これら各分野は複雑に絡み合った関係にあり、本当の自然を理解するには、全てのジャンルに興味・関心を持ち、知識や情報を共有する必要があるため、本館がコーディネートして、県内の自然史系研究団体が集い、お互いの研究成果を発表し合う合同研究発表会を実施している。研究発表会は一般へも公開し、各団体の活動をPRするとともに、自然に興味・関心を持つナチュラルリストを育てる機会としている。節目の10回目の開催となった平成30年度は、10団体から発表があり、各団体の研究成果が報告され、質疑応答が行われた。



研究発表の様子

実施日時：平成30年3月9日(土) 13:00~16:00

実施場所：宮崎県立図書館 視聴覚室

参加者：92人

【研究発表の題目・発表者・所属団体】

研究題目	発表者	所属団体
早春の西都原の野鳥記録	岩切 久	日本野鳥の会宮崎県支部
宮崎県日向市に定着したスウィンホーキノボリトカゲ	保田 昌宏	宮崎野生動物研究会
宮崎県沿岸における2018年の鯨類ストランディングレコード	栗田 壽男	宮崎くじら研究会
ノジュール化石を覗き見る新たな試み	岡山 清英	宮崎化石研友会
コンクリーション研究の最新情報 - ここまでわかった宮崎層群のシンボル「キノコ岩」 -	赤崎 広志	宮崎地質研究会
天神山崩壊14年目の真実	高谷 精二	宮崎応用地質研究会
五ヶ瀬町うのこの滝は双子滝か?	松田 清孝	宮崎県総合博物館
宮崎県のアオダモ類	中武 英則	宮崎植物研究会
絶滅危惧種タイワンツバメシジミ(蝶)の保護・移殖について	小岩屋 敏	宮崎昆虫同好会
宮崎県のみづめイガ	永井 脛	小林生物愛好会

(10) 博物館友の会の活動支援

博物館友の会は、会員が自ら積極的に本県の自然や歴史を学ぶことによって自らの教養を豊かなものにするるとともに、博物館が今後さらに充実発展することを願って、その活動を支援することを目的として、平成11年8月に設立された。平成30年度の活動内容は以下のとおりである。

① 会員

個人会員：35人 家族会員：10家族 賛助会員：1団体

② 役員

会 長	南谷 忠志	監 事	中島 宜幸
副 会 長	斉藤 政美	〃	貴島 恒光
副 会 長	八木真紀子		
理 事	黒葛原由美		
〃	中島沙於吏		
〃	辛島 育代		
〃	下西 美和		
	松本 美津		

③ 友の会事業

ア 行事等

(単位：人)

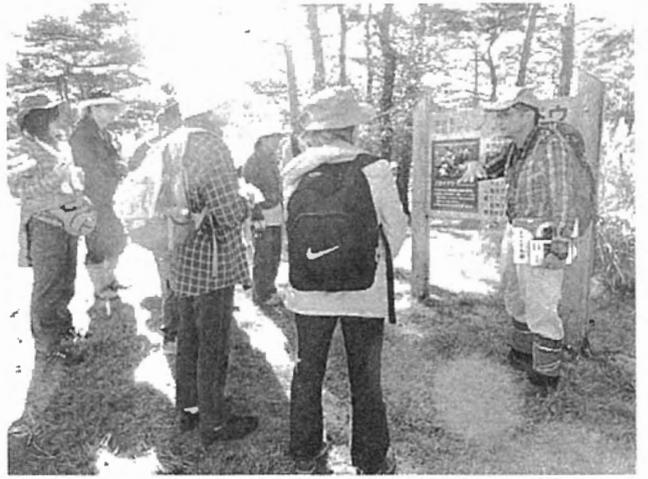
実施日	行事	会員参加者数
4月 7日(土)	理事会、通信発送	6
4月 28日(土)	S S P 展開会式	6
4月 29日(土)	博物館講座「磯の生き物を観察しよう」支援	3
5月 19日(土)	友の会野外講座「きのこをさがそう」	9
6月 17日(日)	バスツアー「人形浄瑠璃と紫陽花鑑賞」	中止
7月 1日(土)	理事会・通信発送	5
7月 14日(日)	「虫むしムシ展」開会式	8
8月 19日(土)	博物館講座「採集作品の名前を調べる会」支援	2
9月 15日(土)	友の会野外講座「飼肥散策と坂元棚田」	4
10月 6日(土)	友の会野外講座「サシバ観察会」、理事会	雨天中止
10月 17日(水)	「明治維新展」開会式	2
10月 20日(土)	博物館講座「霧島山で秋の植物観察会」支援	2
11月 4日(日)	バスツアー「見立の紅葉と石垣の村」	8
11月 4日(金)	博物館講座「古墳を外から観察しよう」支援	1
11月 23日(日)	博物館講座「宮崎の天然記念物めぐり～猪崎鼻」支援	1
1月 12日(土)	理事会・写真展準備	5
2月 9日(土)	「はくとも写真展」・理事会	5
3月 16日(土)	総会	11

刊行物

- 会報「むーちゃんだより」96号～99号の発行
- 「虫むしムシ展」「明治維新展」ガイドブック刊行
- 「植物ガイドブック」「野鳥ガイドブック」再版



野外講座「きのこをさがそう」



支援活動「霧島山で秋の植物観察会」



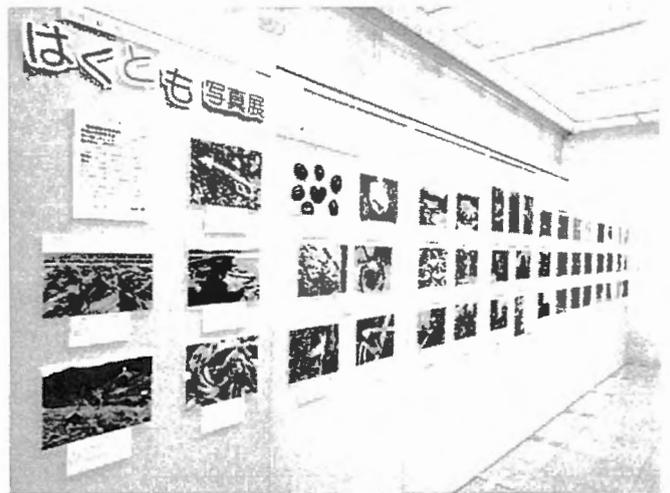
『明治維新展』開会式



支援活動「宮崎の天然記念物めぐり～猪崎鼻」



「見立の紅葉と石垣の村」



「はくとも写真展」

(11) 研修室の利用

本館には3つの研修室があり、主に本館の諸活動で使用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、下記の利用条件を満たしていれば、本館活動に支障を来さない範囲で貸出しに応じている。

① 研修室の定員・設備等

室名	用途	定員	利用可能な機器類
研修室1	会議室	60人	放送設備、プロジェクター、スクリーン等
研修室2	実験室	30人	顕微鏡、実験道具等
研修室3	会議室	15人	なし

② 外部団体の利用条件

本館の研修室は、以下のいずれかに該当する場合に外部団体等の利用に供している。

ア 博物館事業に協力が期待できる団体が、会議・研修会等に利用する場合で、博物館が共催し、又は支援するもの

イ 県の機関が、会議・研修会等に利用する場合で、学校教育又は社会教育の充実に資すると思われるもの

ウ 博物館活動に支障のない範囲内で博物館教育普及活動の充実に資すると館長が特に認めたもの

③ 平成30年度の外部団体等の利用状況

計 34 件 989 人

件数	期日	時間	団体名等	利用者数(人)	会場
1	4月1日～13日	9:00～17:00	有限会社リンクスアソシエーツ	55	研修室3
2	4月7日	10:00～12:00	宮崎県総合博物館友の会	8	研修室1
3	4月14日	10:00～12:00	NPO法人宮崎くじら研究会	15	研修室1
4	5月13日	12:00～16:30	宮崎野生動物研究会	30	研修室1
5	5月13日	13:30～16:00	宮崎昆虫同好会	8	研修室2
6	6月1日	11:00～16:50	宮崎県教育庁文化財課	23	研修室1
7	6月9日	9:00～15:00	宮崎植物研究会	20	研修室2
8	6月25日	13:00～16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	40	研修室1・2
9	7月1日	10:00～12:00	宮崎県総合博物館友の会	8	研修室2
10	8月4日	10:00～15:30	オールみやざき営業課	40	研修室2
11	9月30日	10:00～12:00	宮崎県総合博物館友の会	6	研修室1
12	10月3日	12:00～17:00	ドキュメンタリーフォトフェスティバル宮崎実行委員会	50	研修室1
13	10月7日	11:00～16:00	ドキュメンタリーフォトフェスティバル宮崎実行委員会	10	研修室1
14	10月12日	13:00～17:15	中部教育事務所	20	研修室1
15	10月15日	8:45～12:20	中部教育事務所	25	研修室1
16	10月18日	12:00～16:30	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室1
17	10月20日	11:00～17:00	宮崎県地域史研究会	30	研修室1・2
18	10月27日	13:00～16:00	宮崎大学学芸員養成課程	25	研修室1
19	11月10日	9:30～16:30	宮崎昆虫調査研究会	30	研修室1
20	11月18日	9:30～16:00	宮崎昆虫同好会	30	研修室1

21	12月15日	9:00~15:30	宮崎植物研究会	20	研修室1
22	12月16日	12:00~16:00	NPO法人地学オリンピック日本委員会	10	研修室1
23	12月19日	12:00~17:00	宮崎県教育庁義務教育課	60	研修室1
24	12月23日	9:00~12:00	宮崎大学学芸員養成課程	25	研修室2
25	1月12日	10:00~12:00	宮崎県総合博物館友の会	6	研修室3
26	2月2日	19:00~17:00	一般社団法人宮崎県建築士会	45	研修室1
27	2月9日	14:00~17:00	山村・木材振興課宮崎スギ活用推進室	10	研修室1・2
28	2月18日	12:30~16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	20	研修室1
29	2月24日	19:00~15:00	山村・機材振興会	10	研修室1
30	3月2日~3日	11:00~13:00	宮崎県教育庁文化財課	60	研修室1
31	3月8日~9日	13:00~17:00	株式会社宮崎日日新聞社	100	研修室1
32	3月10日	9:00~15:30	宮崎植物研究会	20	研修室1
33	3月16日	10:00~12:00	宮崎県総合博物館友の会	10	研修室1
34	3月27日	9:00~17:00	株式会社宮崎日日新聞社	100	研修室1

IV 情報発信及び経営

1 情報発信

県内外の方々が、本館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行っている。

(1) 広報推進委員会

「宮崎県総合博物館広報戦略」に基づく館の広報と集客増に向けた取組みを推進するため、専門主幹（広報委員長）、総務担当リーダー、学芸担当リーダー、普及担当リーダー、普及担当職員（1名）、展示解説員（3名）で「広報推進委員会」を組織している。平成30年度は年10回会議を開催し、協議を行った。

(2) 博物館だより「森の通信」の発行（年2回）

① 第64号 発行：平成30年6月14日

- 特別展「むしムシ虫展」案内 【動物部門】
- 講座紹介「宮崎の天然記念物めぐり①～日向岬」 【地質部門】
- 宮崎の自然情報「「湿原」に生きる食虫植物」 【植物部門】
- 歴史展示室紹介「中世のくらし～生活と信仰～」 【歴史部門】
- 収蔵資料紹介「三角縁神獣鏡」 【考古部門】
- 利用者からの問合せ「熊襲踊とは、どんな民俗芸能ですか？」 【民俗部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「むかしの道具」



② 第65号 発行：平成30年9月20日

- 特別展「日向国の明治維新」案内 【歴史部門】
- 講座紹介「佐土原人形絵付け体験」 【民俗部門】
- 宮崎の歴史情報「古代日向の石庖丁はどんな形？」 【考古部門】
- 自然史展示室紹介「「鳴き声」まで学べる、宮崎の鳥」 【動物部門】
- 収蔵資料紹介「硫黄」 【地質部門】
- 利用者からの問合せ「木のコブのようなきのこは「サルノコシカケ」ですか？」 【植物部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「紙芝居」



(3) ホームページの運用

本館のホームページでは、施設や利用案内などの基本情報のほか、展覧会や講座などの行事案内、広報紙「森の通信」を掲載するなど、本館の様々な情報を伝える手段として多くの方々に利用していただいている。

平成30年度は、新着情報の掲載を中心に平均月26.9回(年323回)の更新を行うとともに、平成28年に開設したSNSでは、Facebookが230件、Twitterが257件の投稿を行った。平成30年度のホームページのアクセス数は年間720,028件となった。

(4) 博物館カレンダーの作成

本館では、年度当初に「はくぶつかんカレンダー」という名称で、常設展示室及び民家園の施設概要と各種イベント、年間の行事等を取りまとめたパンフレットを作成し、学校や関係機関等に配布している。

【表】



【表】



(5) 県広報紙等への掲載

本館が実施する特別展や講座、その他の催しなどについて、県の広報媒体を利用した広報を行ったほか、報道機関に情報を提供する報道処理や報道機関からの求めに応じて情報提供を行い、新聞やテレビ・ラジオ、情報誌等を通じた広報活動を行った。

平成30年度の報道処理件数は62件、報道機関等への情報提供は179件であった。

① 県広報媒体による広報

ア 県政けいじばん（毎月第2、4日曜：新聞5社に掲載）

掲載日	内容
平成30年 4月22日	「第38回SSP展(日本自然科学写真協会写真展)」の案内、講座「岬馬を観察しよう」の参加者募集
5月13日	講座「宮崎の歴史を学ぶ1」の案内
6月24日	特別展「むしムシ虫展 ～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」の案内
7月8日	標本講座「昆虫標本をつくろう②」、「押し葉標本をつくろう」、「化石標本クリーニング体験」の参加者募集
9月24日	講座「チリモンGO!」の参加者募集
平成31年 1月27日	講座「海岸の砂を顕微鏡で見てみよう」の参加者募集
2月10日	講座「化石レプリカをつくろう」の参加募集
3月10日	「民家園春まつり」、「岩合光昭の世界ネコ歩き 写真展」の案内

イ 県広報紙「県広報みやざき」

掲載日	内容
平成30年4月号	特別展「第38回SSP展」 講座「よろい・かぶと着用体験！」
6月号	特別展「第38回SSP展」 講座「宮崎の歴史を学ぶ①」 ※休館のお知らせ
8月号	特別展「むしムシ虫展 ～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」 講座「採集作品の名前を調べる会」
10月号	特別展「日向国の明治維新 ～戊辰戦争から西南戦争まで～」 特別展関連講座「薩長同盟の成立と展開」 講座「霧島山で秋の植物を観察しよう」
12月号	講座「海岸の砂を顕微鏡で見てみよう」
平成31年2月号	講座「化石レプリカをつくろう」 民家園の行事「民家園春まつり」

ウ 県広報番組

- 県広報番組（広報戦略室）：MRTラジオ「おはよう県庁です」
MRTテレビ「おしえて宮崎」
- 県教育委員会広報番組（教育庁総務課）：MRTテレビ「みらいみやざきまなび隊」
UMKテレビ「のびよ！みやざきっ子」

② 新聞への掲載

ア 展示に関する掲載

- 「第38回SSP展」(日本自然科学写真協会写真展)
 - <告知> 朝日新聞(4/26)
 - <記事> 県総合博物館に一日こども館長 読売新聞(4/29)
「一日館長」収蔵品驚き 児童5人任命 宮日新聞(4/29)
科学の目で自然を楽しむ 6月10日までSSP展 夕刊デイリー(5/22)

- 「むしムシ虫展」
 - <告知> 宮崎日日新聞(1/1、5/25、7/1、7/8、7/10、7/21、8/11)
夕刊デイリー(6/30)、朝日新聞(7/5、7/18、8/29)
 - <記事> 開幕 宮崎日日新聞(7/17)
入場者一万人突破 宮崎日日新聞(7/22)
くろしお 宮崎日日新聞(7/22)
カブトムシ触れる! 毎日新聞(7/23)
こども新聞 宮崎日日新聞(7/28)
こども新聞宮崎版 毎日新聞(7/28)
世界の昆虫資料1300点 読売新聞(8/3)
ミニみにミニ 宮崎日日新聞(8/4)
むしムシ虫展 夕刊デイリー(8/9)
来場3万人突破 宮崎日日新聞(8/14)
歩廊 宮崎日日新聞(8/26)

- 「日向国の明治維新」
 - <告知> 宮崎日日新聞(10/23)、朝日新聞(10/25)、夕刊デイリー(10/30)
 - <記事> 西南戦争の錦絵ずらり 朝日新聞(10/18)
日向国の明治維新知る 読売新聞(10/26)
特別展紹介 朝日新聞(10/31)
文化欄 宮崎日日新聞(11/17)
くろしお 宮崎日日新聞(11/20)
投書欄 宮崎日日新聞(12/5)

- 「岩合光昭の世界ネコ歩き 写真展」
 - <告知> 宮崎日日新聞(10/31、11/1、11/9、11/20、11/24、11/30、12/8、12/20、
12/21、12/31、1/1、1/3、1/10、1/13、1/17、1/25、1/30、2/2、2/7、
2/11、2/15、2/16、2/17、2/18、2/19、2/21、3/7、3/9、3/17、3/24)
朝日新聞(2/14)
 - <記事> 「世界ネコ歩き」きょう開幕 宮崎日日新聞(2/22)
「世界ネコ歩き」展開幕 宮崎日日新聞(2/23)
愛らしい姿など200点 毎日新聞(2/24)
世界ネコ歩き 撮影こぼれ話① 宮崎日日新聞(2/28)
愛らしい姿 生き生きと 宮崎日日新聞(3/2)
世界ネコ歩き 撮影こぼれ話② 宮崎日日新聞(3/3)
来場者5000人突破 宮崎日日新聞(3/7)
世界ネコ歩き 撮影こぼれ話③ 宮崎日日新聞(3/7)

世界ネコ歩き 撮影こぼれ話④ 宮崎日日新聞 (3/8)
 世界ネコ歩き 撮影こぼれ話⑤ 宮崎日日新聞 (3/9)
 こぼれ話にファン笑顔 岩合さん来県 宮崎日日新聞 (3/10)
 くろしお 宮崎日日新聞 (3/10)
 来場者1万人突破 宮崎日日新聞 (3/15)
 世界の街角 ネコの日常活写 宮崎日日新聞 (3/17)

イ 講座に関する掲載

- 磯の生きものを観察しよう <募集> 朝日新聞 (4/5)
- 一日こども館長 <募集> 読売新聞 (4/6)
 <記事> 「一日館長」収蔵品驚き 宮崎日日新聞 (4/29)
 県総合博物館に一日こども館長 読売新聞(4/29)
- 酒谷川のノボリコ漁と生きもの <募集> 読売新聞 (4/13)
- よろい・かぶと着用体験 <募集> 夕刊デイリー (4/14)、朝日新聞 (4/19)
 <記事> 身も心も戦国武将 宮崎日日新聞 (5/6)
- 岬馬を観察しよう <募集> 読売新聞 (4/20)
 <記事> 野生馬の生態学ぶ 宮崎日日新聞 (5/29)
- 宮崎の歴史を学ぶ① <募集> 夕刊デイリー (5/19)、朝日新聞 (6/7)
- 授業で博物館を使ってみよう <募集> 夕刊デイリー (6/2)
- 4回の標本講座 <募集> 夕刊デイリー (6/23、26)
- 博物館こどもDAY <募集> 夕刊デイリー (8/6)
- 採集作品の名前を調べる会 <募集> 夕刊デイリー (8/16)
 <記事> 古里の自然学ぶ夏休み 読売新聞 (8/19)
- フスマの下張り文書はがしに挑戦! <募集> 毎日新聞 (8/10)
- 小丸川下流域の考古学 <募集> 読売新聞 (9/7)
- 行滕山できのこの観察をしよう <募集> 朝日新聞 (9/13)
- 宮崎の天然記念物めぐり① <募集> 夕刊デイリー (10/2)
- 霧島山で秋の植物観察をしよう <募集> 朝日新聞 (10/4)
- 男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察しよう <募集> 夕刊デイリー (10/10)
- 草木染めに挑戦! <募集> 夕刊デイリー (10/22)
- チリメンモンスターをGetしよう! <記事> “チリモン”探せ
 宮崎日日新聞 (10/27)
- 宮崎の歴史を学ぶ② <募集> 夕刊デイリー (10/22、30)
- 薩長同盟の成立と展開 <募集> 夕刊デイリー (10/18)
 宮崎日日新聞 (10/23)、朝日新聞 (10/25)
- 宮崎の天然記念物めぐり② <募集> 朝日新聞 (11/1)
 <記事> 伊崎鼻地質魅力触れる 国指定後初、現地で観察
 宮崎日日新聞 (11/30)
- 民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう! <募集> 朝日新聞 (12/20)
 <記事> ササで古民家大清掃 読売新聞 (12/23)
- 正月飾り製作体験 <記事> 親子で挑戦 正月飾り 朝日新聞 (12/25)
- 海岸の砂を顕微鏡で見よう <募集> 朝日新聞 (1/24)
- 化石レプリカをつくろう <募集> 朝日新聞 (2/7)、読売新聞 (2/8)

ウ その他のイベントに関する掲載（コラム等）

- 美術館だより 宮崎日日新聞（通年）
- ういーくエンドみやざき 宮崎日日新聞（通年）
- じゃーじゃワイド「紫裾濃大鎧」宮崎日日新聞（5/5）
- 透かし彫り緻密 日本刀つば展示 宮崎日日新聞（5/19）
- 鐺師 故 佐々木氏の作品展示 夕刊デイリー（5/11）
- 都城の伝説 方言で紹介 朝日新聞（5/31）
- 旅泊の日本刀展示 読売新聞（7/13）
- 「銅鰐口」2件を県文化財指定へ 宮崎日日新聞（8/8）
- 伝統工芸品展 熟練の技感心 宮崎日日新聞（8/26）
- 国広の脇指を展示 夕刊デイリー（9/25）
- 県内の珍しいキノコ展 読売新聞（9/28）
- 歩廊 宮崎日日新聞（10/4）
- 「どこでも博物館」がやって来た 夕刊デイリー（10/12）
- 歴史や文化 見て触れて 宮崎日日新聞（10/12）
- どこでも博物館 in 五ヶ瀬 読売新聞（10/12）
- 民家園レコードコンサート 朝日新聞（11/1）
- 県高校生の探究活動ポスター展 夕刊デイリー（11/22）
- 県高校生の探究活動ポスター展 読売新聞（12/7）
- 歩廊 宮崎日日新聞（12/27）
- 化石や剥製 間近に 鶴戸小中出張展示（1/22）
- 貴重な文化財 火災から守れ 宮崎日日新聞（1/29）
- 歩廊 宮崎日日新聞（1/31）
- 歩廊 宮崎日日新聞（2/27）
- 珍しい深海魚など紹介 毎日新聞（2/27）
- 総合博物館ひなまつり 読売新聞（3/1）
- 深海魚 剥製やパネル20枚 読売新聞（3/8）
- 宮崎市で発見恐竜の卵？直径1.2メートル国内最大級 宮崎日日新聞（3/8）
- 青鉛筆（炭酸塩球状コンクリーション）朝日新聞（3/9）
- 風船のように成長 球状コンクリーション 夕刊デイリー（3/13）
- 650万年前 海底で丸い岩に 国内最大級コンクリーション 宮日こども新聞（3/23）

③ テレビ・ラジオによる放送

- MRTラジオ「超☆ドッキングラジオ」
- MRTラジオ「スクーパー」
- MRTラジオ「もぎたてラジオ」
- MBCラジオ「たんぽぽおでかけ隊」
- MRTテレビ「モーニングてらす！」
- MRTテレビ「みらい・みやざき まなひ隊」
- MRTテレビ「おしえて！みやざき」
- UMKテレビ「スーパーニュース」
- NHKテレビ「イブニング宮崎」
- NHKテレビ「昼前ほっとみやざき」
- MCNテレビ「てげテレ」
- MRTラジオ「バリ朝！土曜日」
- MRTラジオ「サンデーラジオ大学」
- MRTラジオ「おはよう県庁です」
- 宮崎サンシャインFM「Pekoのカフェラジ」
- MRTテレビ「つづくさんのどようだよ」
- MRTテレビ「ニュースNext」
- UMKテレビ「のびよ！みやざきっ子」
- NHKテレビ「ニュースWAVE」
- NHKテレビ「ニュースチェック11」
- NHKテレビ「おはよう九州沖縄」

④ 定期刊行物・情報誌への掲載

- 日本博物館協会 機関誌「博物館研究」（毎月掲載）
- 全国科学博物館協議会「全科協NEWS」
- 平成 29 年度宮崎県総合博物館年報 第 47 号
- 宮崎市教育委員会 情報誌「わくわくランド」（夏、冬発行）
- 宮崎日日新聞社「きゅんと」 ○ 鉦脈社「タウンみやざき」
- パームス企画「パームス」 ○ NPO法人みやざきママパパ happy「ミヤマパ」
- リクルートライフスタイル「九州じゃらん」
- 宮崎の子育て応援フリーマガジン「Withplus」
- JTB「楽楽九州」
- るるぶ こどもとあそぼ！九州
- 鉦脈社「じゅぴあ」

⑤ Web メディアによる広報

- | | | |
|--------------------|---------------------|-------------------------|
| ○ BIGLOBE 旅行 | ○ Yahoo!ロコ（地域情報） | ○ 朝日新聞デジタル |
| ○ ロコナビ | ○ 日本旅行 | ○ パナソニックおでかけ旅ガイド |
| ○ 小田急電鉄 | ○ お天気@レシピ | ○ Walkerplus (KADOKAWA) |
| ○ WalkerTouch（アプリ） | ○ ドコモ i コンシェル | ○ ニコンすぼっとサーチ |
| ○ アパホテル | ○ J:COM ZAQ おでかけガイド | ○ J:COM インタラク TV |
| ○ ダイワロイネットホテルズ | ○ CableGate（アプリ） | ○ 大東建託いい暮らしナビ |
| ○ イベントコンシェル | ○ 共同通信デジタルサイネージ | ○ お出かけお天気 |
| ○ goo 地図 | ○ AMIPLE（アミプル） | ○ トラベルバリュー |
| ○ くらしまップ | ○ TEAM BEYOND | ○ オニオンイベント |
| ○ H. I. S. イベント情報 | ○ ナビタイム ジャパン | ○ おでかけ情報サイト「いこーよ」 |

⑥ 本館の刊行物

- 宮崎県総合博物館研究紀要 第 39 輯 ○ 博物館だより「森の通信」 第 64、65 号
- 2018 年 はくぶつかんカレンダー ○ 特別展「むしむし虫展」ガイドブック
- 特別展「日向国の明治維新」ガイドブック

(6) その他の広報

① 4 館見学ツアー

平成 25 年度から実施している県立美術館、県立図書館及び県総合博物館による「3 館見学ツアー」に、平成 28 年度から新たに県立芸術劇場を加えた 4 館が連携して、「4 館見学ツアー」をスタートさせた。この見学ツアーは、見学者が本館に申込を行うことにより 4 館を一度に見学することが可能で、本県の芸術・文化・歴史等の魅力を総合的に観覧することができ、平成 30 年度は、次の 2 団体 142 人の利用があった。

実施日	団体名	参加人員 (人)	内訳 (人)			
			美術館	図書館	博物館	芸術劇場
6月 22 日(金)	西都市立茶臼原小中学校	20	20		20	
11 月 7 日(水)	宮崎市立広瀬小学校	122	122			122
計 (2 団体)		142	142		20	122

② 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信

県庁職員の情報ネットワークに「全庁掲示板」があり、ネットワークに繋がっている知事部局及び教育委員会等の各職員に一斉に情報を発信することが可能である。

この「全庁掲示板」を活用して、前月末に月毎の「イベント情報」や「特別展や講座情報」等を発信した。

③ 一日博物館長

平成30年4月28日(土)、SSP展(日本自然科学写真協会写真展)のオープニングイベントにあわせて、県内の小学生5名を「一日博物館長」に任命し、博物館のイベント等への参加を通して特別展覧会等の博物館の業務を理解してもらい取組みを実施した。主な内容として、SSP展の開会式における代表館長あいさつや全員でのテープカット。また、バックヤードツアーとして、学芸員による解説を受けながら1階収蔵庫の見学等を行った。



収蔵庫見学の様子

④ 総合博物館ひなまつり

平成31年3月2日(土)に1階エントランスホールを活用し、宮崎市立小松台小学校合唱部による合唱や本館展示解説員による「紙芝居」を実施した。



総合博物館ひなまつりの様子

⑤ 観光関係機関等へのPR

本館の特徴である常設展示の無料観覧や広い駐車場を有していることなどを紹介したパンフレット等を作成し、ホテルや観光案内所、教育機関、福祉関係機関など約200施設を直接訪問し説明を行った。

また、ホームページの新たなブース設定や民家園のパンフレットの多言語化、海外向け取材に積極的な対応するなど、海外観光客にも対応した分かりやすいPRに努めた。

⑥ 博物館こどもDAY

平成30年8月10日(金)に1階・2階エントランスホール、常設展示室、特別展示室、研修室において、どこでも博物館で使用する体験型資料や収蔵資料等を使って、子ども向けのイベントを実施した。午前に植物・地質・歴史、午後に動物・考古・民俗のハンズオン資料体験コーナーを設け、子供を対象としたむしむし虫展ギャラリートーク、解説員による自然史展示室の特別ガイドツアーや紙芝居、種子やきのこ、化石をテーマにしたミニ講座、紙芝居を行った。



体験コーナーの様子

2 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を行っている。

(1) 来館者のアンケート調査

入館者の実態や館の運営状況に対する意見を把握し、その集計結果を今後の館の運営に適正に反映させるため、平成 14 年度から入館者個人及び団体に対してアンケート調査を実施している。個人アンケートでは、1 階と 2 階でそれぞれに記入場所を設けて任意で回答をお願いし、団体アンケートでは、代表者に記入をお願いして回収するようにしている。個人アンケート回収数を増やすために、年 3 回のアンケート回収強化期間を設定し、エントランスロビーや民家園にアンケート用紙を置いたりした。その結果、アンケート回収件数は前年度より約 180 件増加した。

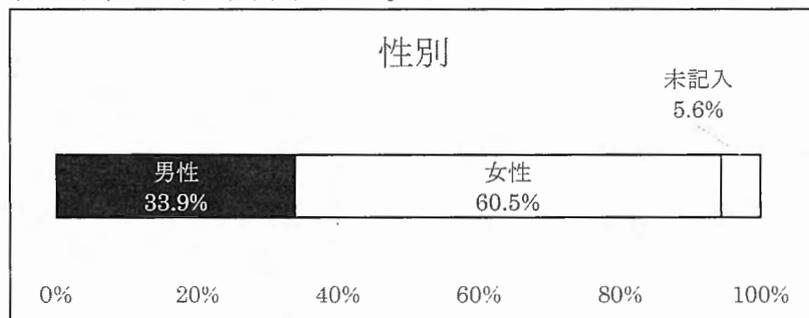
① 個人アンケート(有効回答件数 767 件)

ア 性別・年齢・居住地について

回答者の男女比は、男性が 33.9%、女性が 60.5%と、例年よりもやや男性の割合が増えていた。年齢別割合では、10 代以下が約 68%であった。親子で来場の場合、子どもにアンケートを記入させる傾向があるためだと考えられる。また、回答者の居住地では、宮崎市内が 65.7%で昨年より約 2%高くなった。

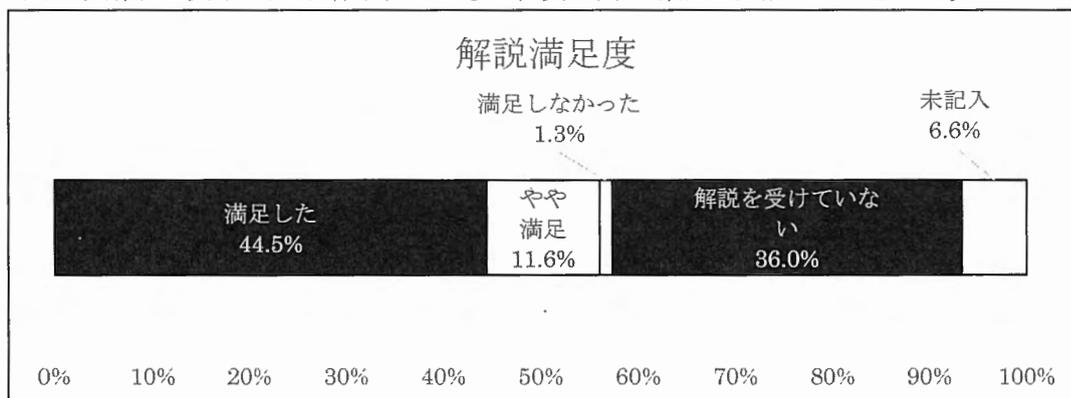
年代の内訳

9 歳以下	37.9%
10 代	29.9%
20 代	7.0%
30 代	7.2%
40 代	3.0%
50 代	3.3%
60 代以上	10.3%
未記入	1.4%



イ 展示解説員の解説について

昨年度と同様、回答者の約半分が展示解説員の解説を受け、ほとんどの方が「満足した」、「やや満足した」と回答された。展示解説後にアンケートへの協力を依頼するなどして、解説員の解説に関するより細かいデータをとっていききたい。また、引き続き解説サービスの周知を図り、解説を受ける方を増やすとともに、質の高い解説を目指していききたい。

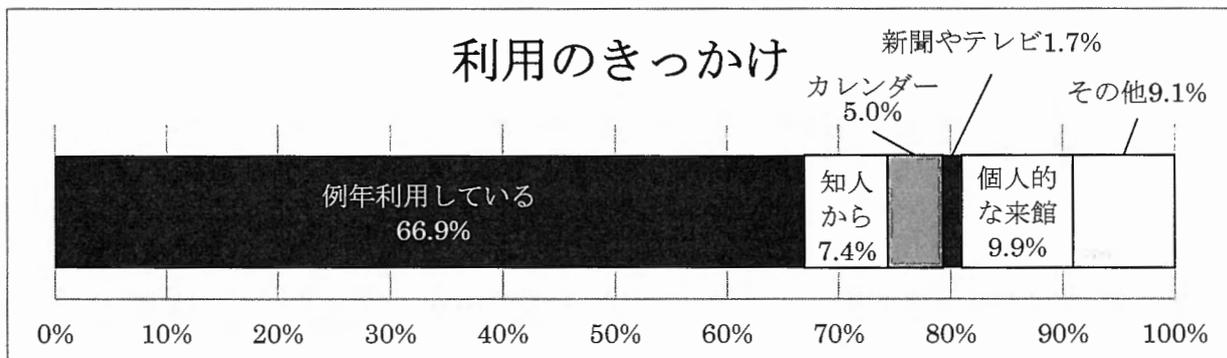


ウ 本館サービスに対する満足度について

サービス（展示資料、設備、職員の対応など）に「満足した」という回答は 84.2%となり、ほぼ昨年度並であった。今後も、資料・設備のメンテナンス、展示解説等をしっかり行いたい。さらなる細かなニーズの把握のために、さらに満足度を高められるよう努めたい。

② 学校団体アンケート（有効回答数 121 件）

来館のきっかけは、「例年利用している」が 66.9%で一位である。昨年度は、58.9%であり、今年度大きくポイントを伸ばしている。しかし、平成 27・28 年度は「例年利用している」が 70%を超えており、今後、博物館を利用していない学校への広報や教育活動に利用したいと思わせるようなサービスを提供することにより、例年利用している割合を更に増やしていきたい。



③ 一般団体アンケート（有効回答数 149 件）

博物館の情報の取得手段については右表の通りで、「ポスター・チラシ」や「ホームページ」が多い。「ポスター・チラシ」は企画の趣旨に合わせて、配布場所や配布数に変化をもたせ、計画的に県内外に配布している。

また、ホームページに関しては、年間 323 回の更新を行った。さらに SNS (Facebook・ツイッター) を利用することにより、特別展や講座の様子、季節ごとの自然や歴史に関する情報などを適宜発信して、当館の魅力を伝えていきたい。今後も様々なツールを使って、情報を発信することで、各年代に対応していきたい。

ホームページ	28.9%
ポスター・チラシ	16.8%
知人の紹介	10.1%
博物館カレンダー	8.7%
看板	5.4%
テレビ・ラジオ	8.1%
新聞	5.4%
情報誌・フリーペーパー	1.3%
その他	15.4%

④ 特別展アンケート（有効回答数 1,547 件）

主催事業の 3 回の特別展では、すべてアンケートを実施した。満足度調査では、「よかった」「大変よかった」を合わせると 86%となり、来場者には概ね好評であった。今後も創意工夫を重ね、魅力ある特別展の開催に努め、満足度を高めていきたい。

特別展の満足度	
大変よい	60.1%
よい	25.9%
ふつう	7.0%
よくなかった	1.6%
未記入	5.4%

(2) 職員の資質向上

① 基本研修

本館は、広く県民が利用する施設であることから、来館者への適切な対応や危機などの事象管理など、博物館職員として基本的な資質が求められている。このため、全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な項目についての研修を年3回実施した。

実施日	場所	研修内容
平成30年4月17日(火)	研修室1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 ・危機管理マニュアルへの対応研修 ・ゴミの分別について ・消防設備研修 ・資料保存研修 (IPMウォッチングの重要性) ・「よろい・かぶと着用体験！」での着付け練習 ・「回想法」研修
9月12日(水)	研修室1等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 ・危機管理研修 ・人権問題、環境問題、情報化(適性推進)研修 ・AED操作研修 ・避難訓練(地震・火災) ・「回想法」研修
平成31年2月26日(火)	研修室1	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸課による調査研究報告会

② 県外研修等

研修会・視察等の名称	研修期間	会場	参加者
特別展に関する資料調査	平成30年 5月26日～5月28日	東京都23区 京都府京都市、京都府八幡市	佐藤
特別展に関する資料調査	平成30年 5月10日～5月11日	大分市美術館、久留米市美術館	岩切
企画展示に関する資料調査	平成30年 8月6日～8月8日	埼玉県立自然の博物館 群馬県立自然史博物館	松田 濱田
特別展に関する資料調査	平成30年 8月24日～8月25日	鹿児島県歴史資料センター黎明館 鹿児島県立博物館	岩切
特別展に関する資料調査	平成30年 9月26日～9月28日	岡山理科大学、鳥取県立博物館 大阪市立自然史博物館	黒木 (秀)
平成30年度学芸員専門研修 アドバンスト・コース	平成30年 11月5日～11月8日	国立科学博物館 (筑波研究施設、上野本館)	竹下
全国神楽シンポジウム2018	平成30年 11月17日～11月18日	國學院大學	野添

特別展に関する資料調査	平成31年 2月5日～2月6日	九州国立博物館 古代出雲歴史博物館	野添
アウトリーチ活動に関する情報収集	平成31年 2月12日～2月14日	東京国立博物館、国立科学博物館 群馬県高崎少年科学館 群馬県立自然史博物館 茨城県自然博物館	岩切
特別展に関する資料調査	平成31年 3月4日～3月6日	東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム 海洋研究開発機構(JAMSTEC) 沼津港深海水族館	外山 竹下
企画展示に関する資料調査	平成31年 3月19日～3月20日	天草市立御所浦白亜紀資料館 御船町恐竜博物館	中山

③ 展示解説員への研修

展示解説員全員を対象に、福祉施設の認知症の高齢者を対象に行う「博物館で思い出を語ろう」事業について、専門家による研修を行った。館外研修では、学芸課職員の案内で展示解説員全員が綾町を訪れ、植物や地質などの実地見学を行い、知識の習得に努めた。

また、経験年数に応じた研修として、今年度展示解説員になった職員に対しては、学芸課の職員から展示の説明を受けた後、自然史・歴史・民俗の各展示室と「昔の道具」について、マニュアルに沿った発表研修を行った。2年目以上の展示解説員に対しては、展示資料や館内案内の外国語版を作成することを念頭に原稿を作成する専門研修を実施した。また、3年を経過した展示解説員に対しては、民俗に関して自己学習した内容を発表する研修を行い、資質の維持向上に努めた。



(3) 危機管理

本館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟【国重要文化財(2)・県有形文化財(2)】を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施している。

① 防災・防火研修

年度当初の4月17日に、全職員を対象に危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等や消防設備に関する研修を実施した。

② 避難訓練

9月1日の「防災の日」を受けて、同月12日に日向灘沖(南海トラフ)を震源とする震度5強の地震及びそれに伴う出火を想定した避難訓練を全員で実施した。

③ 防火訓練

1月26日の「文化財防火デー」に合わせて、同月26日に民家園の周辺の森からタバコの不始末による火災が発生したとの想定で防火訓練を実施し、通報・初期消火・消火栓や放水銃による消火・避難誘導等の訓練を埋蔵文化財センター分館や宮崎市北消防署の職員及び地域の消防団と合同で実施した。



避難訓練（負傷者搬出）の状況



宮崎北消防署及び消防団による消火活動状況



博物館及び埋文センター分館職員による消火活動



訓練終了後の講話

(4) 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

① 設立趣旨

宮崎県博物館等協議会は、県内の博物館、美術館、歴史資料館、動物園等が、共同して広報活動を行うとともに、研修会や視察等を通じて、運営上の課題やその対策の情報共有や意見交換を行うことで、会員館の機能の充実や県民の施設利用の促進を図り、本県の学術文化の進展に寄与することを目的に設立された。平成元年1月に設立された宮崎県博物館等連絡協議会を前身とし、平成13年度に会費制導入など組織体制の見直しを行った際、現在の名称に変更している。

② 会員数

平成31年3月31日現在 県内の37施設

③ 平成30年度の活動状況

ア 役員会、総会及び第1回研修会

期日：平成30年5月25日（金）

会場：宮崎県立美術館

a 役員会・総会

平成29年度の事業報告、決算報告等及び、平成30年度の事業計画、収支予算を協議し、承認を得た。また、災害時相互協力基金の開設やSNSの開始についても承認を得た。

b 第1回研修会

- ・講演会『文化財の予防保存』

講師：稗田優生氏（大分県立歴史博物館 学芸員）

- ・視察『宮崎県立美術館 コレクション展「第1期」』

解説：大野博文氏（宮崎県立美術館 主査）

イ 第2回研修会

期日：平成31年2月15日（金）

会場：門川町立中央公民館、門川町歴史民俗資料館

a 研修会

- ・視察『門川町歴史民俗資料館』

概要説明：川越和子氏（門川町教育委員会 主査）

展示解説：窪田麗子氏（門川町教育委員会 社会教育指導員）

- ・講演『自然災害の備えについて』、図上訓練『自然災害の対応について』

講師：芝崎敏之氏（NPO 法人宮崎防災士ネットワーク 理事長）

ウ 役員館の担当者会

期日：平成31年2月15日（金）

会場：門川町立中央公民館

内容：役員（理事）館の担当者で、平成31年度の事業及び予算案の検討を行った。

エ 機関誌の発行

『宮博協だより 日向路の博物館23号』を平成31年3月に発行した。

オ ホームページ及びSNSの運営

会員館・園の情報を掲載したホームページ (<http://www1.bbiq.jp/miyahakukyo/>) を運営している。本年度はリニューアルを行い、会員館の情報やミュージアムマップ及び機関誌のバックナンバーの閲覧も行えるようにした。情報は随時、更新を行っている。また、SNS(Facebook)での情報発信を開始した。

カ 災害時相互協力

「災害時相互協力等に関する規約」を定め、体制の整備を行った。また、「災害時相互協力基金」を開設し、被災文化財の緊急のレスキューへの備えを開始した。



第1回研修会の様子



第2回研修会の様子

V 宮崎県博物館協議会

1 設置根拠

宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年条例第 43 号）、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条

2 目的

総合博物館及び西都原考古博物館の運営に関し、県民の様々な意見を幅広く活かすため、各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる。

3 委員数 17 人

4 平成 30 年度の開催状況

○平成 30 年 10 月 19 日（金） 総合博物館において開催

- 議 題 (1)平成 29 年度総合博物館の事業報告及び評価について
 (2)平成 29 年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について
 (3)平成 30 年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について

【委員名簿】

（任期：平成 30 年 7 月 30 日～平成 32 年 7 月 29 日）

区 分	氏 名	役 職 名 等	専 門	備 考
学校教育関係者	米 良 郁 子	新富町教育長	教育行政	
	笠 岡 和 代	宮崎カトリック幼稚園長	幼稚園	
	小 園 裕美子	小林市立東方中学校長	小中学校	
	野 田 尚 子	県立清武せいりゅう支援学校長	県立学校	
	堀 田 由美子	尚学館小学校長	私立学校	
社会教育関係者	濱 砂 澄 子	県地域婦人連絡協議会副会長	婦人団体	
家庭教育関係者	湊 智 美	県 P T A 連合会副会長	P T A	
学識経験者	八ッ橋 寛 子	宮崎大学教育学部准教授	植物	副会長
	出 口 智 久	宮崎市フェニックス自然動物園長	動物	
	柴 田 博 子	宮崎産業経営大学法学部教授	歴史	
	前 田 博 仁	宮崎民俗学会会長	民俗	会 長
	高 谷 精 二	南九州大学非常勤講師 宮崎応用地質研究会長	地質	
	柳 澤 一 男	宮崎大学名誉教授	考古	
	安 井 伸 二	県社会福祉協議会副会長	社会福祉	
	富 高 敏 明	みやざき観光コンベンション協会専務理事	観光	
公募委員	後 藤 徹 一	元県立高等学校長 県公立中学校スクールカウンセラー	公募	
	谷 山 敦 子	元編集者・フリーライター	公募	

参考資料

1	平成 30 年度 日誌(抄)	9 9
2	博物館の沿革	1 0 1
3	第 2 期中期運営ビジョン評価表 (平成 29 年度分)	1 0 7
4	県総合博物館関係法規	1 1 3
	(1) 宮崎県総合博物館条例	1 1 3
	(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)	1 1 3
	(3) 宮崎県博物館協議会条例	1 1 4
	(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	1 1 5
	(5) 宮崎県総合博物館処務規程	1 2 4
	(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	1 2 4

平成30年度 日誌(抄)

年月日	事 項
平成30年 4月01日	展示解説(自然史) ※毎週日曜日・祝日 ……以下記載省略
(2018) 4月01日	「紙芝居(時代のひろば)」 ※毎週日曜日・祝日 ……以下記載省略
4月07日	「むかしのあそび(時代のひろば)」 ※第1・3・5土曜日 ……以下記載省略
4月07日	民家園ボランティアによる「囲炉裏の火入れ」(民家園) ※毎週土曜日 ……以下記載省略
4月07日	展示解説(午前:歴史、午後:民俗) ※毎週土曜日 ……以下記載省略
4月09日	特別展「むしムシ虫展」実行委員会担当者会
4月12日	宮竹眞澄 心のふる里人形展 閉幕
4月19日	I PM「目視・清掃(収蔵庫)」 ※毎月1回 ……以下記載省略
4月14日	「クイズラリー(常設展示室)」 ※第2・4・土曜日 ……以下記載省略
4月17日	第1回職員研修(館長講話・コンプライアンス・危機管理マニュアル・ゴミ分別・資料保存)
4月18日	特別展「むしムシ虫展」第1回実行委員会
4月28日	特別展「第38回SSP展」開幕(～6月11日)
4月28日	「一日こども博物館長」
4月28日	特別展「第38回SSP展」開会式
4月29日	博物館講座「磯の生きものを観察しよう」(宮崎市内海 巾着島海岸)
4月29日	展示解説ガイドツアー(ゴールデンウィーク版:昔の道具)
4月30日	SSP展関連講座「生きもの写真のススメ」講師:東木場昭裕氏
5月03日	展示解説ガイドツアー(ゴールデンウィーク版:自然史) 5月4日まで
5月04日	「みどりの日クイズラリー」
5月05日	博物館講座「よろい・かぶと着用体験!」
5月05日	「むかしのあそび拡大版」
5月05日	「紙芝居特別版」
5月05日	展示解説ガイドツアー(ゴールデンウィーク版:昔の道具)
5月09日	佐々木恒春作の鐺の期間限定展示(～7月9日)
5月10日	九州博物館協議会理事会・総会(沖縄県)
5月19日	博物館講座「岬馬を観察しよう」(串間市都井岬)
5月19日	みやざきの昔話公演(椎葉の民家)
5月19日	SSP展5千人目セレモニー
5月20日	SSP展関連講座 プロ写真家東木場昭裕氏の写真教室「SSPの作品にTRY!II」
5月25日	宮崎県博物館等協議会役員会・総会・第1回研修会(県立美術館)
5月28日	第35回国民文化祭宮崎県実行委員会第3回総会(ニューウェルシティ宮崎)
6月01日	第1回みやざきの神楽魅力発信委員会
6月16日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ1-鎌倉時代の伊東氏-」
6月16日	「みやざきの昔話」公演(椎葉の民家)(12月、1月を除く毎月第3土曜日)
6月20日	職場体験学習(宮大附属中学校2年生3名)(～6月21日)
6月23日	博物館講座「学校の授業で博物館を使ってみよう」
7月03日	日本博物館協会参加会(黒田記念館・東京都)
7月04日	全国博物館協議会 全国博物館長会議(文部科学省・東京都)
7月04日	「中部地区愛鳥週間作品コンクール」作品展示(～7月23日)
7月04日	職場体験学習(宮崎東中学校2年生3名)(～7月6日)
7月05日	教育委員・文化財審議会委員による鰐口調査
7月11日	日本刀(旅泊の短刀)の期間限定展示(～9月9日)
7月14日	特別展「むしムシ虫展～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」開会式・内覧会
7月14日	特別展「むしムシ虫展～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」開幕
7月15日	特別展ギャラリートーク 昆虫ラボ「宮崎の昆虫博士たち」 毎週日曜
7月21日	博物館標本講座「昆虫標本をつくろう①」【特別展関連講座】
7月21日	特別展ガイドツアー「昆虫探検隊!ガイドツアー」 毎週土曜日
7月21日	みやざきの昔話公演(民俗展示室)
7月28日	博物館標本講座「昆虫標本をつくろう②」
7月29日	博物館標本講座「押し葉標本をつくろう」
7月30日	博物館標本講座「化石標本クリーニング体験」
8月01日	イオンモール宮崎における特別展の広報活動(～8月2日)
8月03日	特別展「むしムシ虫展～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」入館者2万人目セレモニー
8月03日	第2回みやざきの神楽魅力発信委員会(現地調査)
8月10日	博物館こどもDAY
8月11日	特別展関連講演会「虫のしわざ」
8月13日	特別展「むしムシ虫展～見る・聞く・触れる昆虫のふしぎ～」入館者3万人目セレモニー
8月18日	博物館講座「採取作品の名前を調べる会」
8月22日	空調機不調による臨時休館
8月22日	博物館実習受入れ(～8月31日)
8月25日	博物館講座「ワークショップ フスマの下張り文書はがしに挑戦!」
9月10日	燻蒸休館(～9月21日)
9月12日	第2回職員研修(コンプライアンス、避難訓練等)

年月日	事 項
9月22日	日本刀（国広の脇指）の期間限定展示（～11月19日）
9月22日	エントランス展示「ジャンボきのことヘンテコきのこ」展（～11月18日）
9月29日	博物館講座「みやざきの神楽を学ぼう」
9月30日	博物館講座「行藤山できのこの観察をしよう」（延岡市行藤山）
10月06日	第8回風車フェスタ（博福連携事業）（民家園）
10月11日	どこでも博物館 in 五ヶ瀬（五ヶ瀬町自然の恵み資料館）（～10月14日）
10月17日	特別展「日向国に明治維新展」開会式・内覧会
10月18日	特別展「日向国の明治維新展」開幕
10月19日	宮崎県博物館協議会（宮崎県総合博物館）
10月20日	博物館講座「霧島山で秋の植物観察をしよう」（えびの市えびの高原）
10月21日	出張講座「チリメンモンスターをGetしよう！」（三股町立文化会館）
10月27日	特別展「日向国の明治維新」関連講座 一薩長同盟の成立と展開一
10月27日	博物館講座「宮崎の天然記念物めぐり①～日向岬」（日向市日向岬周辺）
10月28日	県民大学「西米良神楽講座」
10月28日	県民大学「西米良神楽公演」（民家園）
10月21日	特別展ガイドツアー（11月3日、11月10日、11月18日、11月24日、12月1日）
11月04日	どこでも博物館 in 都城（都城市総合文化ホール）
11月04日	博物館講座「男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察しよう」（西都市西都原古墳群）
11月04日	第6回民家園レコードコンサート（民家園）
11月08日	平成30年度第48回九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会（～10月9日）（宮崎市・西都市・木城町）
11月11日	博物館講座「草木染めに挑戦！」
11月11日	県民大学「高千穂神楽公演」（民家園）
11月17日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ2 一幕末維新の延岡藩一」
11月19日	宮崎県高校生の探求活動ポスター展（12月23日）
11月21日	エントランス展示「文化財を守る～民家園『米良の民家』『椎葉の民家』の昔と今」展（～1月20日）
11月21日	佐々木恒春作の鐺の期間限定展示（～1月7日）
11月23日	博物館講座「宮崎の天然記念物めぐり②～猪崎鼻」（日南市猪崎鼻）
11月25日	博物館講座「これからはじめるバードウォッチング」
12月01日	博物館講座「佐土原人形絵付け体験」
12月22日	民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！（民家園）
12月23日	正月飾り製作体験講座（民家園）
平成31年 (2019) 1月09日	日本刀（国広の脇指）の期間限定展示（～3月18日）
1月17日	特別展「むしムシ虫展」第2回実行委員会
1月18日	どこでも博物館 in 日南（日南市立鶴戸小中学校）
1月21日	【休館日】メンテナンス及び特別整理期間（～1月29日）
1月22日	消防訓練（宮崎北消防署及び埋文分館と合同実施）
1月30日	エントランス展示「水中ハンターズ・魅惑の深海魚」（～3月29日）
2月03日	県民大学「生目神楽体験講座」
2月03日	県民大学「生目神楽公演」（民家園）
2月10日	エントランス展示「友の会写真展」（～3月3日）
2月15日	宮崎県博物館等協議会 第2回研修会（門川町）
2月17日	博物館講座「海岸の砂を顕微鏡で見てみよう」
2月21日	「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」開会式
2月22日	「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」開幕（～4月14日）
2月23日	ロビー展示「博物館で雛祭り」（～3月4日）
2月26日	第3回職員研修（総合博物館調査研究報告会）
3月02日	総合博物館ひなまつり（合唱・紙芝居）
3月03日	博物館講座「化石レプリカをつくろう」
3月03日	九州の神楽ネットワーク協議会
3月07日	コンクリーション設置
3月09日	第10回「宮崎の自然」合同研究発表会（県立図書館）
3月09日	「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」ギャラリートーク＆サイン会
3月27日	「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」関連講演会
3月23日	民家園春まつり

※博物館講座に関する記録は56～61頁を参照

2 博物館の沿革

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1951	26年 4月 1日	宮崎県立博物館設置 教育関係使用料及び手数料徴収条例入館料施行 〔大人10円、小人5円、団体3割引(20人以上)〕 県立博物館規則を制定
	6月 1日	宮崎神宮徴古館において開館
	12月 1日	博物館法公布(法律第285号)
1952	27年 4月 1日	県立博物館条例制定 博物館法による登録博物館として県教育委員会登録原簿に登録(登録番号1号)
1953	28年 4月 1日	日高重孝が初代専任館長として就任
1957	32年 4月 1日	県立博物館協議会規則を制定
	11月 1日	博物館協議会委員任命(初・10人)
1958	33年 4月 1日	入館料改訂 〔大人20円、小人10円、団体3割引〕
1962	37年 5月 2日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1967	42年 8月 1日	西都原資料館(分館)設置 西都市大字三宅5670(908.06㎡、古代住居27㎡)
	11月 21日	明治百年記念事業準備委員会が「宮崎県総合文化施設建設」を答申
1968	43年 7月 1日	西都原資料館開館
1969	44年 11月 3日	宮崎県総合文化施設(仮称)の起工式
1970	45年 4月 1日	宮崎県総合文化施設開設準備事務局を設置 事務局長 柳宏吉外職員11人を発令
	10月 11日	閉館記念特別展「宮崎県立博物館館蔵品展」 (前期10/1~11/8 後期11/14~12/9)
	12月 10日	新設博物館移転準備のため休館
1971	46年 3月 2日	宮崎県総合博物館設置 館長 柳宏吉外職員19人を発令 宮崎県総合博物館条例施行 宮崎市神宮町458番の2 7,384.06㎡(博物館・美術館・県民文化ホール)
	3月 2日	入館料改訂 〔大人30円(25円)、中高生20円(15円)、小学生15円(10円)、()は団体〕
	3月 7日	開館式典挙行 「宮中雅楽」特別鑑賞会、記念特別展、記念美術講演会(3.10)等を開催
	4月 1日	総合博物館協議会規則施行
	7月 26日	宮崎県総合博物館協議会委員会(初・20人)
1972	47年 10月 3日	本館・メキシコ文化博物館姉妹館盟約締結式挙行 盟約記念展、記念講演会等を開催
1973	48年 3月 30日	「米良の民家」移築復元工事完了
	4月 7日	天皇・皇后両陛下ご視察
1974	49年 9月 1日	住所表示変更 宮崎市神宮2丁目4番4号となる
1975	50年 8月 1日	入館料改訂 〔大人50円(40円)、高大学生30円(20円)、小中学生20円(10円)、()は団体〕
	8月 31日	「旧黒木家住宅」(昭48.2.23国指定重要文化財)移築復元工事完了
1977	52年 3月 25日	「椎葉の民家」移築復元工事完了
	52年 9月 14日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
	9月 30日	「旧藤田家住宅」(昭48.2.23国指定重要文化財指定)移築復元工事完了
1979	54年 9月 7日	仮収蔵庫増設(199㎡)
	9月 23日	宮崎国体開催記念展を開催(日向の古墳展・ふるさと美術展 10/21まで)
	10月 13日	身障者施設増設(トイレ7.40㎡)
	10月 16日	天皇陛下西都原資料館ご視察

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1981	56年 3月	博物館設置 30周年、総合博物館 10周年 昭和 56年度に記念特別展等を開催
	12月 17日	民家園監視詰所新築 (13.25 m ²)
1982	57年 2月 25日	工作室増設 (43.72 m ²)
	10月 1日	埋蔵文化財センターを総合博物館の構成施設として設置 (1,516.68 m ²)
	10月 2日	埋蔵文化財センター開館記念特別展及び記念公演を開催
1983	58年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 100円(80円)、高大生 60円(40円)、小中学生 40円(20円)、()は団体〕 置県 100年、昭和 58年度に記念特別展等を開催
1986	61年 12月 22日	民家園「椎葉の民家」屋根葺替工事完了
1987	62年 4月 1日	徳仁親王殿下西都原資料館ご視察
1988	63年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 150円(120円)、高大生 90円(60円)、小中学生 60円(30円)、()は団体〕 ポンプ室新築(8.75 m ²)、屋内消火栓改修工事完了
	平成	
1989	元年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 155円(125円)、高大生 90円(60円)、小中学生 60円(30円)、()は団体〕
	11月 14日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 1期分美術棟ほか)
1990	2年 5月 19日	'90 ひむかの祭典参加特別展を開催 ブリヂストン美術館名作展 5/19~6/17 ベルリン国立美術館展 10/26~12/16
	10月 20日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 2期分管理棟)
1991	3年 3月	博物館設置 40周年、総合博物館 20周年 平成 3年度に記念特別展等を開催
	4月 1日	入館料改訂 〔大人 200円(150円)、高大生 120円(80円)、小中学生 80円(50円)、()は団体〕
1992	4年 1月 31日	総合博物館本館屋根防水工事完了(特展室)
	3月 9日	民家園「旧黒木家住宅」屋根葺替工事完了
	10月 1日	埋蔵文化財センター開設 10周年
	10月 3日	埋蔵文化財センター開設 10周年記念講演会を開催
1993	5年 3月 1日	博物館本館屋根防水工事完了(第 4期常設展示室)
	4月 15日	「日向の山村生産用具」重要有形民俗文化財に指定
1994	6年 8月 12日	民家園ポンプ扉取替工事完了
1995	7年 3月 4日	本館考査室冷暖器取付工事完了
	3月 27日	本館宿直室等改装工事完了
	10月 1日	美術部門を県立美術館に移管(10/17 県立美術館開館)
1996	8年 3月 20日	公共下水道接続工事完了
	3月 29日	県民文化ホールエントランス等改修工事完了
	4月 1日	埋蔵文化財センターが博物館から分離
	8年 10月 29日	建設工事安全祈願祭
	11月 6日	博物館職員海外研修 (11/6~11/13) 「中国 雲南省」
1997	9年 7月 13日	西都原古代生活体験館が総合博物館の構成施設として開館
	11月 8日	清子内親王殿下西都原古代生活体験館ご視察
	11月 20日	本館増改築建築主体工事完成
	12月 10日	本館増改築管工事完成
	12月 20日	本館増改築電気工事完成
	〃	本館昇降機設置工事完成
1998	10年 2月 10日	本館タイルカーペット工事完成
	3月 20日	本館屋外トイレ改築工事完成

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
1998	10年 3月 25日	本館植栽工事完成
	〃	本館舗装工事完成
	〃	本館屋外電気工事完成
	〃	本館管理棟部分改修工事完成
	4月 1日	入館料改訂 〔大人 300 円(200 円)、高大生 200 円(100 円)、小中学生 100 円(50 円)、() は団体〕
	4月 30日	総合博物館リニューアルオープン記念式典
	5月 1日	総合博物館リニューアル開館
1999	11年 4月 14日	秋篠宮同妃殿下西都原古代生活体験館ご視察
	10月 22日	清子内親王殿下ご視察
	11月 12日	天皇在位 10 周年記念無料公開
	12月 10日	シンガポール リム国務大臣ご視察
2000	12年 4月 1日	展示解説員制度の導入(非常勤職員 11 人)
	〃	学芸課に学芸班と普及班を設置
	9月 21日	全国風土記の丘協議会開催(～22)
2001	13年 6月 1日	開館 50 周年記念事業実施(記念講演、雅楽の演奏と舞)
	10月 30日	椎葉の民家補修及び補強工事着工
2002	14年 11月 13日	全国博物館大会開催(宮崎市)(～15)
2003	15年 3月 14日	特別展示室シャッター・荷物用昇降機取替え工事着工
	11月 1日	西都原資料館閉館 西都原古代生活体験館が西都原考古博物館へ移管
2004	16年 4月 1日	火曜日休館の試行開始
	4月 17日	西都原考古博物館開館
	4月 25日	原田義昭文部科学副大臣ご視察(全国植樹祭：西都市)
	8月 1日	大韓民国蔚山広域市より感謝牌贈られる (当館所蔵コククジラ頭骨の標本作製のお礼)
	8月 29日	台風 16 号により民家園等被災(米良の民家、旧黒木家等)
2005	17年 3月 14日	民家園災害復旧工事完成
	3月 31日	来客者用自転車置き場設置
	4月 1日	火曜日休館制度化(総合博物館運営規則の改正)
	〃	常設展の観覧料を無料化(教育関係使用料及び手数料徴収条例の改正)
	6月 17日	韓国長生浦鯨博物館より開館記念招待を受ける
	10月 15日	九州国立博物館(太宰府市)開館記念式典出席
	11月 16日	学芸課が教育功労者表彰を受ける
2006	18年 4月 1日	総務課、学芸課に担当制導入(総務担当、学芸担当、普及担当)
	18年 8月 6日	高円宮妃殿下常設展及び企画展(「化石展」)ご視察
	10月 1日	老朽化による諸問題のため平成 19 年 4 月 1 日付け県民文化ホール用途廃止決定 (宮崎県総合博物館条例等の改正)
2007	19年 3月 31日	「民家園利活用構想」作成
	〃	県民文化ホール用途廃止
	19年 9月 22日	特別展「吉村作治の早大エジプト発掘 40 年展」 9/22～11/18 (入館者数 74,951 人)
2008	20年 3月 10日	民家園「椎葉の民家」復元工事完成
	3月 27日	県民文化ホール解体工事終了
	〃	博物館(屋上)改修工事完成
	4月 28日	第 1 駐車場(県民文化ホール跡地)使用開始(70 台)
	12月 25日	民家園フェンス整備工事完了
2009	21年 3月 26日	民家園監視カメラ設置
	7月 17日	特別展「恐竜ワールド 2009」 7/17～9/6 (入館者数 108,966 人)

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
2009	21年 9月	宮崎県総合博物館中期運営ビジョン策定
2010	22年 2月	民家園入園者数年間5万人を記録
	3月	民家園便所新築工事完成
	6月 12日	口蹄疫拡大防止のための臨時休館 6/12～7/26
	7月 31日	特別展「古代カルタゴとローマ」 7/31～9/26 ※口蹄疫の影響により会期を変更して開催
	8月 5日	「賀来飛霞標本」国の登録記念物に指定
2011	23年 5月	第1駐車場舗装工事完成
	7月 16日	特別展「ふしぎ! 昆虫パワー」 7/16～9/4 (入館者数 46,434人)
	7月 19日	台風6号接近に伴う臨時休館
	11月	中央監視装置更新
2012	24年 4月	突風により旧藤田家住宅、米良の民家の茅葺き屋根の一部損壊
	7月 14日	特別展「吉村作治の古代七つの文明展」 7/14～9/2 (入館者数 28,946人)
2013	25年 7月	3館(美術館、図書館、博物館)見学ツアー開始 7/12～3/23 (16団体)
	7月 13日	特別展「よみがえる恐竜時代」 7/13～9/1 (入館者数 59,632人)
	12月 8日	博物館南側の通路を一般公募により「杜の小道」に決定
2014	26年 7月 10日	台風接近による臨時休館(他 8/9, 10/13)
	7月 19日	特別展「ほねほね大集合!」 7/19～8/31 (入館者数 26,802人)
	7月 31日	「教員のための博物館の日 in 宮崎」開催
2015	27年 1月	管理棟改修(窓枠)工事
	3月	宮崎県総合博物館第2期中期運営ビジョン策定
	3月 18日	民家園(旧黒木家、旧藤田家住宅)保存修理工事(工期 H27.3.18-28.2.29)
	5月 21日	九州博物館協議会理事会・総会・懇親会 5.22 現地視察
	8月 18日	特別展「今昔、日本の妖怪」 7/18～8/31 (入館者数 29,781人)
2016	28年 3月 6日	民家園(旧黒木家、旧藤田家住宅)保存修理完成披露
	5月	熊本地震発生(被災文化財レスキュー事業で職員派遣: 10月、11月各1名)
	6月 22日	4館(美術館、図書館、芸術劇場、博物館)見学ツアー開始 6/22～ (11団体)
	7月	本館情報発信を職員ブログから SNS(Facebook・ツイッター)へ変更
	7月 16日	特別展「ワクワ! ふしぎ生物ワンダーワールド」 7/16～9/4 (入館者数 20,787人)
	9月 4日	台風接近による臨時休館
2017	29年 1月	累計入館者 300万人達成
	3月 16日	民家園(米良の民家、椎葉の民家)保存修理工事(工期 H29.3.16-30.1.18)
	7月 15日	特別展「日本南極観測 60周年記念 南極展」 7/15～9/3 (入館者数 20,730人)
	8月 5日	台風接近による臨時休館
	30年 3月 24日	民家園(米良の民家、椎葉の民家)保存修理完成披露
	3月	民家園消火設備改修工事完了
2018	30年 7月 14日	特別展「むしむし虫展」 7/14～9/2 (入場者数 49,411人)
	8月 22日	機器故障による臨時休館
	9月 30日	台風接近による臨時休館
	11月 8日	九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会 11/9 現地視察

【歴代館長名】

歴代	氏名	在職期間	在職年数	備考
初代	野村 憲一郎	昭和26年4月17日～昭和28年3月31日	2年	県教育長兼
2	日高 重孝	昭和28年4月1日～昭和32年6月30日	4年3か月	専任
3	伊集院 竜雄	昭和32年7月1日～昭和32年9月30日	3か月	県教育長兼
4	隈江 信光	昭和32年10月1日～昭和35年12月20日	3年3か月	専任
5	野瀬 良胤	昭和35年12月21日～昭和36年7月15日	7か月	社会教育課長兼
6	柳 宏吉	昭和36年7月16日～昭和51年3月31日	14年9か月	専任
7	園田 穂積	昭和51年4月1日～昭和53年3月31日	2年	〃
8	日高 千文	昭和53年4月1日～昭和55年3月31日	2年	〃
9	黒木 淳吉	昭和55年4月1日～平成元年3月31日	9年	〃
10	山本 一磨	平成元年4月1日～平成5年3月31日	4年	〃
11	児玉 純一	平成5年4月1日～平成7年3月31日	2年	〃
12	安田 天祥	平成7年4月1日～平成9年3月31日	2年	〃
13	原田 重行	平成9年4月1日～平成10年3月31日	1年	〃
14	間瀬田 達	平成10年4月1日～平成11年3月31日	1年	〃
15	黒木 泰邦	平成11年4月1日～平成13年3月31日	2年	〃
16	肱岡 理孝	平成13年4月1日～平成14年3月31日	1年	〃
17	福永 孝義	平成14年4月1日～平成15年3月31日	1年	〃
18	仲田 俊彦	平成15年4月1日～平成15年8月27日	5か月	〃
19	甲斐 景早文	平成15年8月28日～平成17年3月31日	1年7か月	〃
20	藤原 壽太郎	平成17年4月1日～平成18年3月31日	1年	〃
21	高柳 憲一	平成18年4月1日～平成19年3月31日	1年	〃
22	河野 喜和	平成19年4月1日～平成21年3月31日	2年	〃
23	後藤 厚一	平成21年4月1日～平成22年3月31日	1年	〃
24	宮脇 和寛	平成22年4月1日～平成24年3月31日	2年	〃

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
25	長 嶺 泰 弘	平成 24 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日	2 年	専 任
26	富 高 敏 明	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日	2 年	〃
27	長 友 重 俊	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日	2 年	〃
28	黒 木 義 博	平成 30 年 4 月 1 日 ~		〃

3 第2期中期運営ビジョン評価表 (平成29年度分)

評価額の数は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った
 外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

(1) 調査研究

項目	評価指標		29年度実績	内部評価		外部評価		総合評価
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	評価・意見		
①調査研究方針・計画	達成率	100%	70%	学芸課職員が個別に研究テーマを設定して行う個別テーマ研究は、単年度で完了できるものをはじめ、2～5年の複数年にわたるものや水糸系別総合調査研究の内容を兼ねるものなどがある。概ね当初計画に沿って実施できた。また、その成果を研究紀要に公表することができた。 ・小丸川水系に係る総合調査研究については4年計画の3年目であるが、いずれの部門も計画どおりの調査を進めることができなかった。最終年度となる次年度に報告のまとめができれば調査の機会を確保する。	2	①調査研究報告会は、大変充実していると思ふ。学校職員等も含め、もっと幅広く参加を募ってほしいのではないかと考える。 ②学芸課職員が全員、平成29年度の成果を調査研究報告会で報告し、研究紀要に成果を発表された。次年度のまとめに向け今後の進捗に期待したい。 ③小丸川水系に係る総合調査研究については、平成28年度の外前評が1名おられたのは良かった。次年度のまとめに向けて今後の進捗に期待したい。 ④第2期中期運営ビジョン(127～31)として、県総合博物館がフィールドワークを重視した視点で取り組んでいる「水糸系別調査」については、平成28年度の外前評でも意見が述べた。これは、宮崎県の特徴的な自然環境にとつて意義のある調査テーマであり、この調査研究の成果を期待している。研究紀要については、内容の充実・発刊の定例性など、高く評価している。 ⑤年に1回開かれる調査研究報告会では、館外からの参加者の意見や進言があれば有益と思われ、外部からの参加者数が増え、現状については少し残念に思う。 ⑥通常業務と合わせて課題研究に取り組み、かつ研究結果をまとめられて発表されていることはすばらしいと思ふ。 ⑦調査研究方針・計画は3年目の段階で計画通りではないが、最終年度の調査で機会を確保できていること期待している。成果の公表においては計画通り報告しており、展示等にも活かせると思う。特に県内の他の文化施設等と協働して報告会を開催していることは、宮崎県博物館をリードする成果だと思ふ。	3	
	研究紀要の発行	年1回	1回	・3月に15論文からなる「研究紀要第38期」を発行し、本県の自然史、歴史等の解明に一定の貢献が期待できたと考える。 ・今後も各種の調査研究成果を、報告書等により県民に週時適切に提供していく。	3			
②調査研究成果の公表	調査研究報告会	年1回	1回	・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、展示手法や教育普及に関する内容についての報告を行い、博物館協議会委員や県内の他の文化施設職員にも参加いただいた。	3			

(2) 収集・保存

項目	評価指標		29年度実績	内部評価		外部評価		総合評価
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	評価・意見		
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	4,709点	・資料の収集・図書・文庫の収集、デジタルデータの収集・収集・資料の整理・登録、デジタルミュージアム登録数の全ての項目について、年平均の目標値を上回った。 ・内容についても、動物部門ではメガネトリバリアネアゲハやモルフォチョウなどの外国産をはじめとする多数の乾蝨標本、植物部門では世界最大の種子といわれるヤシ科オオヤシロウ「オオミヤシ」の種子、歴史部門では昭和戦前期の日記や書籍などを含む田邊のS.P.コレクションでは稲葉村で唄い継がれてきたひえつひえつ連の資料、民俗部門では種書籍など、今後活用できる価値の高い資料を収集することができた。	4	①収集は数値目標を大きく上回った年度となった。数が多いと整理作業が大変であるが、整理・登録は大変重要である。未登録資料を含め、作業の進捗を期待している。		
	図書・文庫の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,211点	・資料の収集数、資料の整理・登録数については、すでに第2期の目標値は上回っている。今後も引き続き資料の収集の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組みるとともに、未登録資料の整理・登録を行う。	4	②博物館の業務の一つである資料の整理・記録については、地味ではあるものだが、重要な資料の整理・記録に取組まれるように要請する(例:研究紀要第38期 P.5～72の甲殻類標本目録、P.105～109の動物標本)。		
	デジタルデータ(写真・映像等)の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,033点	・資料の収集数、資料の整理・登録数については、すでに第2期の目標値は上回っている。今後も引き続き資料の収集の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組みるとともに、未登録資料の整理・登録を行う。	4	③収集と保存においては、ハード面の制限のあるなかで確保を期待している。		
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	5,722点	・平成23年度からIPM(総合的虫害管理)の考えを取り入れられた資料保存に取組んでいる。平成29年度も全職員によるIPMワークショップ、学芸課担当職員によるトラッキング(害虫モニタリング)を計画しており実施することができた。 ・収蔵庫については、適切な環境を維持するために学芸課職員による自視・清掃を毎月実施した。 ・9月の標蒸期間には、収蔵庫内の標蒸及び展示室内の簡易標蒸(殺虫等発生)を計画しており実施した。その際、常設展示室内の標蒸し、殺虫・殺カビ処理を行った。なお、標蒸期間中は立ち入り禁止区域を設定し、館外でのガス漏れ計測を行うなどの万全の安全対策を行った。	4			
	デジタル・ミュージアム登録数(合計)	1,000点 (年平均200点)	211点	12,890点	3			
②保存	標蒸	年1回	1回					
	簡易標蒸(殺虫等処理)	年1回	1回					
	IPMウォッチング	年12回	12回					

⑤関係機関との連携	職員派遣・招聘 資料の貸し借り 研究会への参画 共催事業等	年20件	153件	・植物、地質、考古、歴史、民俗、教育普及、資料保存など様々な分野の研究や会議、調査等に講師や委員として職員を13件15回派遣し、関係機関等の職員招聘が7件あった。資料貸出し及び調査等で来館された関係機関は19件あり、連携を図った。 ・普及講座において申間市・新富町・日南市各教育委員会と共催で3件実施した。	4	①実績が目標準を上回っており、評価できる。各教育委員会との今後の連携を期待する。
⑥博物館と福祉施設の連携	施設受入件数	年200件	321件	・福祉施設の承継は、展示解説員が主体となって認知症高齢者を対象に実施している「博物館で思い出を語ろう1」事業等の実施効果により昨年度比30団体以上増加し、目標を大きく上回ることであった。 ・今後も、福祉施設のニーズをふまえて事業展開を図っていく。	4	②利用状況を見ると、土曜日や夏季休業中における放課後等デイサービス事業所の利用が多い。障がいのある方達が利用している施設・事業所等との連携を進めていきたい。 ③福祉施設との関係など、団体の受け入れを積極的にしていくことは、良いことだと思う。 ④さまざまな男女団体が出入りしやすくなるために、中心となって動かれる方を効果的に協力者にすることも必要かと、当然やっていると考える。
⑦レファレンス対応	相談件数	年1,000件	971件	・一般560件、マスコミ179件、公共機関124件、学校54件等からの相談が計971件あった。相談件数は昨年度より168件増えたが、目標値には若干届かなかった。 ・レファレンスサービスはホームページなどを通じて周知を図り、問い合わせには適切に対応していきたい。	2	⑤昨年度より実績数も114件増えており、ホームページ等を活用して、県民への周知の取組を進めていかれると相談件数に結びついていくと考える。
⑧研究発表会の開催	研究発表会	年1回	1回	・県内研究団体の発表会を3月に開催し、自然科学系の10団体が報告を行った。参加者は昨年度と同数の69人であった。本年度が9回目の開催となり、自然科学に関する情報発信の場として定着し、一定の役割を果たしている。	3	⑥県内の研究団体の発表会を企画していることは評価できるが、一般の参加者が増えることも期待したい。
⑨博物館友の会の連携	講師派遣 (博物館→友の会) 講師支援 (友の会→博物館)	年5回	講師派遣4回 講師支援6回 計10回	・学芸課職員の講師派遣は、「徳川歴代将軍名宝展」、「第37回SSP展」、「南極展」、「日本刀の美と歴史」展において計4回実施した。 ・また、友の会会員による博物館講座支援は、「よろい・かぶと着体験！」など6回あった。 ・友の会まつりにおいては、館職員と友の会会員による展示を行い、友の会と連携して開催した事業も展開できた。	4	⑦博物館友の会の活動を広く県民に広報することで、会員も増え互いの活動が充実すると考える。

(5) 情報発信		外部評価		評価
項目	評価指標	内部評価	総合評価	
	内容	評価内容及び改善策	個別評価	評価
①情報発信の充実	29年度実績 目標値 年2回 年120件	・広報誌「森の通信」を6月と9月の2回(62号・63号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布することにも、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報発信を報道機関に提供した62件、報道機関からの問い合わせで番組や記事作成につながった情報提供は179件の計241件であった。 ・今後は広報年間計画の作成と進行管理や広報戦略の見直しなどを行い、情報発信に努めていきたい。	4	①報道機関からの問合せに対する回答である「情報提供」は、受け身の業務であり、積極的な報道機関への情報提供である「報道処理」とは性格が異なるため、評価指標を分けた方がよいのではないかと。 ②さまざまな工夫により、関心度は上がっていると思う。積極的な取り組みを期待する。
②ホームページの充実	更新回数 アークセス件数 年 500,000件	・博物館ホームページへのアークセスは、年680,006件となり、昨年度より17万件以上増え、目標値を達成できた。これは、ホームページのこまめな更新に努め、更新回数が昨年度の2倍以上になったこと、さらにSNS(Facebook、ツイッター)において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。 ・引き続き、ホームページの更新情報での情報提供、SNS(Facebook、ツイッター)を利用したタイムリーで博物館の身近な話題提供など、情報発信に取り組んでいきたい。	3	③ホームページの充実については、アークセス数が目標値を大幅に上回っており、特筆に値する。更新回数が昨年度より2倍以上に増え、また画面も見やすく、努力の跡がうかがえる。 ④ホームページの更新、フェイスブック、ツイッターなどのSNSを活用した情報発信を行うなど、さまざまな工夫をしながら取り組んでいく。情報発信の回数も多くなり、常に最新の情報提供に努めている姿勢が見られ、今後も努力を続けていきたい。

(6) 経営

項目	評価指標		29年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	2,224件	3	3	<p>・アンケートの収集件数については、2月から3月にかけて強化週間を設定するなど回収に努めるとともに、特別展の回収数も増えたため、目標値をクリアすることができた。さらに、本館サービスに対する満足度は84.1%となり、目標を達成できた。</p> <p>・今後もアンケートを積極的に回収する機会を増やすなど、利用者の意見収集に努め、館の運営に活かしていきたい。</p>	<p>①来館者アンケートでは目標値を超え、サービス満足度も高いことから、館員のご努力がうかがえる。今後も努力を期待したい。</p> <p>②アンケートは、利用者の博物館に対する感想や評価を把握する数少ない手段であるため、収集件数を増やす努力をしていただきたい。</p>
	満足度	70%	84.1%				
②職員の資質の向上	—	—	<p>①基本研修</p> <p>②県外研修等</p> <p>③展示解説員研修</p>	3	3	<p>・全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス、危機管理運営について4月、9月に実施するとともに、3月には学芸課職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。</p> <p>・県外研修として、関係職員が学芸員専門研修アドバンスコース、技術解説員の研修として、壺崎市・川南町・木城町の自然や史跡を見学するなど、各職員が様々なケースに適正に対応できるような環境づくりに努めた。</p> <p>・今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。</p>	<p>③博物館の基本は人材であり、全職員を対象とした基本的な研修や学芸員・解説員の資質向上のための研修を充実させていきたい。</p>
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	4	4	<p>・年度当初の4月に、全職員を対象とした危機管理マニュアルに基づき危機事象への対応方法等の研修、9月には「防災の日」に合わせ、日向灘沖を震度5強の地震を想定した避難訓練と危機箇所の確認等、1月には理機文化財センター分館職員と合同で民家園において「文化財防災デー」に合わせた防火訓練を実施するなど、職員の危機管理意識やスキルの維持・向上を図った。</p> <p>・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。</p>	<p>④南海トラフによる地震や津波に対する来館者の誘導等の避難訓練も行って欲しい。</p>

(7) 全体を通じての意見

項目	評価指標		29年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価・意見	評価
全体						<p>①評書の数値は考古博物館と統一された方がよいと思われる。</p> <p>②各分野で目標値設定にあまりこだわり過ぎる必要はないと思うが、いかがだろうか。</p> <p>③民家園の保存修理工事が完了したのは大変良かった。次に博物館本体の建替えを検討される時期を迎えているのではないかと推察する。貴館は平成10年にリニューアルされたが、随所に建設当初である昭和46年の設備のままのところを残している（たとえば来館者も利用する地階トイレは昭和そのもので、県外からの来客を案内することが躊躇われる）。加えてリニューアルからもうすでに20年が経過して、最新の保存技術等を十分に活用できるのか、また様々な設備が経年劣化を起しているのではないかと懸念している。このような設備は、博物館にとっても最も大切な取壊資料の展示・保存管理・活用にも重大な影響をもたらしかねないのではなかろうか。自治体の財政事情は厳しいであろうが、放置しては改善されないと予想するので、県民の大切な文化資源を将来に継承するため、提案しておきたい。</p>	

4 県総合博物館関係法規

(1) 宮崎県総合博物館条例

昭和 45 年 12 月 23 日

宮崎県条例第 41 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条第 1 項の規定に基づき、総合博物館を設置する。

2 総合博物館の位置は、宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号とする。

(使用料の徴収)

第 3 条 総合博物館の資料を観覧し、又は施設を利用しようとする者は、別に条例で定めるところにより使用料を納付しなければならない。

(委任)

第 4 条 この条例に定めるもののほか、総合博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、県教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

附 則（平成 18 年 10 月 1 日条例第 62 号）

この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)

平成 13 年 3 月 29 日

宮崎県条例第 23 号

(趣旨)

第 1 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 225 条の規定に基づく使用料及び同法第 227 条の規定に基づく手数料で宮崎県教育委員会の所管に属するものの徴収については、他の条例に特別の定めがある場合を除くほか、この条例の定めるところによる。

(使用料)

第 2 条 次の各号に掲げる公の施設を利用する者は、それぞれ当該各号に掲げる名称の使用料を納めなければならない。ただし、教育関係の公の施設に関する条例（昭和 39 年宮崎県条例第 36 号）第 6 条第 1 項の規定により、教育関係の公の施設を管理する指定管理者が、当該教育関係の公の施設の利用料金を収受している場合は、この限りでない。

(1)～(4) 省略

(5) 宮崎県総合博物館 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料

(6)～(8) 省略

2 前項各号に掲げる使用料の金額その他その徴収に関する事項については、それぞれ別表第 1 に定めるとおりとする。

別表第 1(第 2 条関係)

使用料	区分		単位	金額	納期	備考
5 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料	総合博物館観覧料	特別展示	宮崎県教育委員会がその都度定める単位	宮崎県教育委員会がその都度定める額	宮崎県教育委員会がその都度定める時期	
	総合博物館使用料	博物館特別展示室	1日につき	24,210 円	使用許可の時	「入場料等」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず入場することに関し徴収される入場の対価その他これに類するものをいう。
		入場料等を徴収する場合	同	18,160 円		
		入場料等を徴収しない場合				

(3) 宮崎県博物館協議会条例

平成 15 年 9 月 26 日

宮崎県条例第 43 号

(設置)

第 1 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、宮崎県総合博物館に宮崎県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の運営に関し、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第 2 条 協議会は、委員 20 人以内で組織する。

(委員)

第 3 条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、県教育委員会が任命し、又は委嘱する。

2 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 協議会に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、それぞれ委員の互選によってこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第 6 条 協議会の庶務は、宮崎県総合博物館において処理する。

(委任)

第 7 条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則（抄）

(施行期日)

1 この条例は、平成 15 年 11 月 1 日から施行する。

(協議会の委員に関する経過措置)

3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の宮崎県総合博物館条例第 6 条に規定する委員に任命され、又は委嘱されている者は、第 3 条第 1 項の規定により任命され、又は委嘱されたものとみなす。この場合において、当該委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 16 年 7 月 25 日までとする。

附 則（平成 24 年 3 月 29 日条例第 32 号）

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則

昭和 46 年 3 月 2 日
教育委員会規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 総合博物館は、その目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史・民俗・自然科学及びその他の資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 歴史・民俗・自然科学の展覧会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (3) 歴史・民俗・自然科学の資料の専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 特別展示室を、県民の文化活動に使用させること。

(組織)

第 3 条 総合博物館に、次の課を置く。

総務課

学芸課

(分掌事務)

第 4 条 前条の各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設、設備の管理運営に関すること。
- (6) 宮崎県博物館協議会に関すること（宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年宮崎県条例第 43 号）第 6 条に規定する協議会の庶務及び総合博物館の運営に関することに限る。ただし、委員の任免を除く。）。
- (7) その他館務に関し、他課の所管に属さない事項に関すること。

学芸課

- (1) 資料の収集、整理、保管、修理及び展示に関すること。
- (2) 資料に関する標本、模写、模型、写真、文献、図表、フィルム及びレコード等の作成に関すること。
- (3) 資料の利用及び展示品の解説並びに指導に関すること。
- (4) 展覧会、講習会、研究会を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 展示及び保管の専門的、技術的な調査、研究に関すること。
- (6) その他学芸又は文化に関する他の博物館との連携及び情報交換に関すること。

(職の設置)

第5条 総合博物館に、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
館長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副館長 (2人)	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
学芸員	上司の命を受けて、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。
専門技師	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする技術に従事する。
主任技師	上司の命を受けて、複雑な技術に従事する。
技師	上司の命を受けて、技術に従事する。

2 前項に規定する副館長の職務の担当区分は、一人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副館長が館長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副館長

第2順位 業務担当の副館長

4 第1項に規定する職のほか、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
参事	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする総合博物館の特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は総合博物館の特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

5 第1項に規定する館長の職は、非常勤とすることができる。

第6条 前条に規定する職のほか、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間)

第7条 総合博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。

2 館長は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

(休館日)

第8条 総合博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。）
- (2) 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。）
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
- (4) 特別整理期間（あらかじめ、館長が定めて公示する期間）

2 館長は、必要があると認めるときは、臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。

(施設の使用申込み)

第9条 特別展示室を利用しようとするものは、使用期日の30日前までに、特別展示室使用申請書（別記様式第1号）を提出して、使用許可を受けなければならない。

(使用許可)

第10条 前条の規定による使用許可は、特別展示室使用許可書（別記様式第2号）を当該申請者に交付して行うものとする。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。

- (1) 使用申請書の内容に偽りがあるとき。
- (2) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 集団的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。
- (5) その他管理運営上支障があると認められるとき。

(使用者の遵守事項)

第11条 使用を許可されたものは、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。
- (2) 公の秩序又は善良の風俗を乱さないこと。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (4) 他人の迷惑となるような行為をしないこと。
- (5) その他条例、規則及び館長の指示に従うこと。

(許可の取消し等)

第12条 使用者が第10条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は前条の規定に反する行為があるものについては、特別展示室の使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前項の取消し等によって使用者に損害が生じても、県は、その損害の賠償の責を負わないものとする。

(使用後の検査)

第13条 特別展示室の使用を終えて原状に回復したものは、直ちに、館長に報告して検査を受けなければならない。

(入館制限等)

第14条 館長は、総合博物館の管理運営上支障があるとき、その他入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒絶することができる。

- (1) 総合博物館における秩序又は風紀を乱す行為
- (2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為

2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 前項第 1 号及び第 2 号に掲げる行為をしないこと。
- (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。
- (4) 指定する場所以外において喫煙又は飲食をしないこと。
- (5) その他関係条例、規則及び総合博物館の係員の指示に従うこと。

3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。

(資料の館内利用)

第 15 条 資料を学術上の研究のため特に利用しようとするものは、館長の承認を受けなければならない。

(図書資料の複写)

第 16 条 図書資料の複写は、著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）第 31 条の規定に基づき、利用者の調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書（別記様式第 3 号）を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

- (1) 技術的に複写が困難な図書資料
- (2) 複写することによって損傷のおそれのある図書資料
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、館長が複写することを不相当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責任は、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

第 17 条 前条の規定により、図書資料の複写を依頼しようとする者は、当該図書資料の複写に要する費用を負担しなければならない。

2 前項の図書資料の複写に要する経費は、次の表に定める額とし、同費用は前納しなければならない。

区 分	単 位	金 額
電子複写（単色のもの）	複写 1 面につき	10 円

(資料の館外利用)

第 18 条 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出承認申請書（別記様式第 4 号）を提出し、館長の承認を受けなければならない。

2 前項の資料の館外貸出しを受けることのできるものは、次のとおりとする。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は県教育委員会が指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和 22 年法律 26 号）第 1 条に規定する学校
- (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
- (6) その他教育長が適当と認めるもの

3 前項の貸出期間は、30 日以内とする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

4 前項の規定にかかわらず、館務の都合により必要があるときは、資料の貸出期間中であっても、当該資料の返還を求めることができる。

(弁償)

第 19 条 入館者、使用者又は利用者が、資料、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって弁償しなければならない。

(資料の選定及び評価)

第 20 条 資料の選定及び評価に当たっては、埋蔵文化財価格評価員に関する規程（昭和 44 年 3 月 15 日文化庁長官裁定）に準じ学識経験者の意見を徴することを原則とする。

(資料の寄贈又は寄託)

第 21 条 資料を寄贈又は寄託しようとする者は、資料寄贈、寄託申込書（別記様式第 5 号）により申請しなければならない。

2 前項の寄贈又は寄託が決定したときは、寄贈者又は寄託者に資料受領・預書（別記様式第 6 号）を交付するものとする。

3 寄贈資料は、寄贈者の氏名、寄贈年月日を記録し、永くその厚志を伝えるものとする。

4 寄託資料は、総合博物館所蔵の資料と同一の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、補償の責を負わないものとする。

5 寄託資料は、寄託者の申請又は総合博物館の都合により返却することができる。

(委任)

第 22 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 (抄)

(施行期日)

1 この規則は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

：

附 則 (平成 23 年 7 月 21 日教育委員会規則第 5 号)

この規則は、平成 23 年 8 月 1 日から施行する。

特 別 展 示 室 使 用 申 請 書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所

電 話

フリガナ
申請者 氏 名

性別（男・女）

生年月日 年 月 日

〔 法人にあつては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名 〕

関係条例規則を遵守しますので、下記のとおり使用を許可されるよう申請します。

記

行 事 の 名 称					
使 用 の 日 時					
使 用 の 区 分					
使 用 の 目 的					
共 催 者					
入 場 料 等	関係者	整理券	無料	有料（	円）
内 容					
※ 許 可	第	号	年	月	日
※ 使 用 条 件	宮崎県総合博物館特別展示室利用の手引きによる				
館 長	副 館 長	課 長	担当リーダー	※使用料	特 別 展 示 室

（注）申請者が法人にあつては、別紙「役員名簿」を提出してください。

図書資料複写申込書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者 住所
氏名

〔 法人にあっては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名 〕

下記注意事項を遵守し、図書の複写を申請します。

複写目的	調査・研究（ ）	
図 書 資 料 名	複 写 箇 所	
※ 合 計	枚 数	金 額

(注) 1 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）の規定に抵触しない限りにおいて行います。

2 ※印のある欄は、記入しないでください。

資料館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所
申請者 氏名

印

品 名	数 量	形 状	許 可 条 件	備 考

上記申請のあった館外貸出について承認します。

年 月 日

宮崎県総合博物館長

印

様式5号(第21条関係)

資料 寄贈 申込書
寄託

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所

氏名

印

次の目録に記載の資料を貴館に寄贈
寄託 したいので、申込みいたします。

目 録

品名	数量	形状	解説

(5) 宮崎県総合博物館処務規程

昭和 55 年 3 月 31 日
教育委員会教育長訓令第 4 号

(報告)

第 1 条 館長は、遅滞なく、次に掲げる事項を教育長に報告しなければならない。ただし、第 2 号に掲げる事項については、翌月の 10 日までに報告しなければならない。

- (1) 総合博物館の臨時の開館日又は休館日及び開館時間の臨時の変更に関する事。
- (2) 毎月の博物館資料の利用状況及び事業概要に関する事。
- (3) 博物館資料の受託及び返還状況に関する事。

(防災計画)

第 2 条 館長は、年度始めに防災計画を作成し、その概要を計画書（別記様式）により、4 月末日までに教育長に提出しなければならない。

附 則

この訓令は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 1 日教育委員会教育長訓令甲第 3 号抄）

(施行期日)

- 1 この訓令は、公表の日から施行する。

(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱

平成 3 年 3 月
館長裁定

(趣 旨)

第 1 条 この要綱は、宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号、以下「規則」という。）第 22 条の規定により宮崎県総合博物館（以下「博物館」という。）所蔵の資料（以下「資料」という。）の取り扱い等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第 2 条 この要綱において規則第 15 条に規定する「資料の館内利用」とは、博物館内における資料の調査又は複製（図書の複写、写真撮影を含む。以下、同じ。）並びに文化財としての民家資料の利用（民家園全体も含む）をいい、規則第 18 条に規定する「資料の館外利用」とは、博物館外における資料の展示、調査又は複製をいう。

(館内利用承認)

第 3 条 館長は、次に掲げるものに、必要な条件を付して規則第 15 条の規定による館内利用を承認するものとする。なお、図書資料については、承認を要しない。

- (1) 教育、学術又は文化に関する事業の用に供することを目的とする国、地方公共団体及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条に規定する教育機関
- (2) その他館長が特に必要があると認めるもの

- 2 資料の館内利用をしようとする者は、「資料館内利用承認申請書」（様式第 1 号）を提出しなければな

らない。この場合において、寄託資料又は著作権のある資料の館内利用をしようとする者は、寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。

- 3 民家資料の利用は、利用期日の10日前までに「民家資料利用承認申請書」（様式第2号）に利用計画書を添付し提出しなければならない。ただし、写真撮影等軽微なものについてはこの限りでない。
- 4 民家資料の利用承認は、「民家資料利用承認書」（様式第3号）を交付し、「民家資料利用受付台帳」（様式第4号）に記録する。

（館内利用時間）

第4条 利用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、規則第8条の規定による休館日は除く。

（館内利用の制限）

第5条 館長は、規則第15条の承認を行うにあたり、次の各号の一に該当しないと認める場合に承認するものとする。

- (1) 申請書の内容に偽りがあると認められるもの
- (2) 展示又は保存上支障があると認められるもの
- (3) 寄託者又は著作権者の承諾が得られていないもの
- (4) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあると認められるもの
- (5) 火気の使用（但し、館長の許可を受けた場合を除く）及び営利活動に該当すると認められるもの
- (6) その他館内利用が適当でないと認められるもの

（館内利用者の遵守事項）

第6条 利用を承認された者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 承認された利用の目的又は条件に違反しないこと
 - (2) その他館長の指示に従うこと
- 2 前項の規定に反する行為がある者については利用を取り消し、又は中止させることができる。
 - 3 取り消し等によって利用者に損害が生じても、県はその損害の賠償責任を負わないものとする。

（館内利用の場所）

第7条 資料の館内利用は、館長が指定した場所で原則として博物館職員立会の下に行うものとする。

（館内利用資料の返還）

第8条 資料の館内利用をしたものは、博物館職員による検査を受けた上で、当該資料を返還しなければならない。

（館内利用に要する費用）

第9条 資料の館内利用に要する費用は、利用した者が負担するものとする。

（館外利用承認）

第10条 館長は、規則第18条の規定により資料の館外貸し出しを承認するときは、必要な条件を付するものとする。

- 2 規則第18条で規定する学校が、資料の貸出しを受けようとするとき、館長が事前に決裁したリストにある資料については、学芸課長の決裁で貸出しできるものとする。
- 3 寄託資料又は著作権のある資料（複製をする場合に限る）の館外貸出しを受けようとする者は、「資料館外貸出承認申請書」（宮崎県総合博物館管理運営規則様式第6号）に寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。
- 4 第5条、第6条、第8条及び第9条の規定は、資料の館外貸出しについて準用する。

この場合において、これらの規程中「館内利用」とあるのは「館外貸出し」と読み替えるものとする。

(複製物の掲載等の許可)

第 11 条 館長は、資料の利用者が、資料の複製物を展示し、又は出版物等に掲載しようとするときは、次に掲げる条件を付して許可するものとする。

(1) 複製物の著作権は、博物館に帰属させること

(2) 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、「所蔵者名」を明記すること

(3) 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること

(資料受入委員会の設置)

第 12 条 寄贈及び寄託による資料の受入れの事務を円滑かつ適正に行うために、博物館内に「資料受入委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、館長及び副館長のほか、館長が指名した博物館職員をもって構成する。

(資料受入れの決定)

第 13 条 館長は、規則第 21 条第 1 項の規定による資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、「資料受入委員会審議資料」(様式第 5 号)を作成させるものとする。

2 委員会は、「資料受入委員会審議資料」に基づき、当該資料の受入れについて協議するものとする。

3 館長は、前項の協議に基づき、当該資料を受入れるかどうかの決定をするものとする。

(寄贈資料等の管理)

第 14 条 館長は、寄贈資料又は寄託資料を受入れたときは、台帳に登録し、管理するものとする。

2 館長は、寄贈者に対し礼状等を贈り、感謝の意を表するものとする。

3 寄託資料の寄託期間等必要な事項は、寄託者と協議の上、定めるものとする。

(資料の廃棄)

第 15 条 館長は、次に掲げる場合に限り、資料を廃棄できる。

(1) 破損等により資料価値を失ったもの

(2) その他廃棄が相当と認められるもの

(その他)

第 16 条 この要綱に定めるもののほか、事務処理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 3 年 4 月 1 日から適用する。

:

附 則

この要綱は、平成 30 年 10 月 18 日から適用する。

(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用

宮崎県総合博物館資料取扱要綱第16条に基づく資料の館内利用の取扱いについては、以下のとおりとする。

1 第3条（館内利用承認）について

民家資料の利用については、次のとおりとする。

(1) 対象者

個人又は団体（法人格の有無を問わない）

(2) 申請内容

次のいずれかに該当するものとする。

- ① 伝統文化や民俗の伝承などの事業の実施により、参加者の民家園に対する理解の促進が期待できるもの
- ② 博物館で実施される事業に関するものなど民家園の啓発に資すると認められるもの

(3) 利用期間

民家園は、広く一般県民の利用に供することを目的としていることから、原則として3日以内とする。

(4) 利用人数

(3)と同様の理由により、原則として5人以上の利用が見込まれる事業とする。なお、事業への一般来園者の参加の可否を問わない。

(5) 対象施設

文化財保護及び一般来園者の見学先の確保の観点から、原則として県指定文化財の2棟のいずれかとする。また、利用人員や事業内容から判断して、必要最小限の棟又は間の利用を認めるものとする。

(6) 飲食

申請書の利用承認条件「敷地内での飲食は事前に許可を受けること」については、次のとおりとする。

- ・ 飲食物については、事業内容に伴い必然性のあるものに限る。
- ・ 火気による調理は不可（料理の持ち込み及び電気調理器による加温は可）。また、飲食物をこぼして畳を汚した場合は、利用者において直ちに拭き取ることとし、利用によって原状に回復し得ない損害が生じた場合は、利用者が賠償責任を負うものとする。

(7) その他

- ・ 民家園の適切な利用と利用方法の周知のため、事業を公開するものとする。

2 第5条（館内利用の制限）について

第5号中「営利活動に該当すると認められるもの」について、事業実施に当たり実費程度の徴収を行うものは、営利活動には該当しない。

資料館内利用承認申請書

平成 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所
申請者
氏名 印

資料名	
利用日時	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
利用目的	
利用内容	1 閲覧のみ 2 筆写 3 模写 4 拓本(乾・湿) 5 撮影(写真・ビデオ) 6 コピー 7 法量測定 8 その他()
許可条件	1 利用にあたって、鉛筆以外の筆記用具は使用しないこと。 2 当該資料については、無断で他への転用をしないこと。 3 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、所蔵者名を明記すること。 4 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること。 5 その他()

上記申請のあった館内利用について承認します。

平成 年 月 日

宮崎県総合博物館長 印

民家資料利用承認申請書

平成 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者	住 所
	団 体 名
	(代表者) 氏名
	印
	電 話 ()

下記のとおり利用を承認されるよう申請します。

行事の名称	
利用目的	(事業計画書等添付)
利用期間	平成 年 月 日 時 分から 平成 年 月 日 時 分まで
利用区分	A・旧黒木家 B・旧藤田家 C・米良の民家 D・椎葉の民家 E・建物を除く敷地
利用予定者数	主催者数 () 人 参加者数 () 人 合計 () 人
チラシ配布・ 看板設置	する しない (図案、計画書等添付)
利用承認条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用の目的、条件に違反しないこと。 2 館長の指示に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・開始前及び終了後は博物館へ必ず報告し、終了後は検査を受け、原状に回復すること。 ・展示、建物の保存に影響を及ぼす行為をしないこと。 ・公の秩序又は風俗を乱す行為をしないこと。 ・火気の使用及び営利活動をしないこと。 ・敷地内での飲食は事前に許可を受けること。 ・監視員を必要とする場合は利用者が手配し配置すること。 ・看板、チラシ、照明器具を設置するときは博物館の許可を得て設置すること。 ・大声をあげたり、大きな音を出したりしないこと。 3 規定に反する行為があるものは利用を取消し又は中止させることができる。 4 取消し等によって利用者に損害が生じても県はその損害の賠償責任を負わない。 5 不測の事態が生じたときは直ちに博物館へ報告すること。また盗難、事故等には博物館は一切責任を負わない。 6 その他 ()

<平成31年度 利用案内>

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 ○毎週火曜日（ただし8月13日は開館）
○国民の祝日の翌日
（土曜日、日曜日又は休日と重なるときを除く、ただし3月22日は開館）
○年末年始（12月28日～1月4日）
○特別整理期間（6月10日～14日）
○燻蒸による臨時休館（9月2日～13日）
※民家園は9月13日～19日休園
○館内メンテナンス期間（1月20日～1月28日）

入館料 無料（平成17年4月1日より）
※なお、特別展示会の観覧料はその都度定めます。

宮崎県総合博物館年報 No.48

発行 平成31年4月1日

編集・発行者 **宮崎県総合博物館**

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号

TEL 0985(24)2071

FAX 0985(24)2199

<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

印刷 ワークステーション やじろべえ

〒880-0951 宮崎市大塚町権現前 874 番地 1

TEL 0985-48-2720